

第2章 発掘調査の内容

第1節 中央トレンチの発掘調査と出土遺物

1 はじめに

第3章第1節で記したように、中央トレンチは崖線上東側に設定した南北8m、東西6mの調査区であり、その中をI～IV-1～3区の12個の2×2mグリッドに区画した(図35)。発掘の結果、貝層はⅢ区の中央で確認され、それより南のI・Ⅱ区へと広がりを見せていることが分かった。調査当初、各区の間には土層観察用の畦を残していたが、I-2・I-3・Ⅱ-2・Ⅱ-3区はそれを撤去し、貝層を全面的に露出して発掘調査した。

早稲田大学の発掘トレンチがI-1・Ⅱ-1区では西寄りに、Ⅱ-3区からは区画内のほぼ全面にわたって確認された。さらに東西トレンチの23G区でも確認された。全体図を重ね合わせた結果、それぞれJトレンチ、Hトレンチ、Nトレンチの可能性が高いと判断されるが、Hトレンチの南に存在するはずのGトレンチが不明瞭であることと、JトレンチとHトレンチの向きが直角になっておらず、断定は困難であった。

調査日数や期間などを考え、Ⅱ-3・Ⅲ・Ⅳ区は貝層が確認された面で発掘を中止し、I-1・I-2・I-3・Ⅱ-1・Ⅱ-2区に調査の主力を注いだ。I-1区とI-2区の間の土層観察用の畦は最後まで残して埋め戻した。

貝層を平面的にもっともよく捉えることができたのは、I-2・I-3区である。第3章第1節で記したように、貝層の堆積における単位を確認する意味では、ある程度貝層露出面積の広いこの区画が理想的であった。その後の整理作業も、この区画を中心におこなった。したがって、ここではI-2・3区を中心に記述を進め、それ以外は簡単に触れるにとどめる。

2 I-1・Ⅱ-1区の調査と出土土器

(1) 土層・貝層堆積状況(図36・37・41)

貝層は、グリッドの西半に早稲田大学のトレンチと考えられる掘り込みによって削られている。さらにこのトレンチの東側には、両区にまたがって貝層を斜めに削り取るように攪乱が及んでいた。貝層の厚さは、I-1区が15～40cm、Ⅱ-1区は約80cmであった。貝層の上面のw攪乱は、Ⅱ-1区の南側から南に下がりながらI-1区に及んでおり、I-1区の北から1mほどの位置からはそれが大きく及び、貝層の厚さも薄くなっている。また、早稲田トレンチの東側に広がる攪乱によって、貝層が斜めに削られている。

貝層を載せる土層は、南北方向はほぼ水平であり、東西方向は東から西に向かってわずかに下がりながら傾斜している。その結果、貝層も東から西に下って傾斜堆積している。それは、西側の谷に向かって傾斜していくという、I-2・I-3区からの傾向が連続していることを示す。

貝層はI-1区では3001～3090層の90枚が、Ⅱ-1区では1～88層の88枚が捉えられた。各層

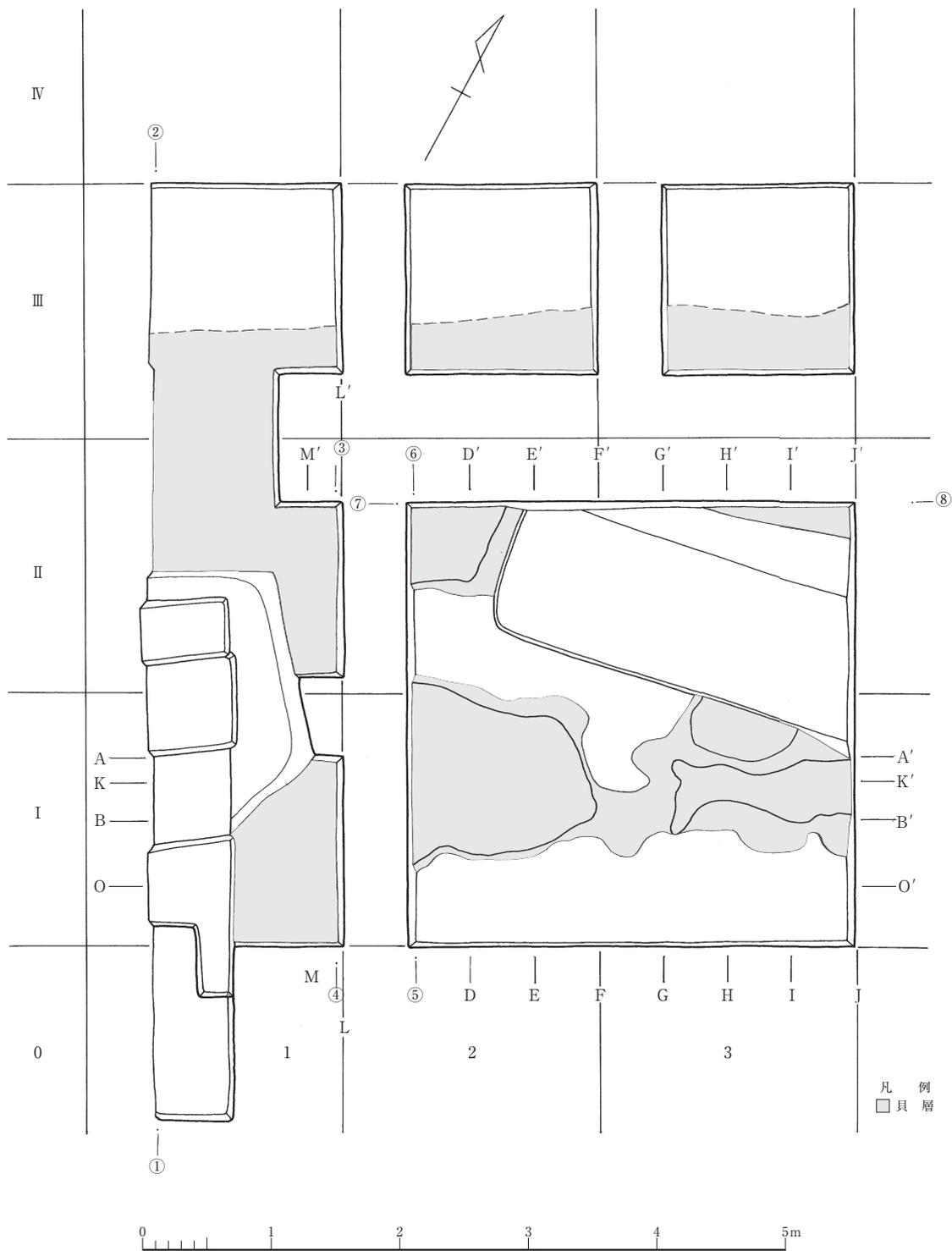


図35 中央トレンチ I~III区

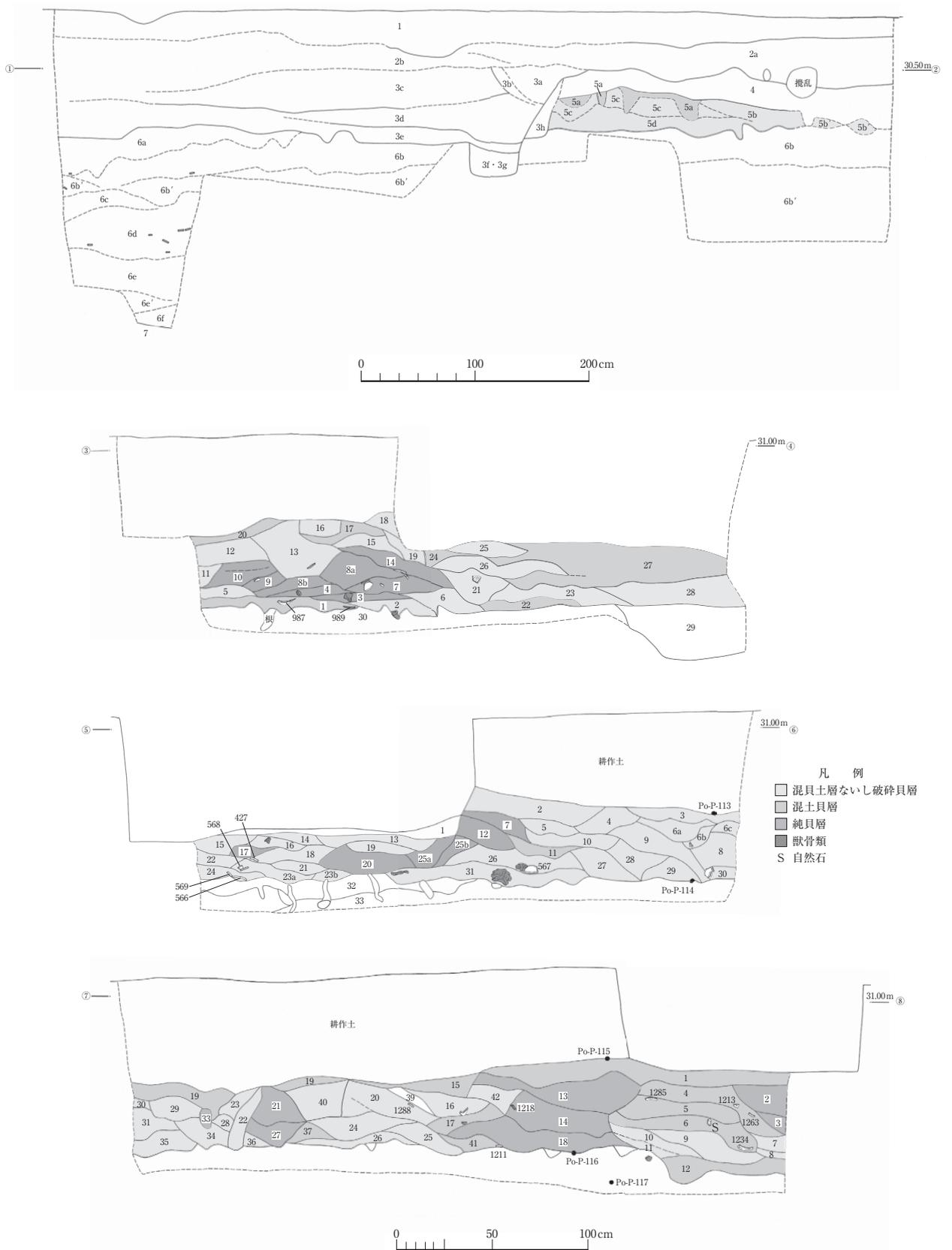


図36 中央トレンチ I～Ⅲ区土層・貝層断面 (レベルの丸数字は図35の丸数字と一致する)

を一つの堆積の単位とした場合、これらの単位の大きさは、15×15cm～50×50cmほど、厚さ3～10cmほどである。貝種はムラサキガイやカワニナ、ウミニナあるいはごくまれにベンケイガイやハマグリなどを含むが、各層に1～2個ほどにすぎず、ほぼ100%ヤマトシジミである。I-1区では3027・3028・3030・3033・3037層、II-1区では2017～2019・2027～2034・2045～2049層など、中間の層準に純貝層があり、その上下に混貝土層がわずかに認められる以外、貝層はほとんどが混土貝層によって構成されている。

図36-1は、早稲田大学トレンチの西壁土層断面図である。図36-3は、貝層を掘り上げたのちの、I-2・II-2区との境界の土層観察用畔の土層断面図である。第3層がトレンチの埋め戻し土であり、それ以下第6層が貝層下の黒褐色土層で、a～f層に細別できる。第7層はローム層で、この表面まで地表面から約280cm、貝層下約180cmである。第6層ではプラント・オパール分析用の土壌サンプリングを8か所おこなった。早稲田大学トレンチの北に入れたトレンチでは、貝層が厚いところで80cm堆積していることが確認され、III-1区で貝層は途絶えていることが確認できる。貝層下の第6層は、南端で20cmほどであったb'層が1m以上にわたって堆積しており、北に向かって谷が発達している様子がうかがえる。

(2) 遺物の出土状況と堆積の時期 (図38～40)

貝以外の出土遺物は土器と獣骨が大半であり、まれに貝輪がみられる。土器と獣骨が相対的に多く出土する層では、3054層や3082層は土器だけ、2049・2064・3067層や3069層では逆に獣骨だけが出土しているが、両者がともに出土する層が多い。

I-1区では純貝層の3027・3028・3030・3033層などは土器と獣骨をほとんど含まないが、それを挟んだ上層の3007・3011層、下層の3043・3047～3049層、最下層の3082・3087～3090層などからは、土器や獣骨が相対的に多く出土している。II-1区では2015・2024・2028～2030・2043層などは純貝層でありながら、土器と獣骨がいずれも多く出土している。貝層の最下層である2084・2085層とそれに続く2063～2065・2068層で両者を多く含み、それらが少ない層である2032・2935・2037・2042・2046・2050・2053層があり、その上に2022・2028～2030層が乗り、その上にそれが少ない2010・2011・2017・2020・2026層が堆積し、さらにその上に両者を多く含む2004・2006・2007・2009層が堆積する。

I-1区、II-1区のいずれも、貝層を載せる暗褐色土上面から土器破片と獣骨が多く出土している。したがって、単純化すれば、土器と獣骨は暗褐色土上面と貝層最下層でもっとも多く、その上にはそれらがやや多い層があり、その上に純貝層や土器などを含まない層が載り、さらに土器や獣骨のやや多い層が載るといように、交互に堆積していることになる。II-1区では純貝層に土器と獣骨を多く含む層が存在しているので複雑な状況を呈しているが、基本的にはそれが交互に堆積しているのは、図41から読み取ることができる。

貝層直下の暗褐色土上面の土器は、前浦Ⅱ式土器と細密条痕の千網式ないし荒海式を主に、姥山Ⅱ式、加曽利B2式などをまじえる。貝層の出土土器は小さな破片ばかりで、磨消縄文の前浦式もわずかに含むが、撚糸文や細密条痕の土器が多い。I-1区では細密条痕の土器は整った緻密な条痕がほとんどで、粗いものや二枚貝腹縁の条痕文は攪乱層で確認できる以外、貝層では認められな

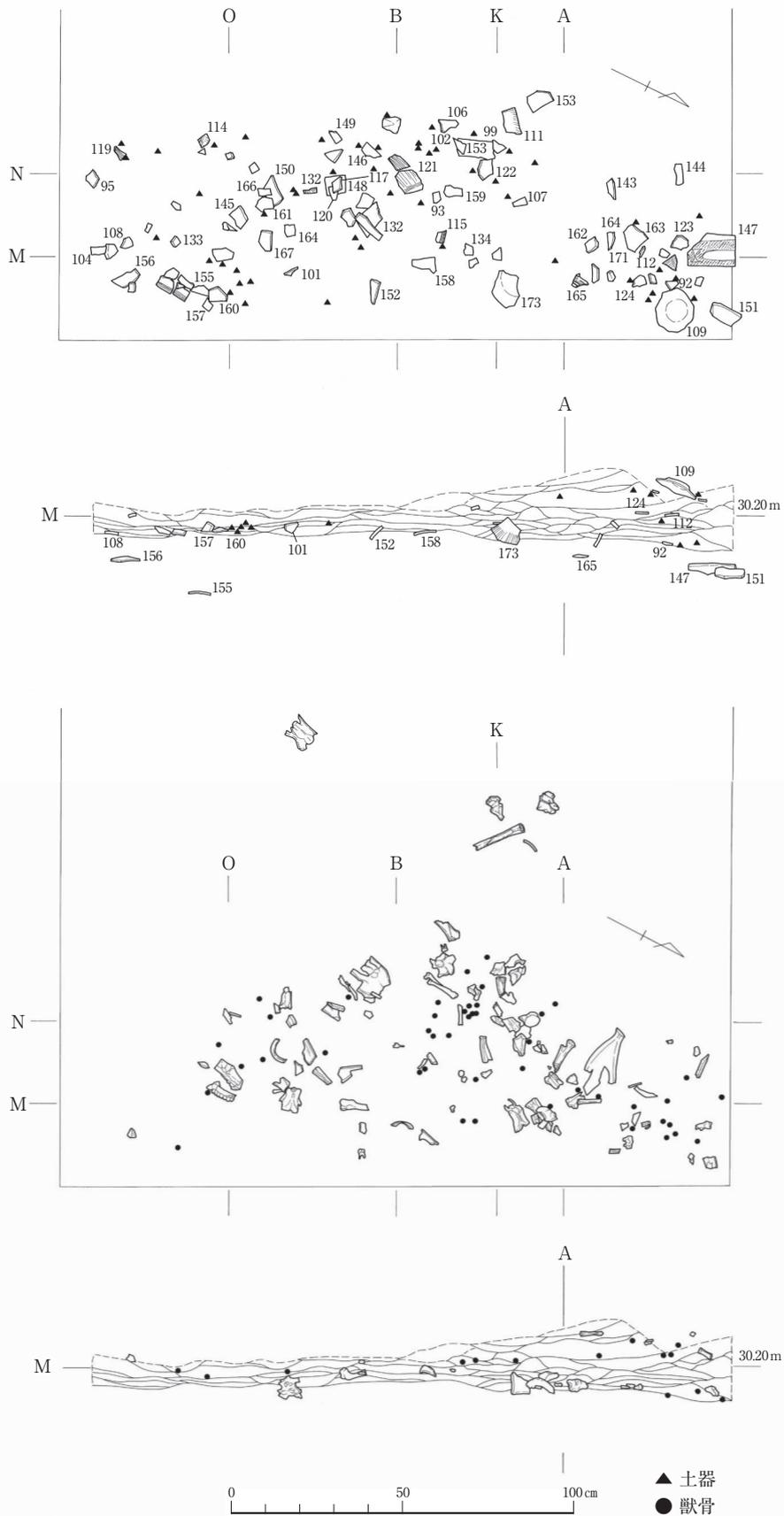


図38 中央トレンチ I-1 区遺物平面分布・堆積状況 (1)

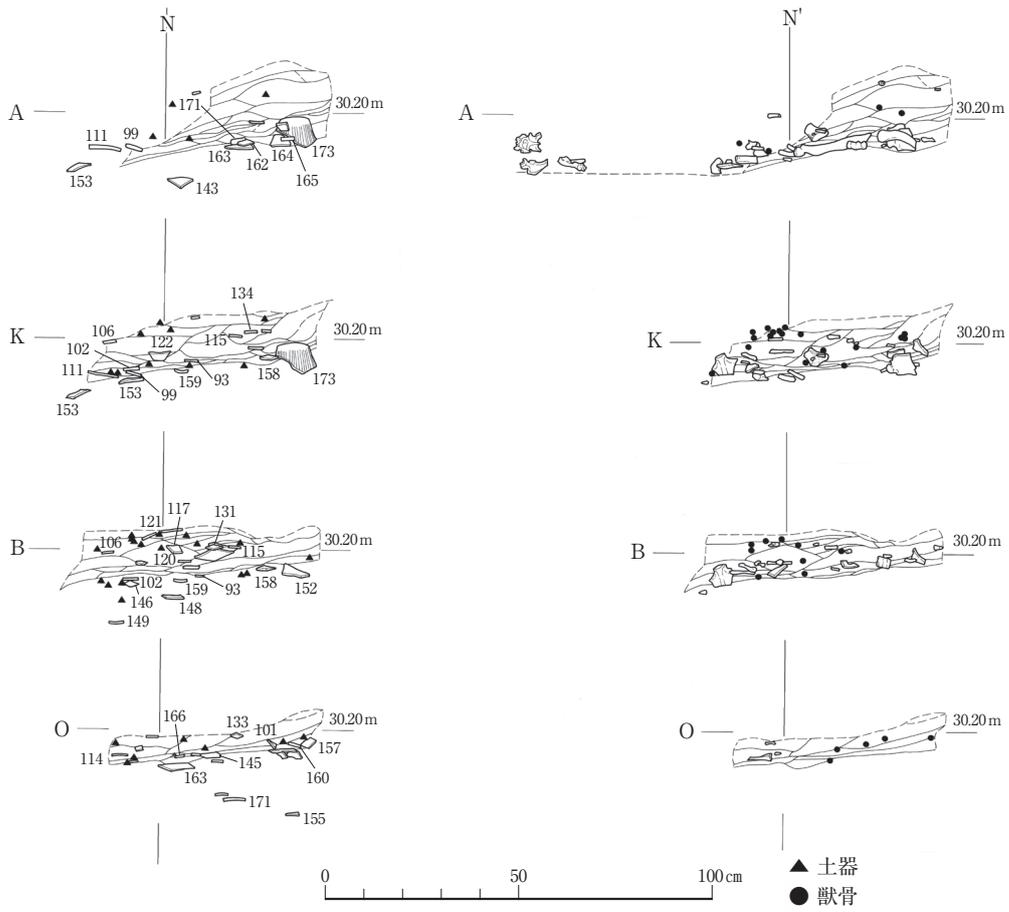


図 39 中央トレンチ I-1 区遺物堆積状況 (2)

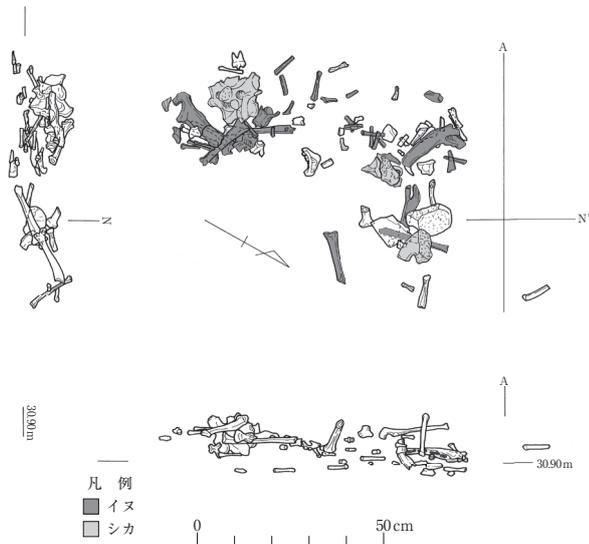


図 40 中央トレンチ I-1 区獣骨出土状況

い。それに対して、Ⅱ-1区では細密条痕でも粗いものや、二枚貝条痕が多く含まれている。Ⅱ-1区の上層の貝層はⅠ-1区では削平されていたので、新しい傾向をもつ土器がⅠ-1区では出土しなかった可能性がある。

貝層直下の暗褐色土上面の土器は、前浦Ⅱ式と細密条痕の千網式ないし荒海式を主に、姥山Ⅱ式、加曾利B2式などをまじえる。貝層の出土土器は小さな破片ばかりで、磨消縄文の前浦式もわずかに含むが、撚糸文や細密条痕の土器が多い。Ⅰ-1区では細密条痕の土器は整った緻密な条痕がほとんどで、粗いものや二枚貝腹縁の条痕は攪乱層で確認できる以外、貝層では認められない。それに対して、Ⅱ-1区では細密条痕でも粗いものや、二枚貝条痕が多く含まれている。Ⅱ-1区の上層の貝層はⅠ-1区では削平されていたので、新しい傾向をもつ土器がⅠ-1区では出土しなかった可能性がある。

(3) Ⅰ-1区の出土土器 (図43-27~図47-173)

① 攪乱層の出土土器 (27~84)

貝層の上に乗っていた土層から出土した土器である。

第Ⅱ群土器 (40・41) 縄文を施した土器。40は0段多条。41は繊維を含む。

第Ⅴ群土器 (27~33・35・38・39・47・49・51・52・162)

1類 (28~30) 沈線と列点により構成される。

2類 (27・31~33・35・47・51・52) 口縁部に沈線や突起などをもち、胴部には縄文を地文として沈線文で曲線を描くもの。47は太い隆線が口縁に廻る。

3類 (38・39) 櫛歯状工具によって沈線を描く。

1類は1期の称名寺Ⅱ式、3類は2期の堀之内Ⅰ式。

第Ⅵ群土器 (34・36・59・60) 34・36は紐線文土器。縄文地文に粗い条線がある。加曾利B2式。59はこの時期の土器の口縁部で類型はわからない。60はこの時期の無文土器。

第Ⅷ群土器 (42・50・54) 口縁が内湾した砲弾形の深鉢。体部に弧状の条線をもつ。安行3b式ないし姥山Ⅱ式。50・54は磨消縄文をもつ土器。小片であり、この時期か確証はない。55はこの時期の前後の無文土器である。

第Ⅸ群土器 (43~46・48)

2類 (44~46) 太い沈線で区画した磨消縄文をもつ土器。45・46には三叉文がみられる。44は二段杵状文の深鉢。前浦Ⅰ式である。

3類 (43) 太い沈線で区画した磨消縄文をもつ深鉢。前浦Ⅱ式である。

第Ⅹ群土器 (53・56・57・62~83)

5類 (63~66・68) 沈線文を施した土器。63は変形工字文の交点収束部。66は壺形土器。68は鉢で、稲妻状の沈線や、双頭渦文がみられる。63~65は灰褐色、68は赤褐色。荒海式である。

7類 (53・70~72・77) 撚糸文を施した土器。

53(A1種)は折り返し口縁の上に横方向に撚糸文を施す。磨滅している。72は原体を引きずっているため、条痕のように見える。77は頸部が無文。胴部に横方向の撚糸文をつける。

8類 (67・69・73~76・78~83) 条痕を施した土器。この一部が荒海式に伴う粗製土器。

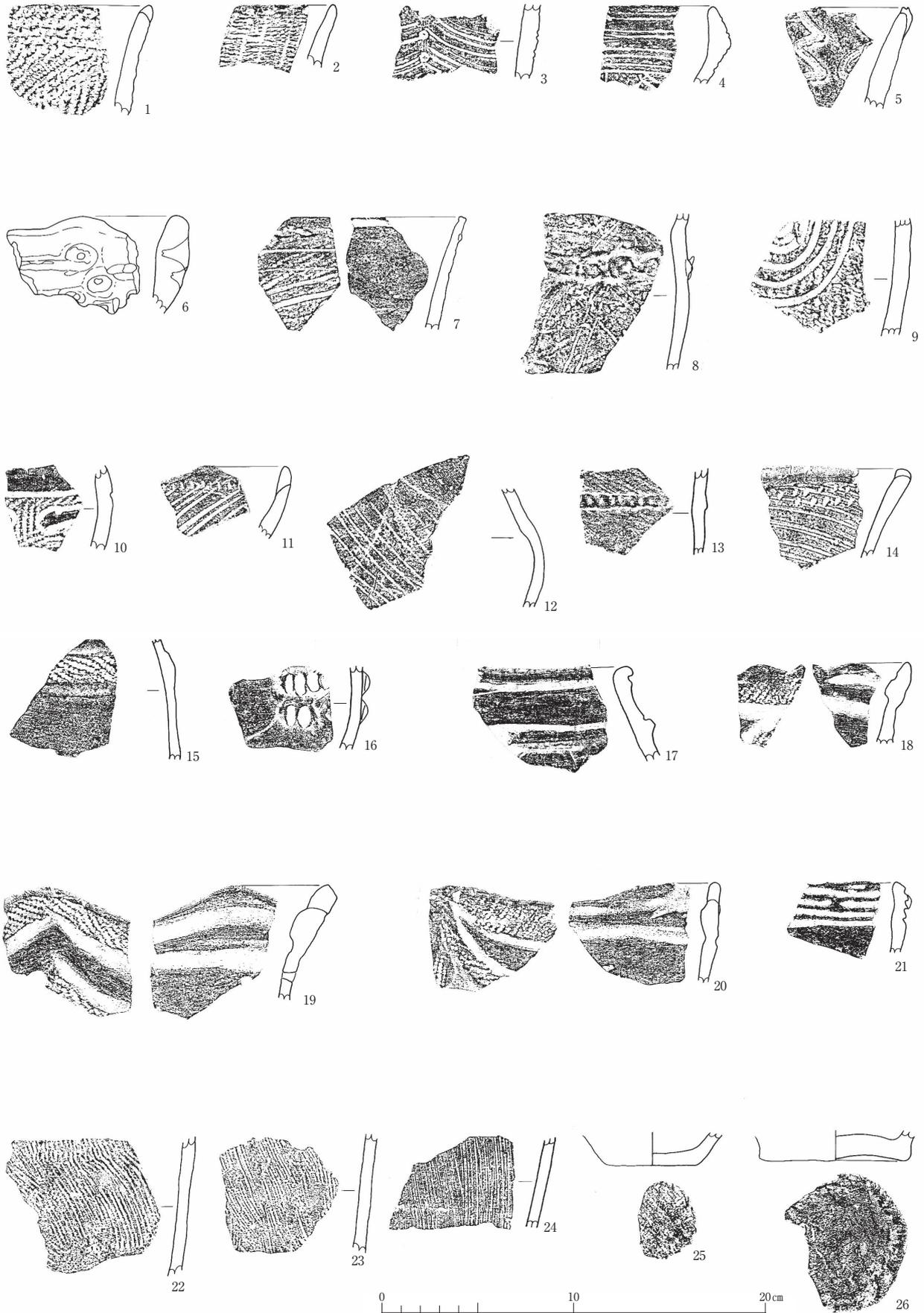


図42 中央トレンチ0-1区出土土器

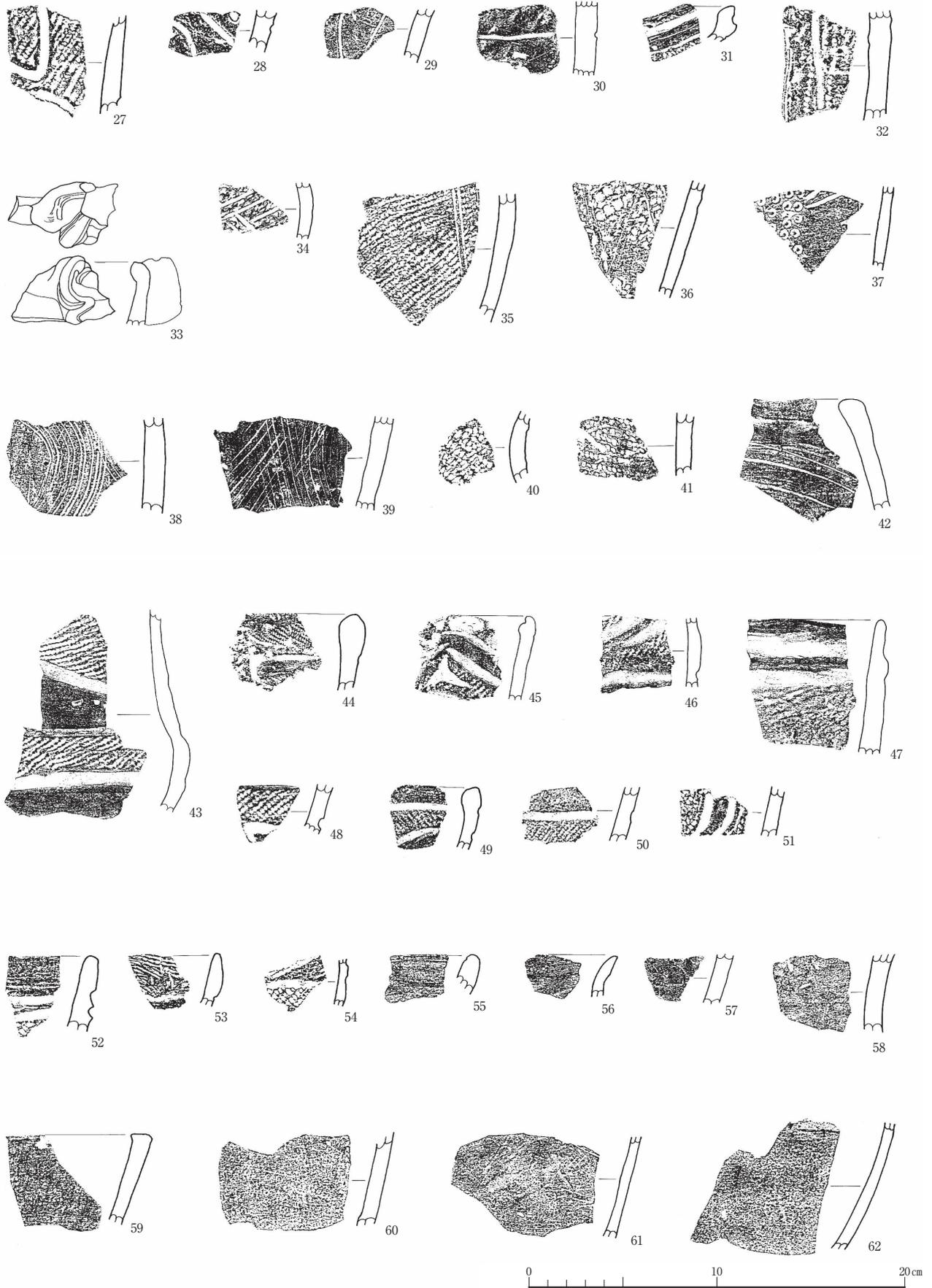


図 43 中央トレンチ I-1 区出土土器 (1)

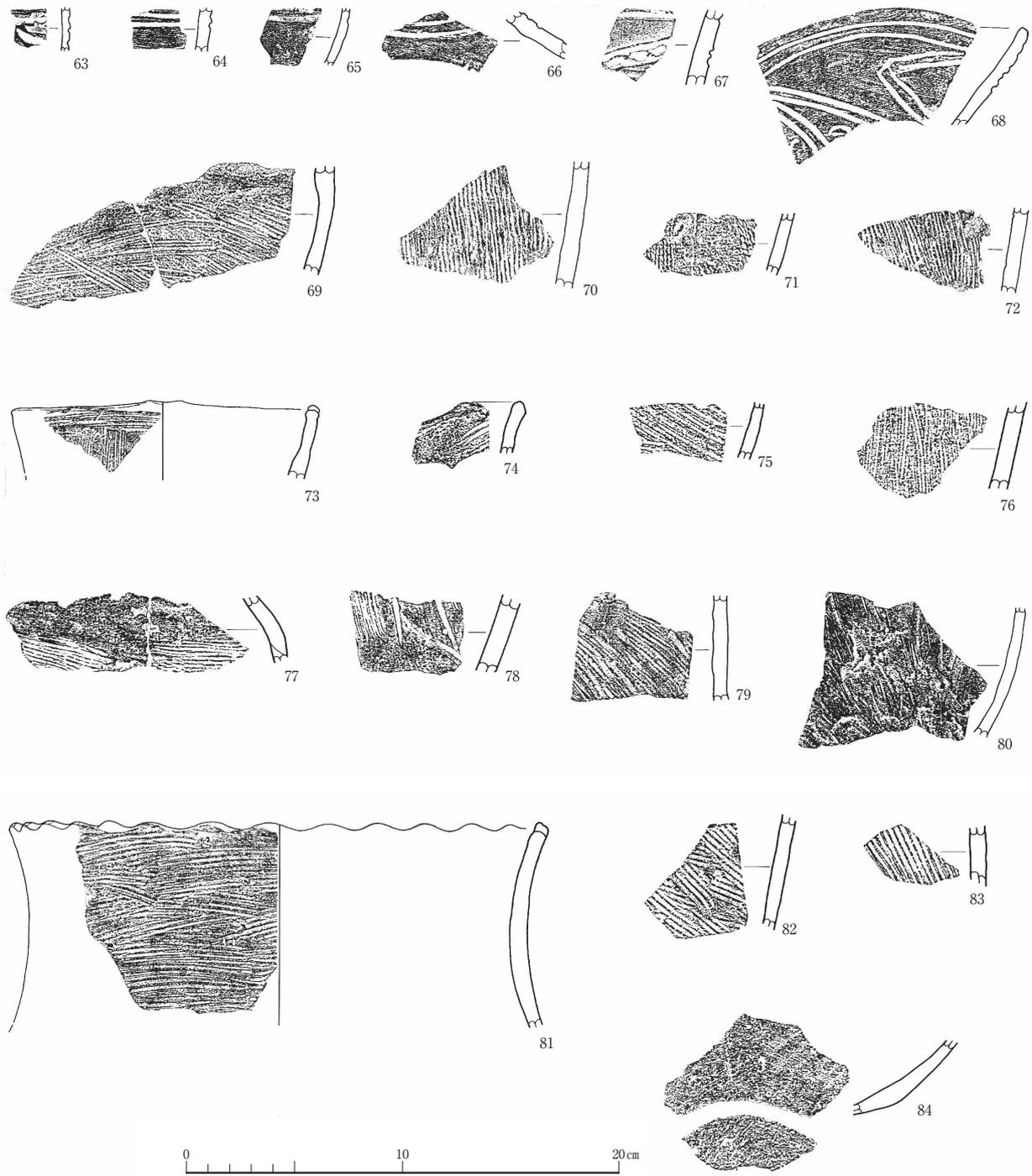


図44 中央トレンチ I-1 区出土土器 (2)

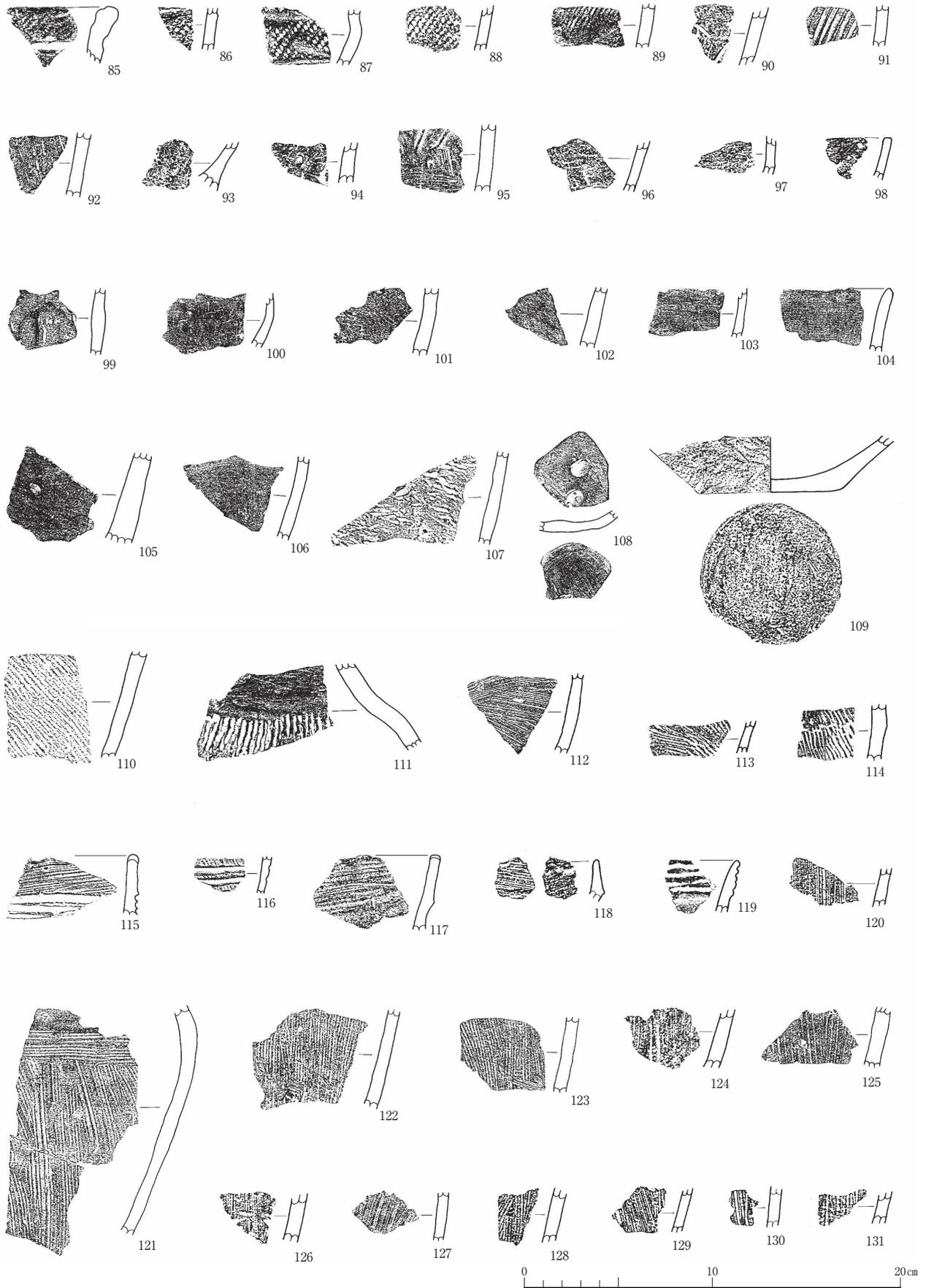


図 45 中央トレンチ I-1 区出土土器 (3)

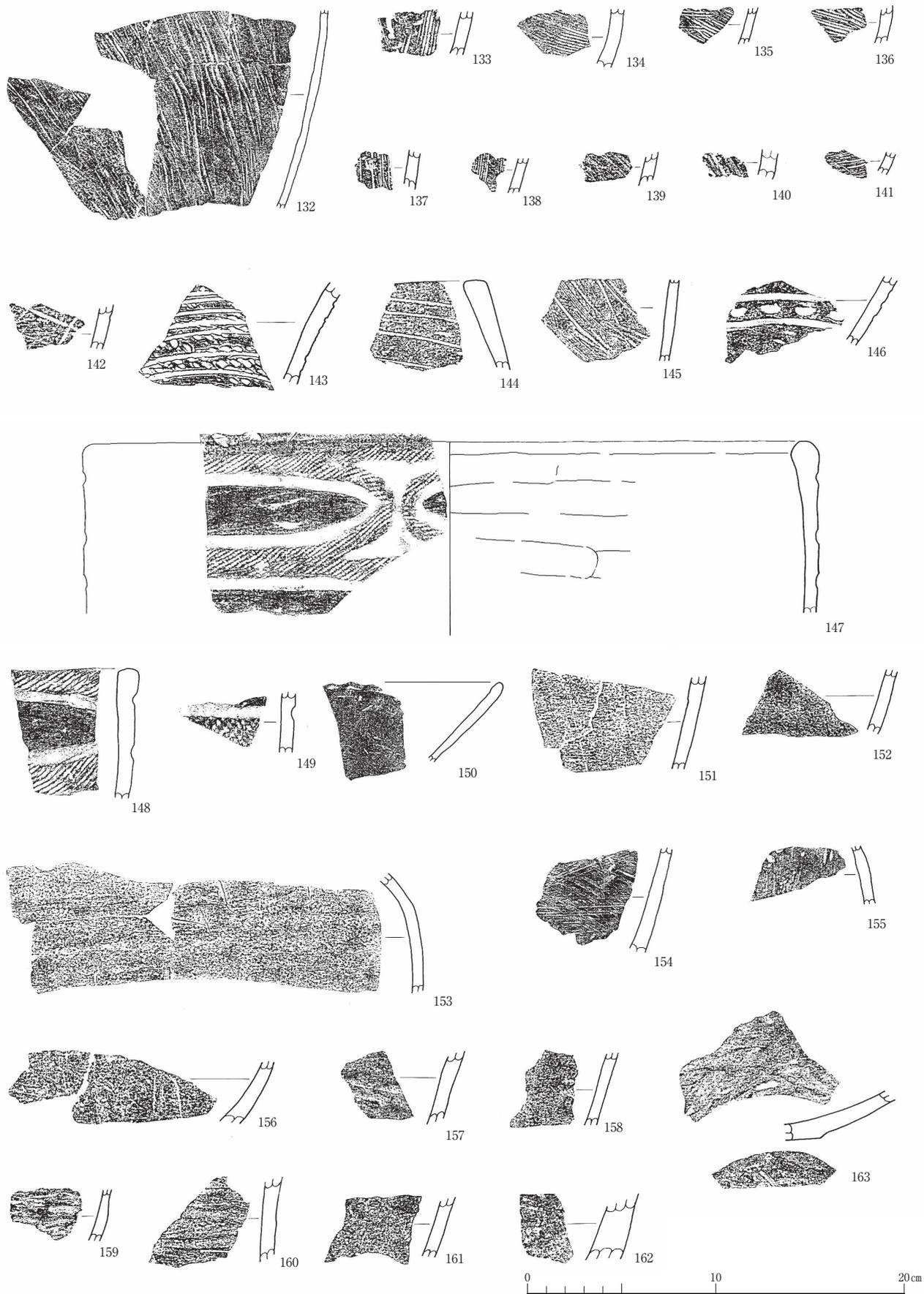


図46 中央トレンチ I-1 区出土土器 (4)

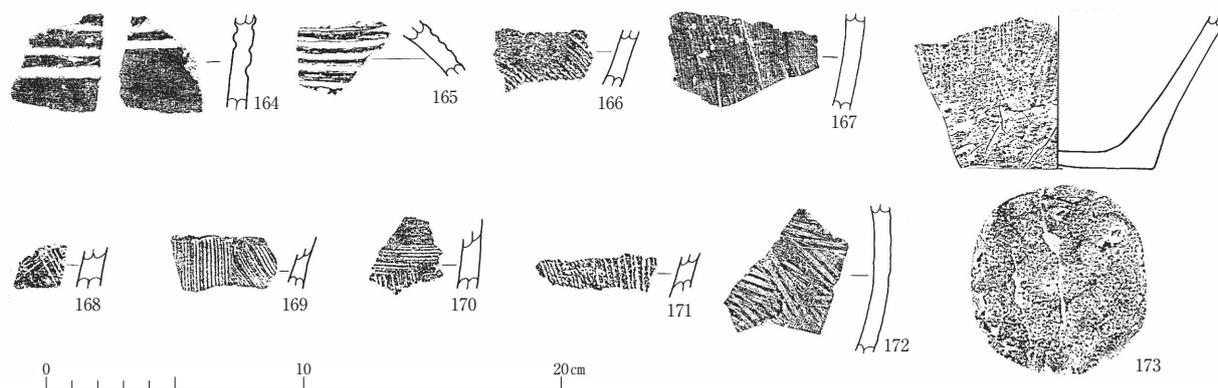


図 47 中央トレンチ I-1 区出土土器 (5)

細密条痕の土器：細密条痕は、73のように均質で目の細かいものが多いが、74・78などは粗い。深鉢 A3 (73) 口縁下にわずかに突出した稜線があり、口縁に横、胴部に縦の細密条痕を施す。甕 C1 (74) 口縁に小突起がある。69は頸部が無文の甕。胴部に横方向の細密条痕をやや乱雑に施す。

二枚貝条痕の土器：81～83が二枚貝条痕。

甕 C2 (81) 口縁端部を連続して押捺し、さざ波状をなす。口縁の外反度はややきつい。全面に二枚貝条痕を施す。

9類 (56・57・62) 無文土器。56は波状口縁で、波頂部に凹みがある。口縁が段をもって肥厚している。

② 貝層の出土土器 (85～173)

第Ⅵ・Ⅶ群土器 (91・142・143) 紐線文土器を含む粗製土器。142は格子状の沈線文が、143は縄文地文に粗い条線文がみられる。142は磨滅している。加曾利 B2 式。91は条線が密な曾谷式。磨滅している。

第Ⅷ群土器 (144・146) 5類 (144) 条線文をもつ砲弾形の深鉢。口縁は内湾する。安行 3b 式ないし姥山Ⅱ式。

6類 (150) 無文の鉢形土器。薄手。口縁端部に蛇行状の粘土貼り付けをもつ。貝層下褐色土層から出土した 151・152・154～156・158～161・167のうちのいずれかも、この時期の無文土器と思われるが、第Ⅸ群以前の他の時期との区別は困難である。

第Ⅸ群土器 (85～87・146～149)

1類 (146) 沈線に区画した中に列点文を加えた鉢。列点は米粒状である。安行 3c 式。

3類 (85～87・147～149) 太い沈線で区画した磨消縄文をもつ土器。147は口縁に楕円形の杵状文を対向させ、その間に I 字状の挟り込みを加える。148も同じ類型。前浦Ⅱ式。

第Ⅹ群土器 (93・95・97～101・103・104・106・108～141・153・154・157・164～166・169～173)

2類 (165) 壺形土器。胴上部に並行する沈線文をめぐらす。大洞 A 式の影響を受けた土器である。

6類 (115・116) 口縁から少し下がったところに沈線文を3条以上めぐらす。細密条痕を地文とし、口縁部は若干肥厚し、口縁端部を連続して押捺する。116はこのタイプの胴部。3条以上、沈線文を加える。千網式である。

7類 (97・110・111・113・114・164・166・171) 撚糸文の土器。111は頸胴部の破片。頸胴間に屈

表2 中央トレンチI-1区出土土器の層位

番号	出土層位	56	表土層	86	308層	116	12層(上層)	146	貝層下褐色土1層
27	褐色土層	57	?	87	11層	117	3014層	147	貝層下褐色土層
28	褐色土層	58	深掘り貝層	88	3088層	118	3093層	148	貝層下黒色土層
29	褐色土層	59	深掘り貝層	89	11層	119	3053層	149	貝層下黒色土層
30	?	60	深掘り貝層	90	3088層	120	3049層	150	貝層下黒色土層
31	褐色土層	61	表土層	91	3022層	121	3004層	151	貝層下褐色土1層
32	?	62	深掘り貝層	92	3088層	122	3046層	152	貝層下褐色土1層
33	褐色土層	63	3407層	93	3079層	123	3088層	153	貝層下褐色土層・ 貝層下褐色土1層
34	3082層	64	3007層	94	9層	124	3088層	154	11層上面
35	攪乱層	65	?	95	3053層	125	11層	155	貝層下黒色土層
36	攪乱層	66	明褐色土層	96	3090層	126	X層	156	貝層下黒色土層
37	?	67	貝層	97	3082層	127	9層	157	貝層下褐色土1層
38	深掘り貝層	68	表土層	98	9層	128	3044層	158	貝層下褐色土層
39	深掘り貝層	69	表土層	99	3090層	129	11層	159	貝層下褐色土1層
40	褐色土層	70	攪乱層	100	11層	130	3011層	160	貝層下褐色土1層
41	褐色土層	71	攪乱層	101	3074層	131	3004層	161	貝層下褐色土1層
42	?	72	表土層	102	3090層	132	3048・3049層	162	貝層下褐色土1層
43	褐色土層	73	攪乱層	103	20層	133	3023層	163	貝層下褐色土層
44	?	74	?	104	3053層	134	3042層	164	貝層下褐色土1層
45	表土層	75	表土層	105	40層	135	3011層	165	貝層下褐色土1層
46	褐色土層	76	?	106	3008層	136	11層	166	貝層下褐色土1層
47	褐色土層	77	明褐色土層	107	3001層	137	X層	167	貝層下黒色土層
48	褐色土層	78	褐色土層	108	3083層	138	3024層	168	貝層下褐色土1層
49	深掘り貝層	79	表土層	109	3011層	139	3022層	169	11層
50	?	80	攪乱層	110	?	140	11層	170	貝層下褐色土1層
51	褐色土層	81	攪乱層	111	3090層	141	11層	171	貝層下褐色土1層
52	褐色土層	82	?	112	3031層	142	貝層下褐色土層	172	11層上面
53	攪乱層	83	攪乱層	113	113層	143	貝層下褐色土1層	173	貝層下褐色土1層
54	?	84	?	114	3078層	144	貝層下褐色土1層		
55	褐色土層	85	X層	115	3005層	145	貝層下褐色土1層		

曲をもち、頸部は無文、胴部に縦に撚糸文を施す。撚糸文は深く明瞭である。千網式である。

8類 (112・117～141・154・169・170・173) 条痕を施した土器。

細密条痕の土器：口縁は、甕 A1 (118) 甕 A2 (117) の2片しか明らかではなく、他は胴部ないし底部であるが、121は頸部の無文部が残っていて甕だとわかる。胴上部には横方向の以下縦方向の細密条痕を施す。細密条痕は密で整っており繊細である。173は底部であり、下端部はケズリにより、その上まで細密条痕が縦に施される。底面はケズリにより無文。132はやや粗い細密条痕がみられる。甕 A は千網式の後半ないし荒海1式に伴う粗製土器である。

二枚貝条痕の土器：154・172の2片が確認されたにすぎない。荒海式に伴う粗製土器である。

9類 (93・95・98～101・103・104・106・108・109・153・157) 無文土器。93以下、調整や色調などによって、本類の無文土器と判断した。98・104は深鉢の口縁部。端部が面取りされ水平になる。104は小突起があり、端部を刻む。99はなぞりによって文様を描いており、無文というわけではない。108は鉢の底部。円形の凹みの中を丸く膨らませているこの時期特有のもの。109も底部で、底面はヘラケズリによる。153は壺形土器の胴部。ナデ調整によって平滑にされる。

(4) II-1区の出土土器 (図48-174～図51-325)

第V群土器 (178・188・192) 192は沈線区画の中に列点をもつ深鉢。称名寺II式。188は縄文地文に沈線文がある。堀之内1式。

第VI群土器 (174～177・179～185・277) 大部分が紐線文土器。加曾利B1・B2式。

第VII群土器 (189・197) 189は紐線文土器。口縁に沈線に区画された列点をもつ。安行1式。197は隆起帯刻文の深鉢。安行2式。あるいは第VIII群1期安行3a式か。

第VIII群土器 (199～203) 200は沈線が太くなり、第IX群に近づいている。安行3b式、姥山II式。

第IX群土器 (316) 台付土器。

第X群土器 (191・198・204～274・276・278～314・318)

3類 (212) 浮線網状文土器。レンズ状の付帯文は認められるが、小片につき、それ以外の文様モチーフは不明。

5類 (191) 変形工字文を口縁に描く鉢。

6類 (204～210) 沈線文の雑書文土器。いずれも単位の沈線は3条以上と多条である。204は口縁を有段とし、段の下に3条の沈線を加え、それ以下に同じく3条の沈線で弧線文を描く。208も同じく3条の流線を垂下する。206は204と同じ個所に、4条の沈線を加える。いずれも口縁端部に山形の突起をつけるが、204は二股になる。205は口縁の下がったところを沈線で区画し、その中に断続的な沈線を3列引く。頸胴界にも沈線文を施すが、沈線の会合部にえぐりを入れている。207は数条の浅く太い沈線で区画された口縁に列点文を2段にわたって加えている。口縁端部にも沈線がある。

9類 (267・301～315・318～325) 無文の土器。308は壺ないし鉢で、よく磨かれている。319は粗製の鉢。318・320～325は底部であり、色調や態度、調整などから、大多数が本群と思われる。318・319は底部が突出し、底面は無文である。

第X群は荒海1-2・2式と考えられる。

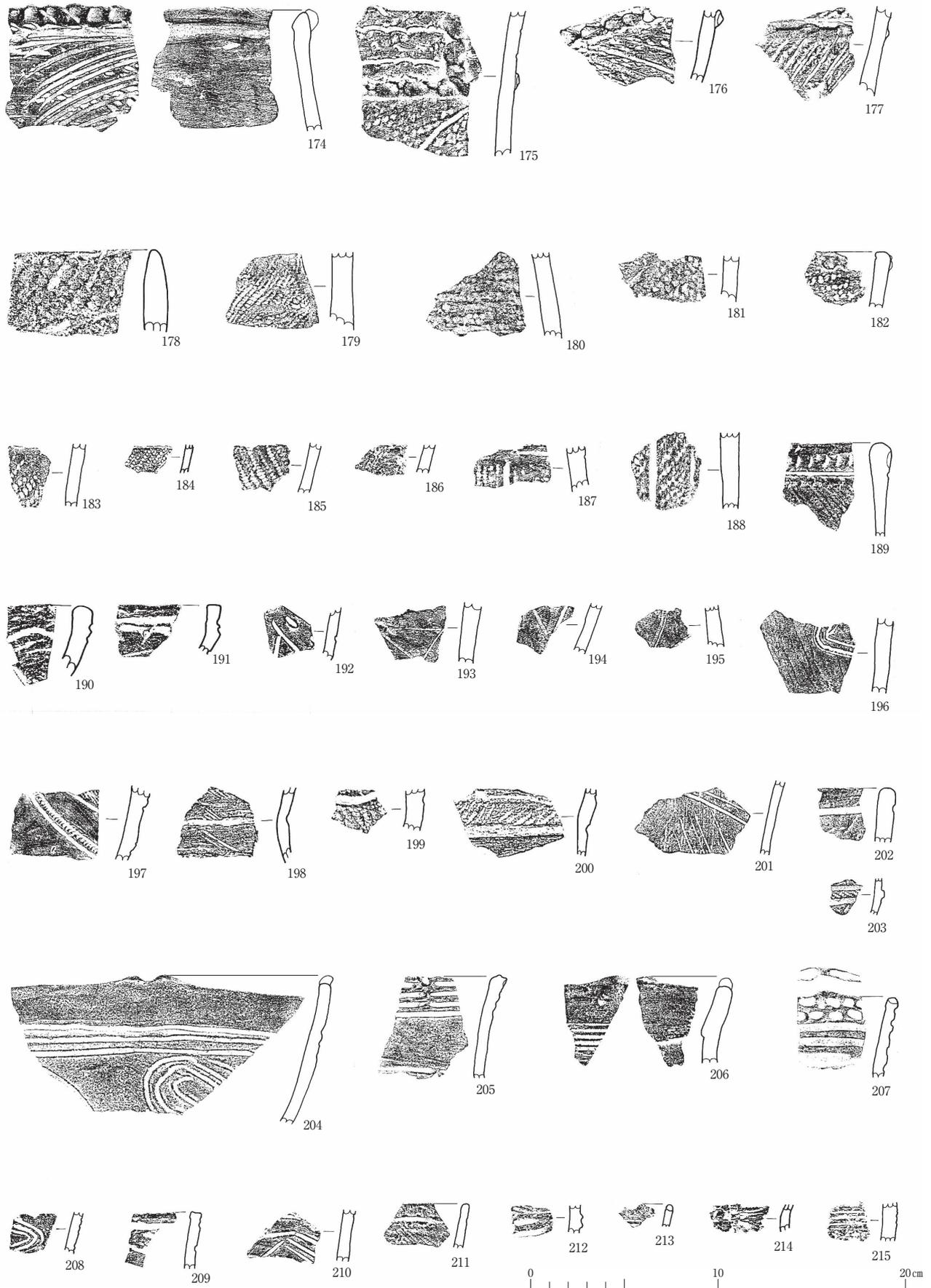


図48 中央トレンチⅡ-1区出土土器(1)

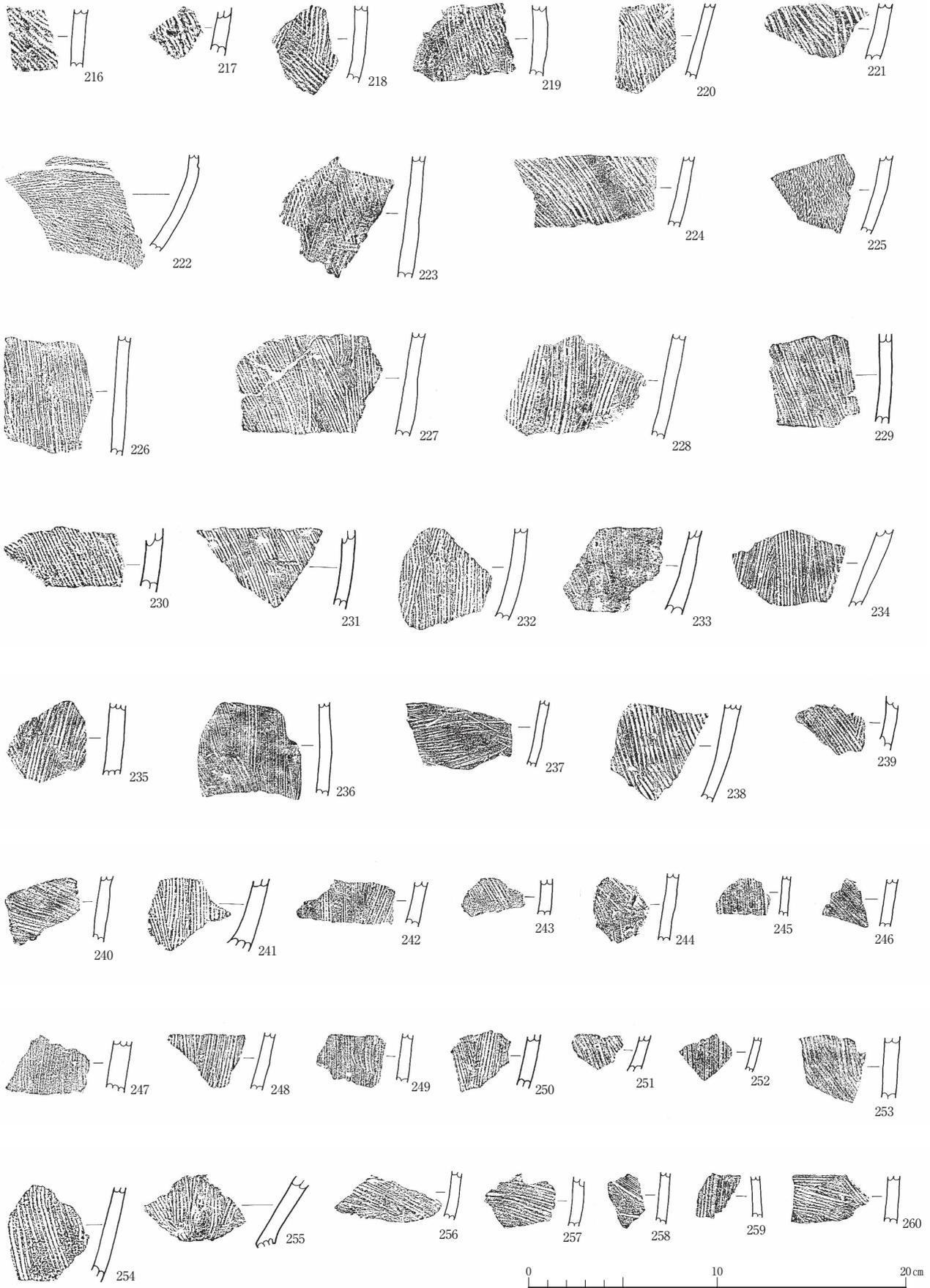


図 49 中央トレンチⅡ-1 区出土土器 (2)

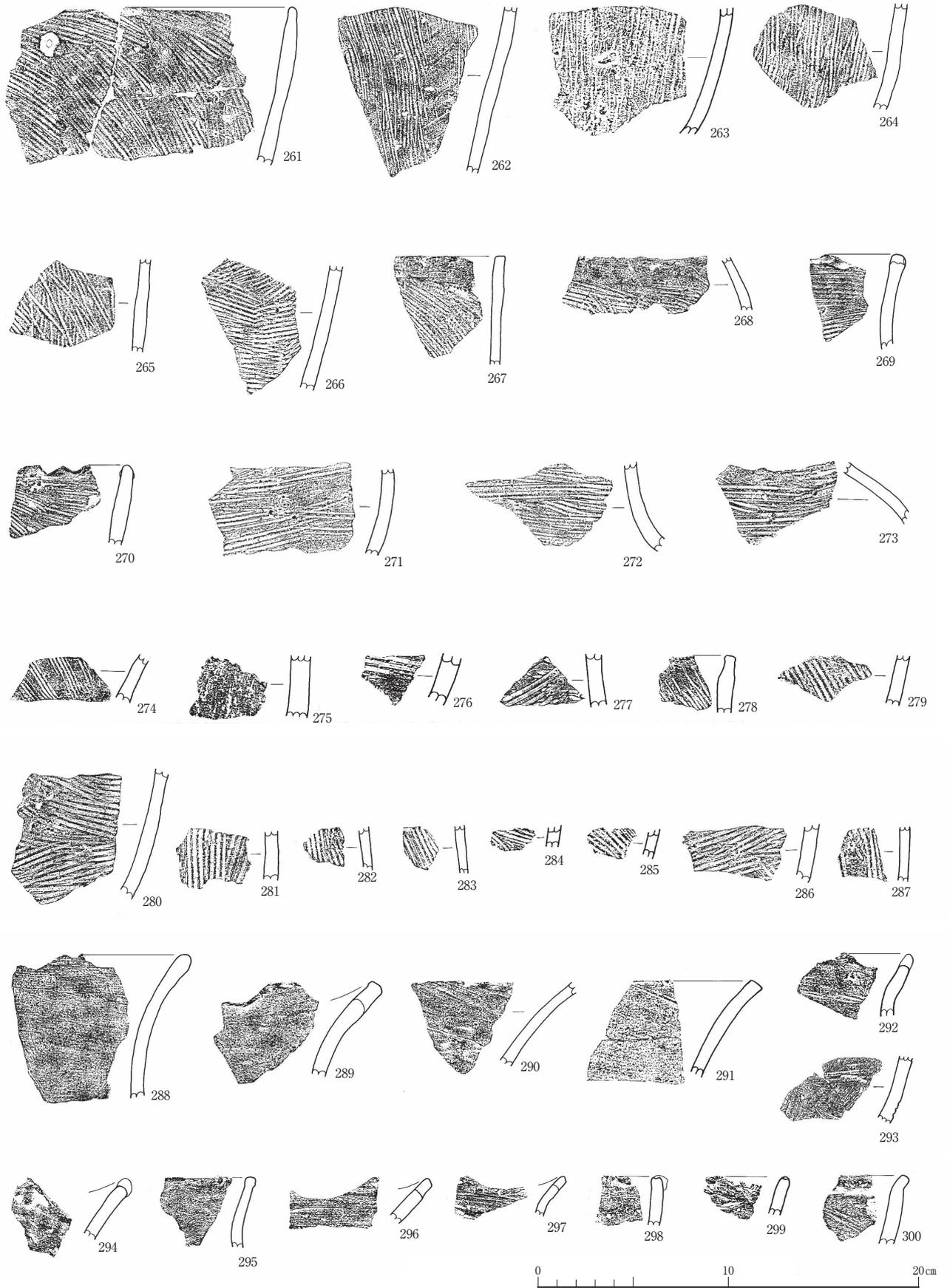


図50 中央トレンチⅡ-1区出土土器(3)

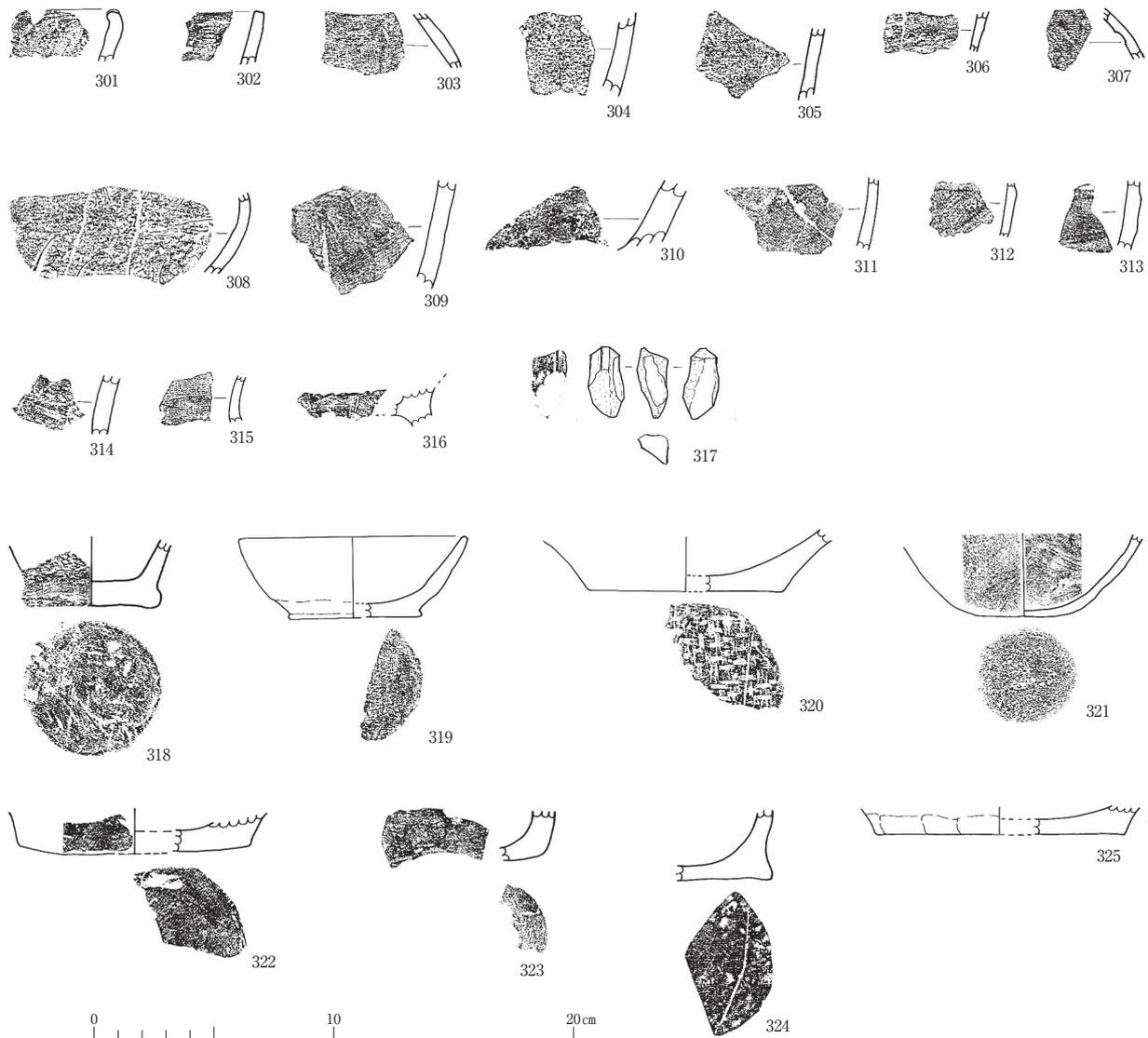


図 51 中央トレンチⅡ-1 区出土土器 (4)

I-1・Ⅱ-1区出土土器のまとめ I-1区貝層出土土器の第X群に8類の細密条痕が大半を占めるのは、この貝層が荒海1式を主体としていることを示す。107は撚糸文に結節縄文がまばらにみられるが、編年の位置づけが明確ではない。Ⅱ-1区貝層出土土器は、荒海1-2式であり、I-2・I-3区同様であるが、8類の甕C2種のように、口縁の外反度が強く、大ぶりの波状口縁の甕が増加し、細密条痕に乱調のものが目立つようになる。それとともに二枚貝腹縁の条痕が増え、そのなかには大型壺が伴っているのは、地点によって新しい様相を示す傾向が指摘できる。

表3 中央トレンチⅡ-1区出土土器の層位

番号	層位	204	?	235	貝層下褐色土層	266	2071層	297	2029層
174	?	205	2053層	236	貝層下褐色土層	267	2063層	298	2004層
175	貝層下褐色土層	206	?	237	貝層	268	2036層	299	2079層
176	?	207	2079層	238	貝層	269	2036層	300	表土層
177	2024層	208	表土層	239	2078層	270	耕作土	301	2033層
178	攪乱穴	209	2068層	240	2041層	271	北壁	302	2041層
179	貝層下褐色土層	210	2032層	241	112層	272	2085層	303	2079層
180	貝層下褐色土層	211	2015層	242	2068層	273	2083層	304	2002層
181	貝層下褐色土層	212	2062層	243	2032層	274	2024層	305	2062層
182	2018層	213	2034層	244	2045層	275	2085層	306	2079層
183	2080層	214	2034層	245	2080層	276	混土貝層	307	2071層
184	2016層	215	2070層	246	2004層	277	貝層下褐色土層	308	2072・2084層
185	2040層	216	2028層	247	?	278	2016層	309	2063層
186	2068層	217	2015層	248	2084層	279	2041層	310	2032層
187	貝層下褐色土層	218	2044層	249	2065層	280	耕作土	311	2071層
188	2072層	219	2006層	250	8—37層	281	2024層	312	2070層
189	表土層	220	貝層下褐色土層	251	2006層	282	2022層	313	2085層
190	純貝層	221	2016層	252	2029層	283	2022層	314	2001層
191	純貝層	222	?	253	2024層	284	2043層	315	2080層
192	貝層下明褐色土層	223	2057層	254	8—38層	285	2010層	316	2009層
193	貝層下褐色土層	224	?	255	?	286	2007層	317	2029層
194	2081層	225	純貝層	256	2084層	287	2058層	318	?
195	2081層	226	2063層	257	2025層	288	2024層	319	2056層
196	2088層	227	?	258	2045層	289	2059層	320	2080層
197	貝層下褐色土層	228	2017層	259	2086層	290	2066層	321	?
198	純貝層	229	?	260	北壁	291	2031・2059層	322	2070層
199	貝層下褐色土層	230	純貝層	261	純貝層	292	純貝層	323	貝層下褐色土層
200	表土層	231	?	262	表土層	293	2036・2094層	324	8—26層
201	2079層	232	2017層	263	8—1—24層間	294	2015層	325	2036層
202	2985層	233	表土層	264	2036層	295	2086層		
203	2022層	234	表土層	265	2036層	296	2065層		

3 I-2・I-3 区の調査と出土土器

(1) 土層・貝層堆積状況 (図 52~56)

貝層は、I-2区は厚さ20~25cm、I-3区は厚いところで約70cmの堆積であった。その上は攪乱が及んでいる。I-2区も本来I-3区と同じ厚さの貝層が上に堆積していたであろう。I-2・I-3区の南半には東西方向に長い攪乱の溝が貝層を掘りぬくように走っている。また、I-2区とI-3区の境界からI-3区の北側にかけて、早稲田大学のトレンチの南にも攪乱が及んでおり、I-3区の貝層は東西に細長い島状をなしている。

I-2・I-3区の貝層を載せる土層は、上から黒褐色土層-暗褐色土層であり、暗褐色土層は若干の成分の違いによって2層に区分される。暗褐色土層は西と南に向かってわずかに下がりながら傾斜して堆積しており、黒褐色土層は発掘区の南側と西側で現れ、結果的に土層の表面はほぼ水平になっている。これら貝層下の土層の表面は、東西方向では発掘区の3.5m間で約10cmの比高差があり、西端が低い。子細にみるとI-3区で傾斜があり、I-2区に至ると平坦になっている。それに応じて貝層もI-3区では東から西に下がり傾斜しており、I-2区では水平の堆積になっている。南北方向では約2mの間で約I-2区はほぼ水平だが、I-3区では場所によって約30cm北に向かって下がり傾斜しており、それに応じて貝層は北に下がり傾斜している。貝層の上下関係から、おおむね傾斜に逆らわずに重なり合って堆積していることがわかるので、廃棄の方向が南から北方向、すなわち標高の高い位置から低い谷に向かって投棄したとみてよい。このことは、生活の母体が貝層の南側に存在していたことを推測させる。

貝層はI-2区で13層~130層までをかぞえ、細別された層を含めると124層に区分された。I-3区では調査年度と調査個所によって層名を3つの連番に区分した。1~11層、1001~1013層、1500~1603層であり、細別された層を含めると164層に区分された。貝層の単位の大きさは25×25cm~60×60cmほどであり、厚さは3cm~10cmほどである。一様ではないが、1mをこえるような範囲の極端に大きな単位は認められない。各単位は恣意的に区分したのではなく、第3章第1節で述べたように様々な観点から検討を加えて区分したものである。ていねいな捨て方をしなければ、土層断面図のような堆積にはならず、廃棄となれば飛散した貝も多かったであろう。したがって、この単位が廃棄の単位と一致するとはいえない。しかし、確実に廃棄の単位とみなしうる、それだけで一つの単位をなしていた焼けた貝層の78層は30×40cmで厚さ5cmほどと、確認できたブロックの平均的な大きさときわめて近いのであり、見出された単位が廃棄の単位に近いことは認めてよいだろう。

貝層は、視覚的には純貝層、混土貝層、混貝土層からなり、貝を含まない土層が介在することはない。混土貝層が最も多い。純貝層はI-3区に顕著であり、とくに5層は厚く、さわると崩れるほど土の包含率が低いが、5層の中でも土の多い層などを含み、分層が可能で単純ではない。この層の下に堆積している1510・1514・1515・1517~1523・1525・1527・1530・1532・1535・1537・1538・1543層なども純貝層であり、1510・1514・1515層はやはりさわると崩れるほど純度が高い。そのほか、I-2区の52・70・71・75・78層と97・112・113・1003層も純貝層であり、前者は西端に、後者は中央に堆積している。これらの純貝層の各層は、連続して堆積する場合もあるが、混

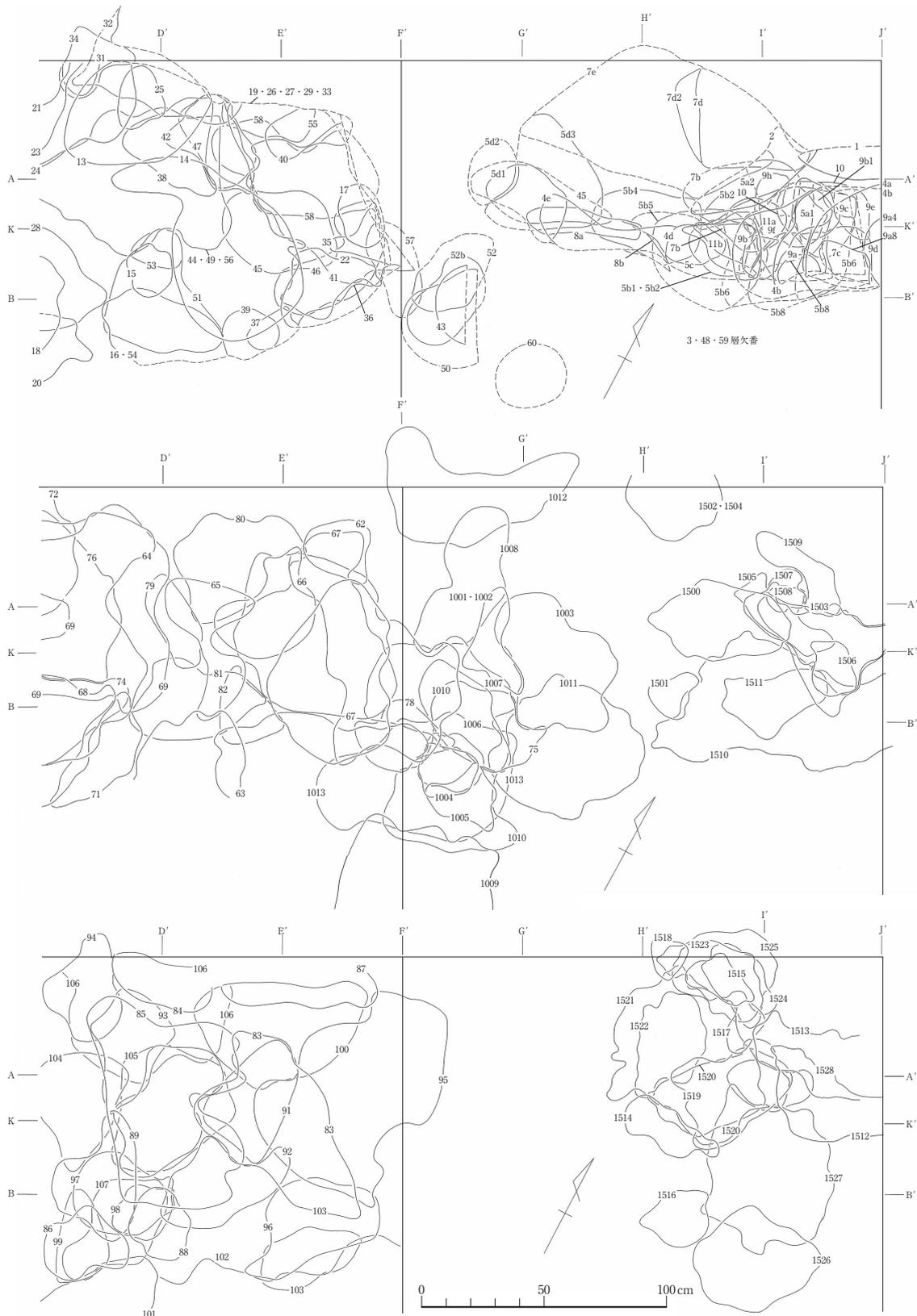


図52 中央トレンチ I-2・I-3 区具層平面 (1)

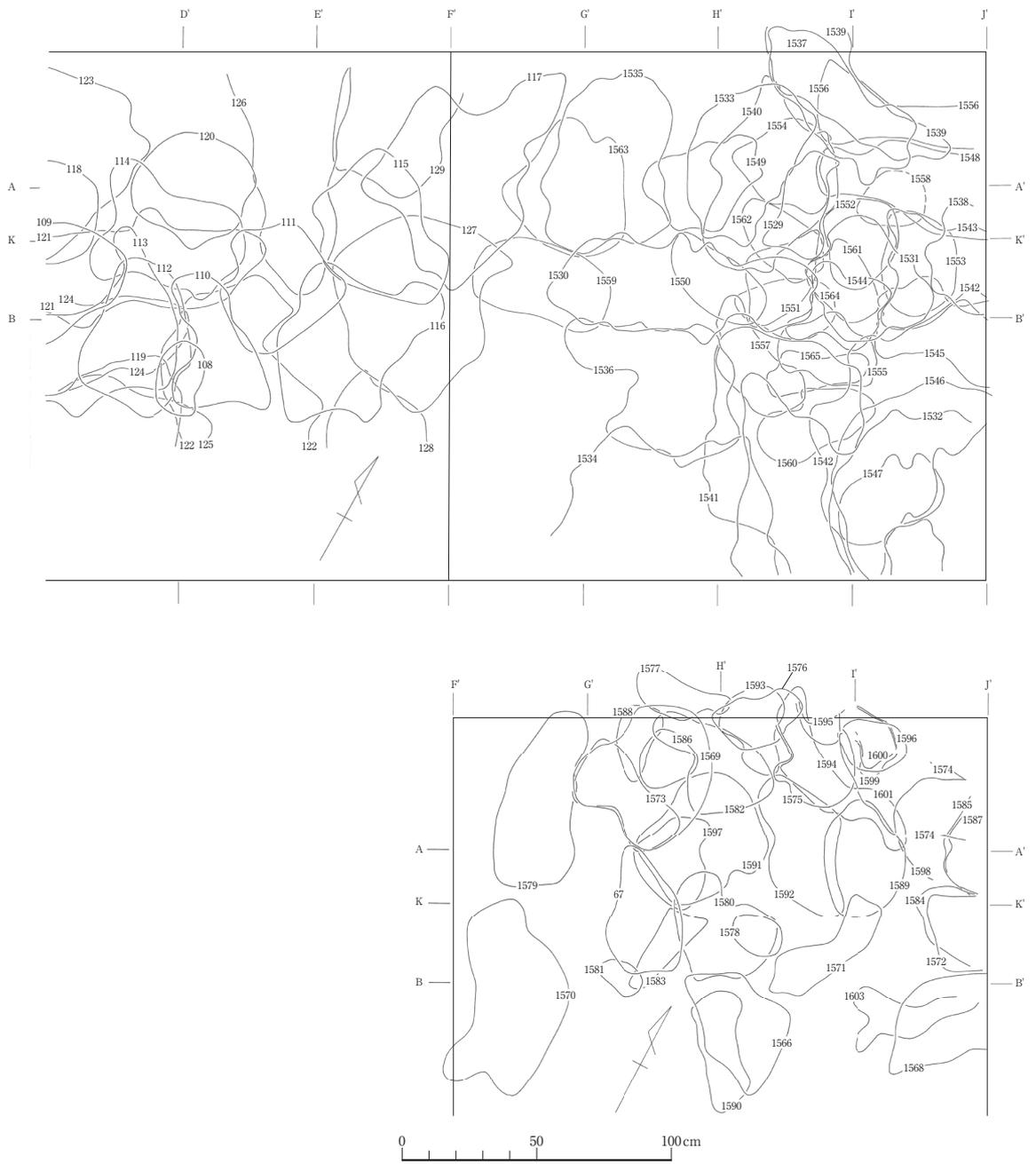


図 53 中央トレンチ I-2・I-3 区員層平面 (2)

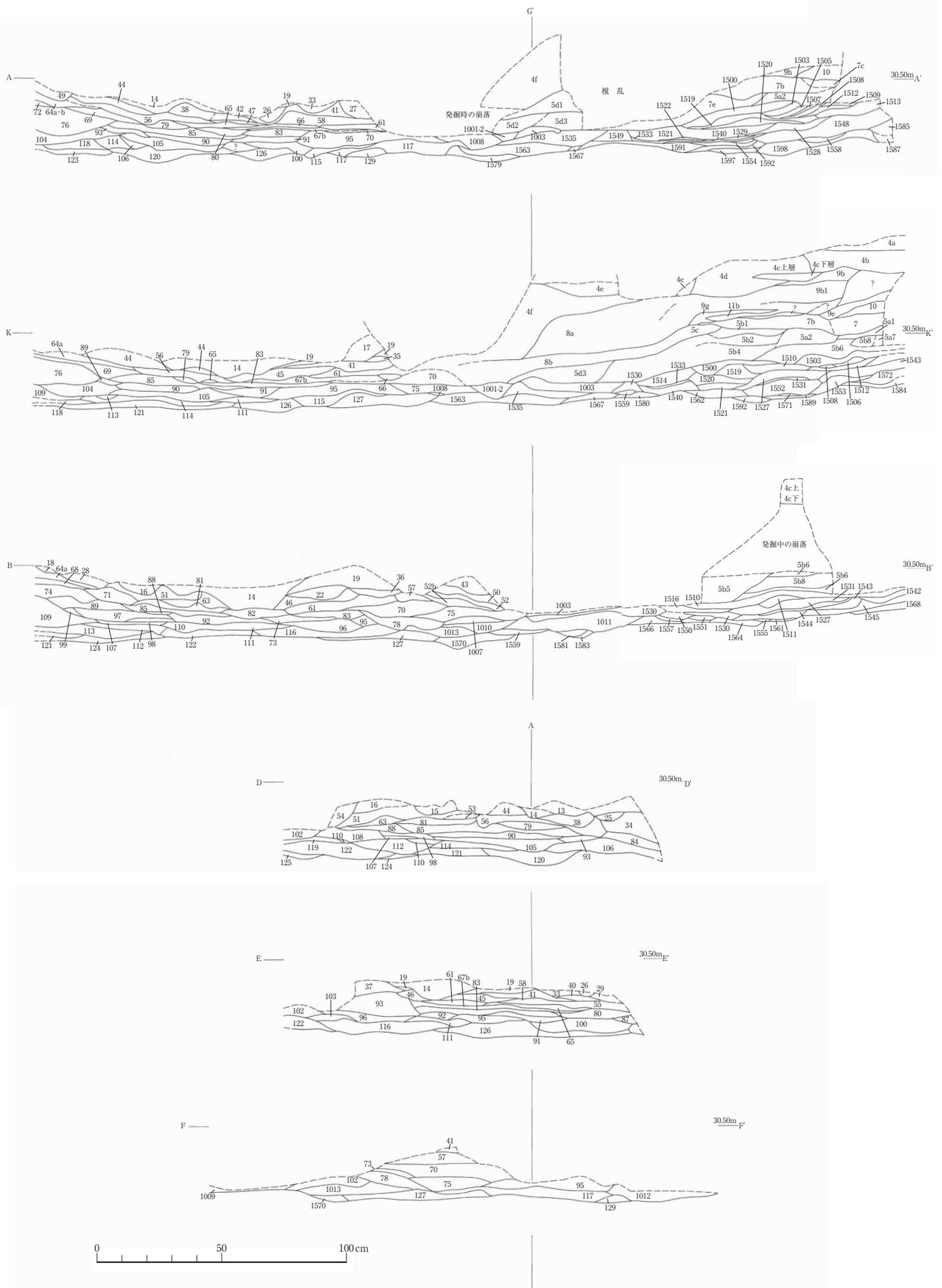


図 54 中央トレンチ I-2・I-3 区具層断面 (1)

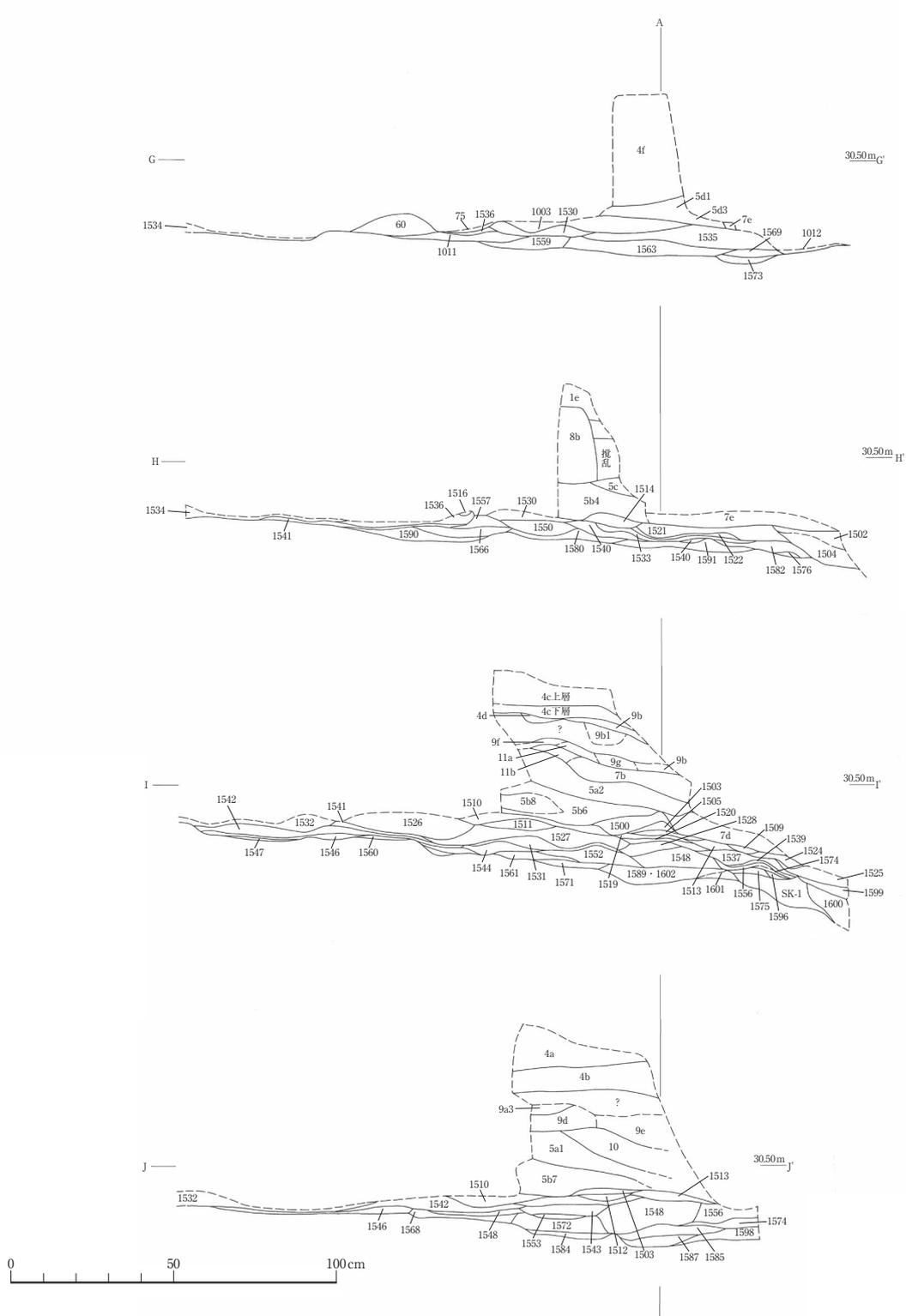


図 55 中央トレンチ I-2・I-3 区貝層断面 (2)

土貝層などの間層を挟んでいる場合が多い。ヤマトシジミは殻長が2, 3, 4cmほどの小型, 中型, 大型があるが, 純貝層のヤマトシジミは中型が多い。78層は焼けた貝の層であり, 1524層は破碎貝層である。いずれも特殊な層である。

(2) 遺構 (図56)

SK-1とSK-2が暗褐色土層で検出された。SK-1はI-3区東半で、SK-2の下で確認された長軸180cm以上、短軸約80cmの隅丸長方形の土坑である。深さ約20cmほどである。土器が多く出土したが、性格は不明である。

SK-2はI-3区中央東寄りで検出された土坑である。貝層下の暗褐色土層を掘り込んでいる。直径30cmと40cmほどの不整形の土坑が二つ、切り合っているようにも見える。深さは北のそれが掘り込み面からおよそ20cm、南のそれがおよそ10cmの皿状の浅い土坑である。性格は不明。

(3) 遺物の出土状況と堆積の時期 (図56~65)

土器の破片と獣骨片を多く含む層があるが、それらは同一層の中で両者をともに含む場合が多い。下から、(a) I-2区の115・117・122・124・126・129層、I-3区の1010・1013・1548・1549・1552・1553・1559・1571・1598・1648層、(b) I-2区の61層、I-3区の7b層、(c) I-3区の4b層の三つに区分される。純貝層で、土器や獣骨を多く含む層はなく、純貝層はそれらに挟まれる。つまり、堆積を大きくとらえれば、(1) 暗褐色土層・黒褐色土層→(2) 土器と獣骨を多く含む混土貝層→(3) 純貝層を中心とする貝層と混土貝層→(4) 土器と獣骨を多く含む混土貝層→(5) 混土貝層→(6) 土器と獣骨を多く含む混土貝層、となる。このように、土器と獣骨を相対的に多く含む層とそうでない層がいくつか互層になっているのは、I-1・II-1区でも捉えられた。

(1)の暗褐色土層・黒褐色土層の表面には、獣骨がとくに多量に散乱している。直上の貝層にも獣骨は多く含まれるが、土層の表面の獣骨に貝が積み重なった場合も多かったであろう。これらの獣骨は、I-2・I-3区の全域にわたって認められるが、いくつかのブロックを形成している(図62)。その中には、ニホンオオカミの下顎骨、切り込みを2か所入れたニホンジカの角、連結したイノシシの脊椎骨などが認められる。

各層の出土土器は以下のとおりである(図66~88)。(1)の暗褐色土層・黒褐色土層は、撚糸文・細密条痕の土器が多いが、前浦Ⅱ式も多く含む。加曾利B式土器~安行3b式・姥山Ⅱ式も一定量を占め、繊維を含んだ前期の土器も混じる。細密条痕は整ったものが多い。大洞A'式期の土器も含む。(2)の混土貝層には、撚糸文の土器、細密条痕の土器が多く、やはり前浦Ⅱ式、安行3b式・姥山Ⅱ式、加曾利B式を一定量含む。(3)の純貝層を中心とする層は、細密条痕の土器を含み、前浦Ⅱ式が若干混じる。(4)の混土貝層には沈線文の甕や雑書文の土器が混じる。

これらの土器は、撚糸文の土器がごくわずかであるのに対して、細密条痕が圧倒的多数を占める。二枚貝条痕はない。精製土器は少ないので何とも言えないが、大洞A'式を伴うのであり、細密条痕も下層から上層まで整った緻密なものばかりであるから、荒海1式とみなしうる。18I区出土土器も荒海1式であったから、荒海1式が細別できるのか、撚糸文を主体とする18I区出土土器を千網式とみなし、I-2・3区の荒海1式から分離するか、検討を要する。

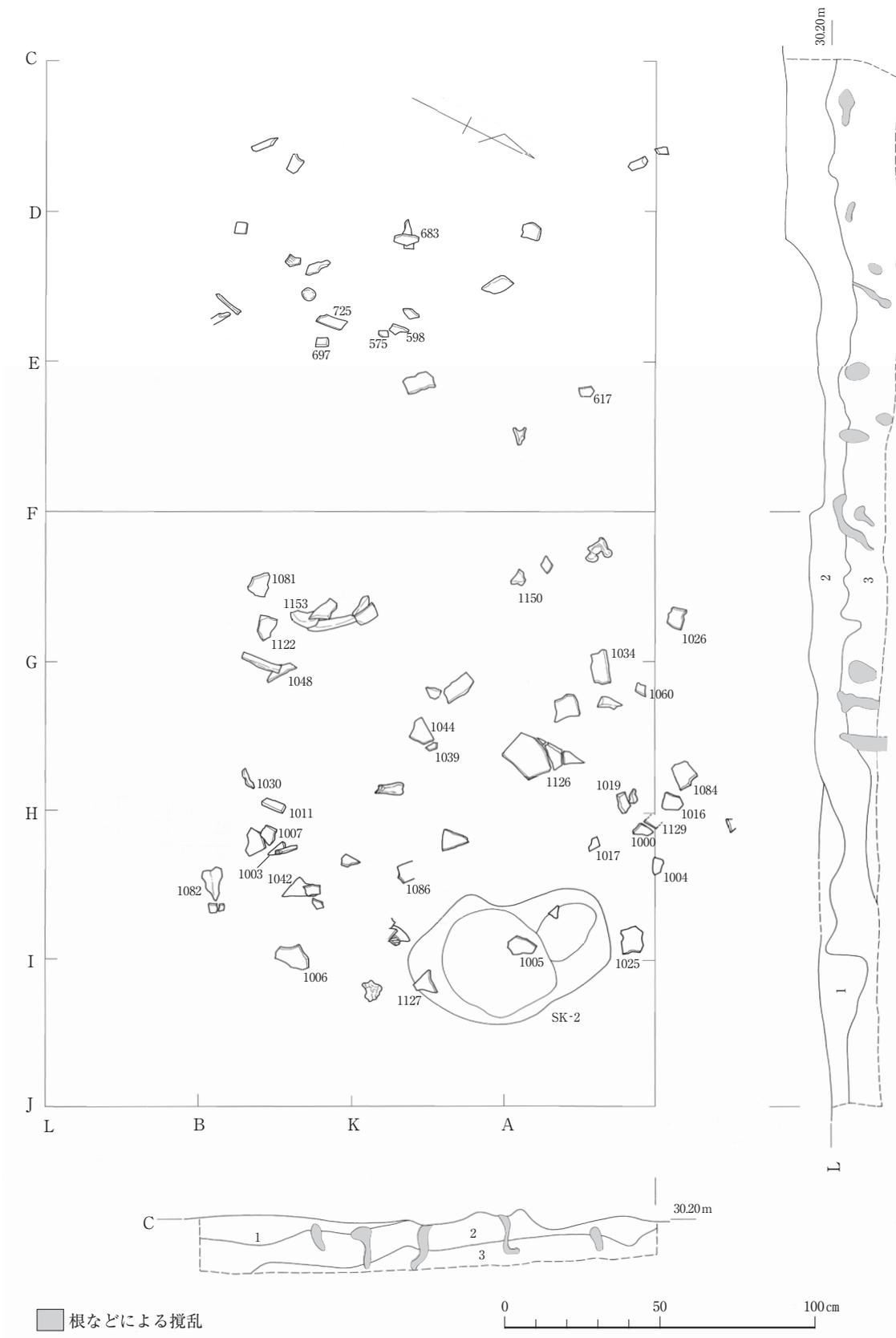


図 56 中央トレンチ I-2・I-3 区貝層下褐色土層の遺構と遺物出土状況

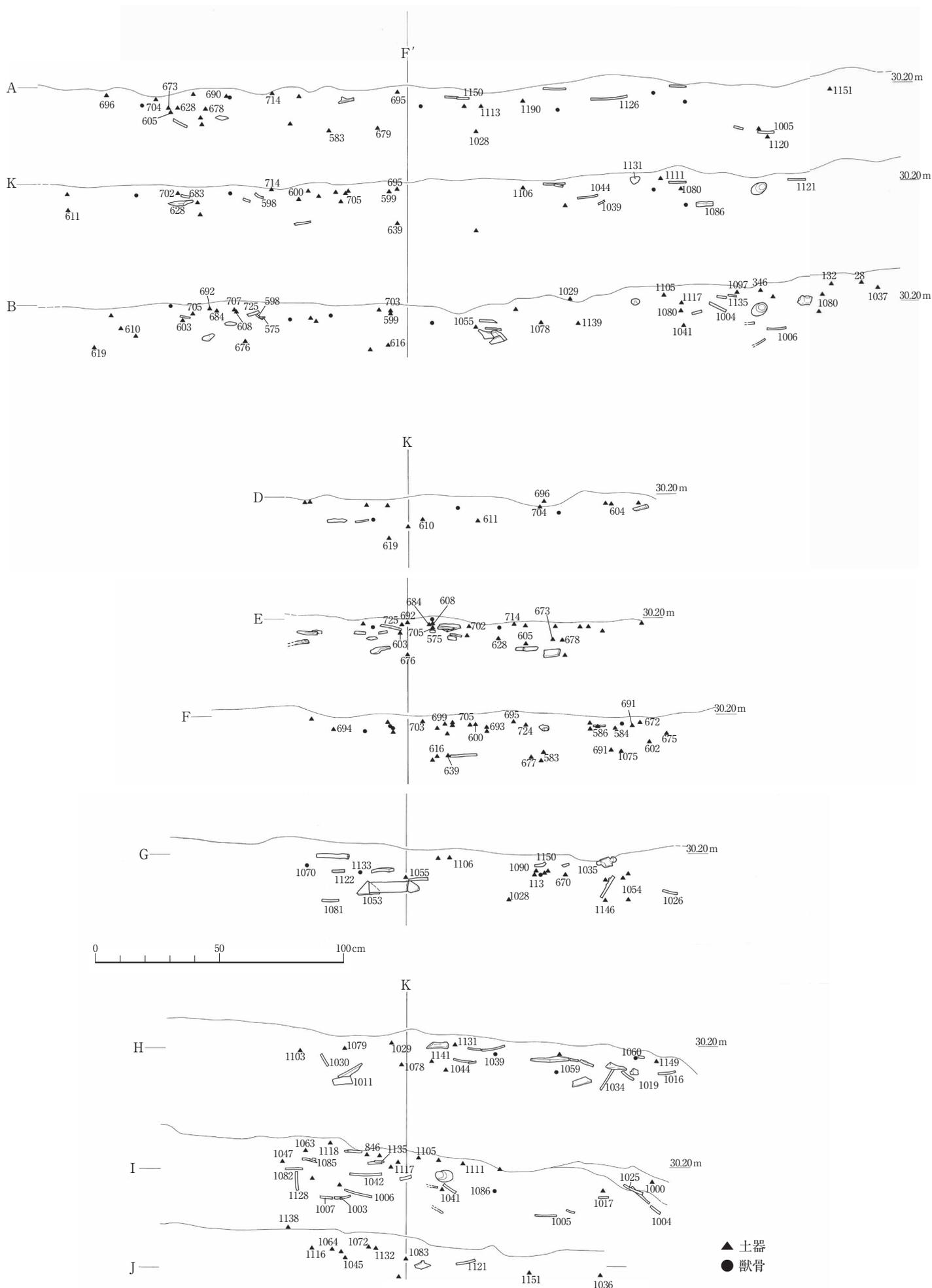


図 57 中央トレンチ I-2・I-3 区貝層下褐色土層遺物堆積状況

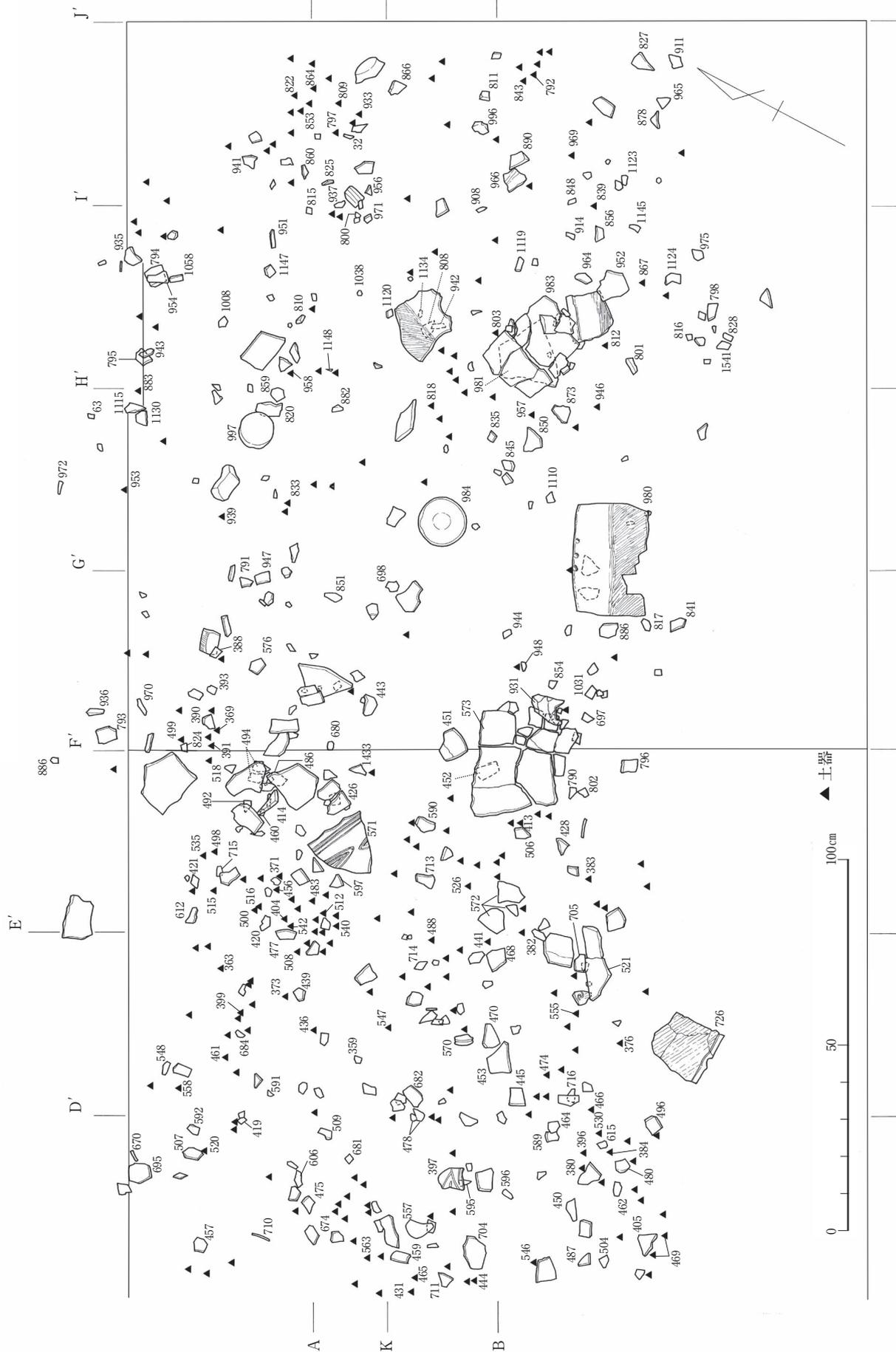


図58 中央トレンチI-2-I-3区土器分布状況

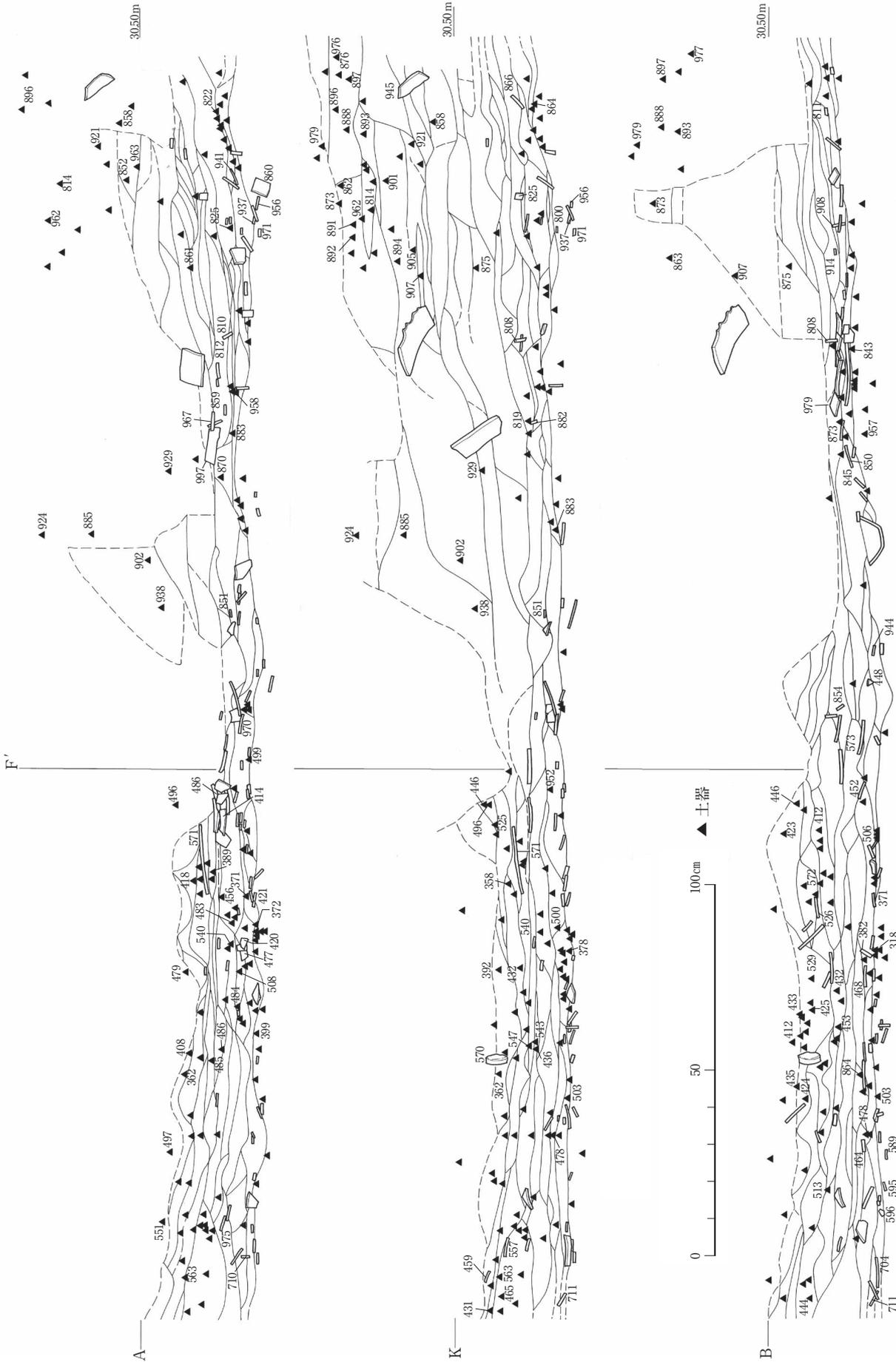


図 59 中央トレンチ I-2・I-3 区土器堆積状況 (1)

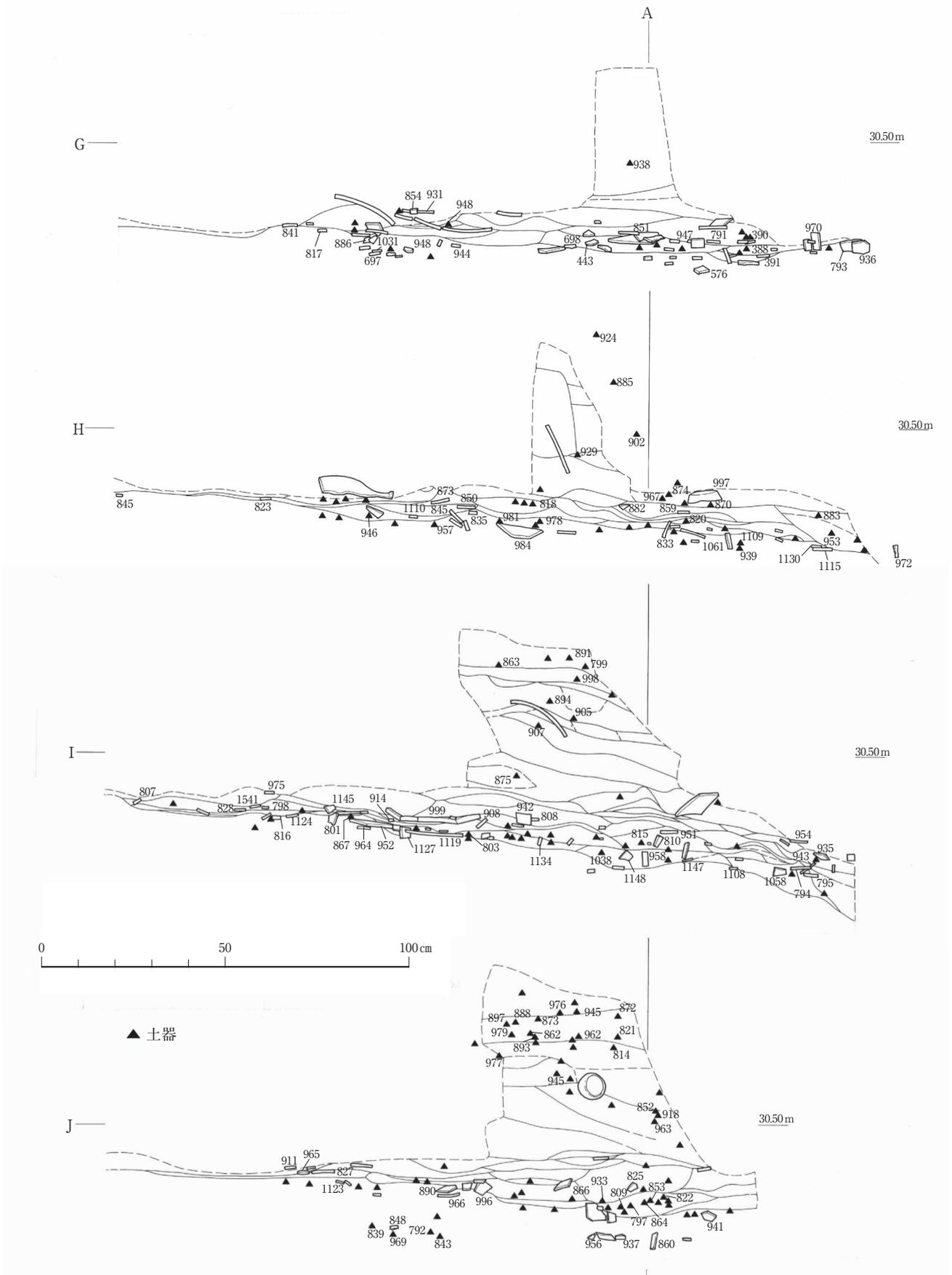


图 60 中央トレンチ I-2・I-3 区土器堆積状況 (2)

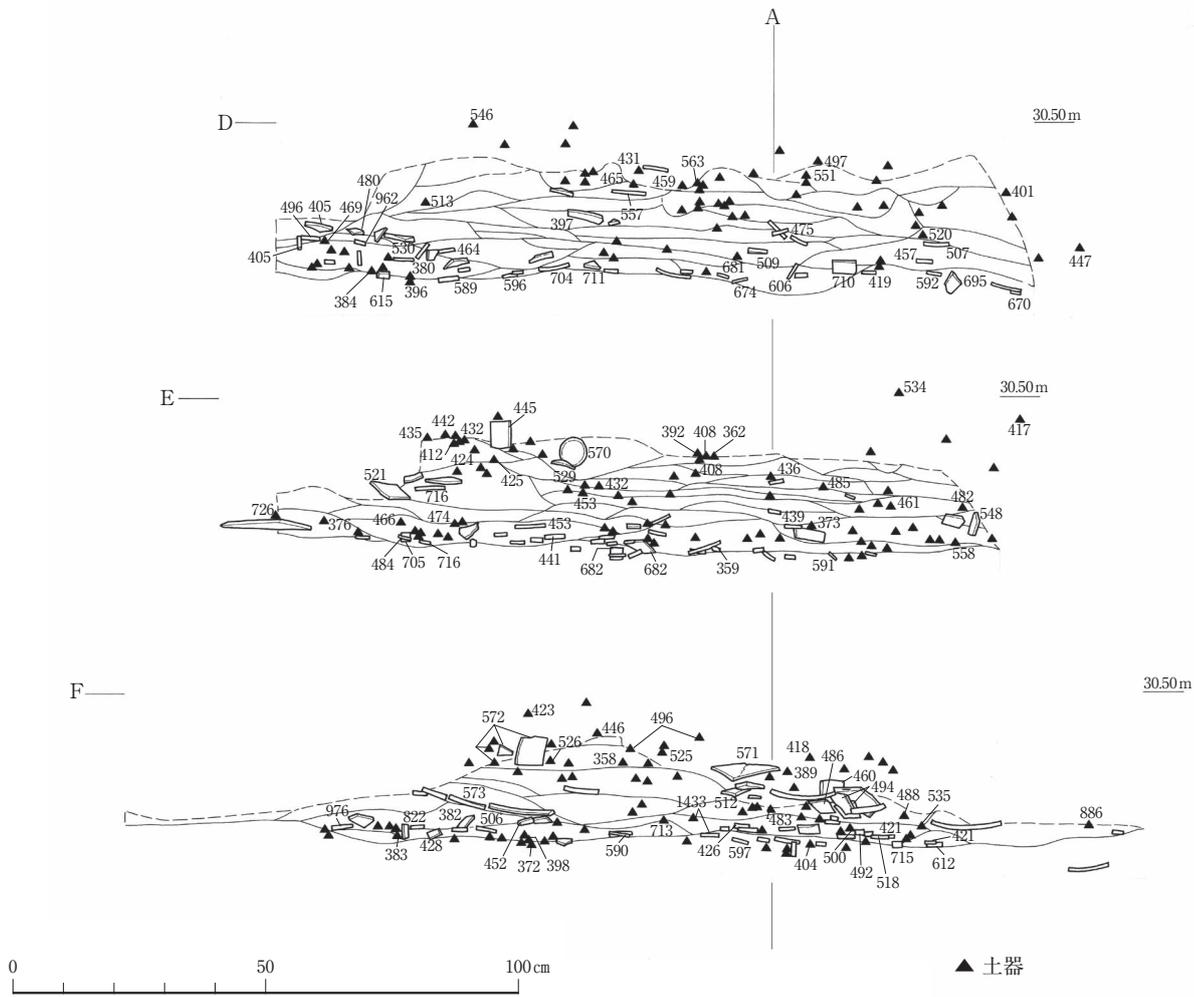


図 61 中央トレンチ I-2・I-3 区土器堆積状況 (3)

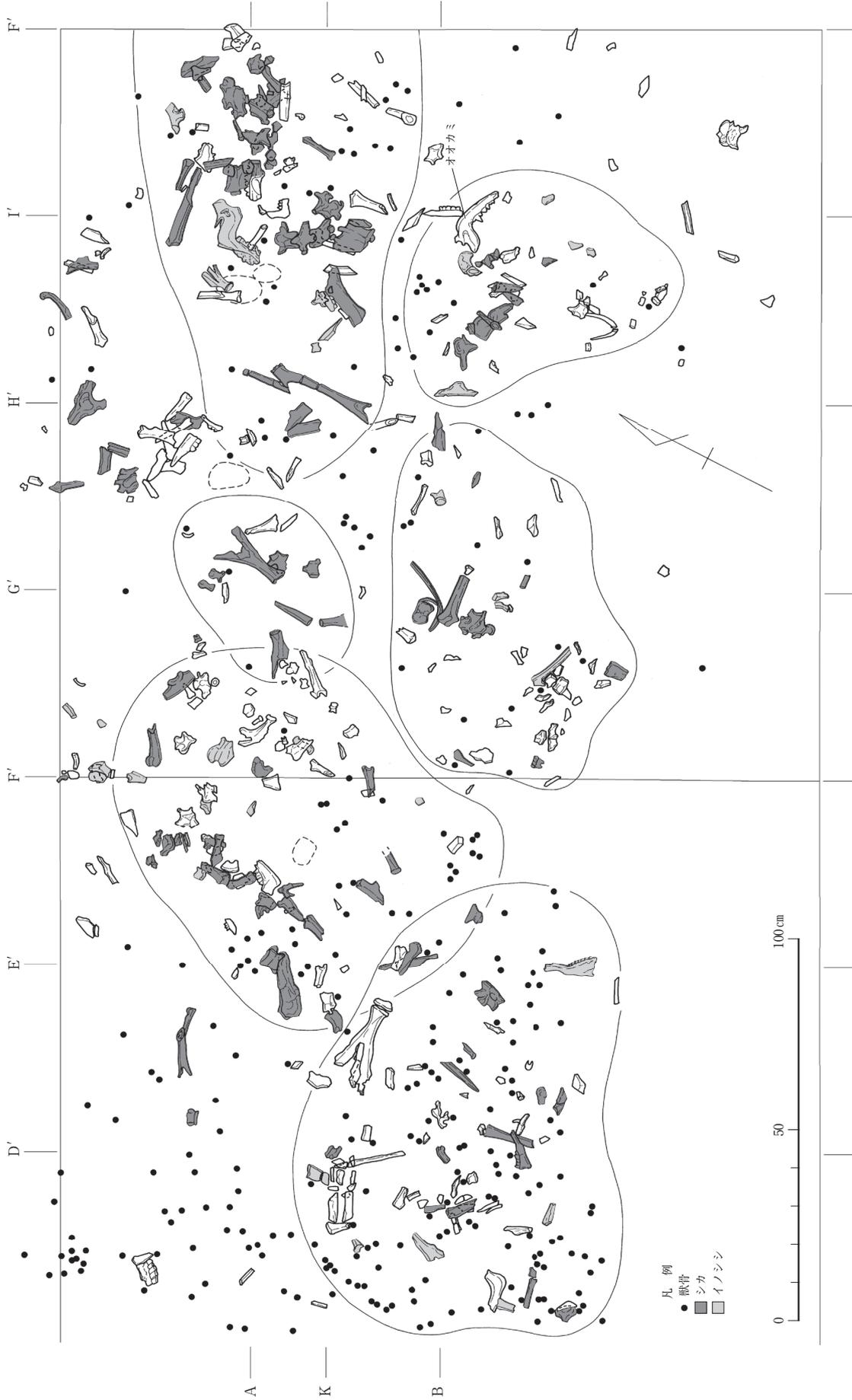


図 62 中央トレンチ I-2・I-3 区獣骨分布状況

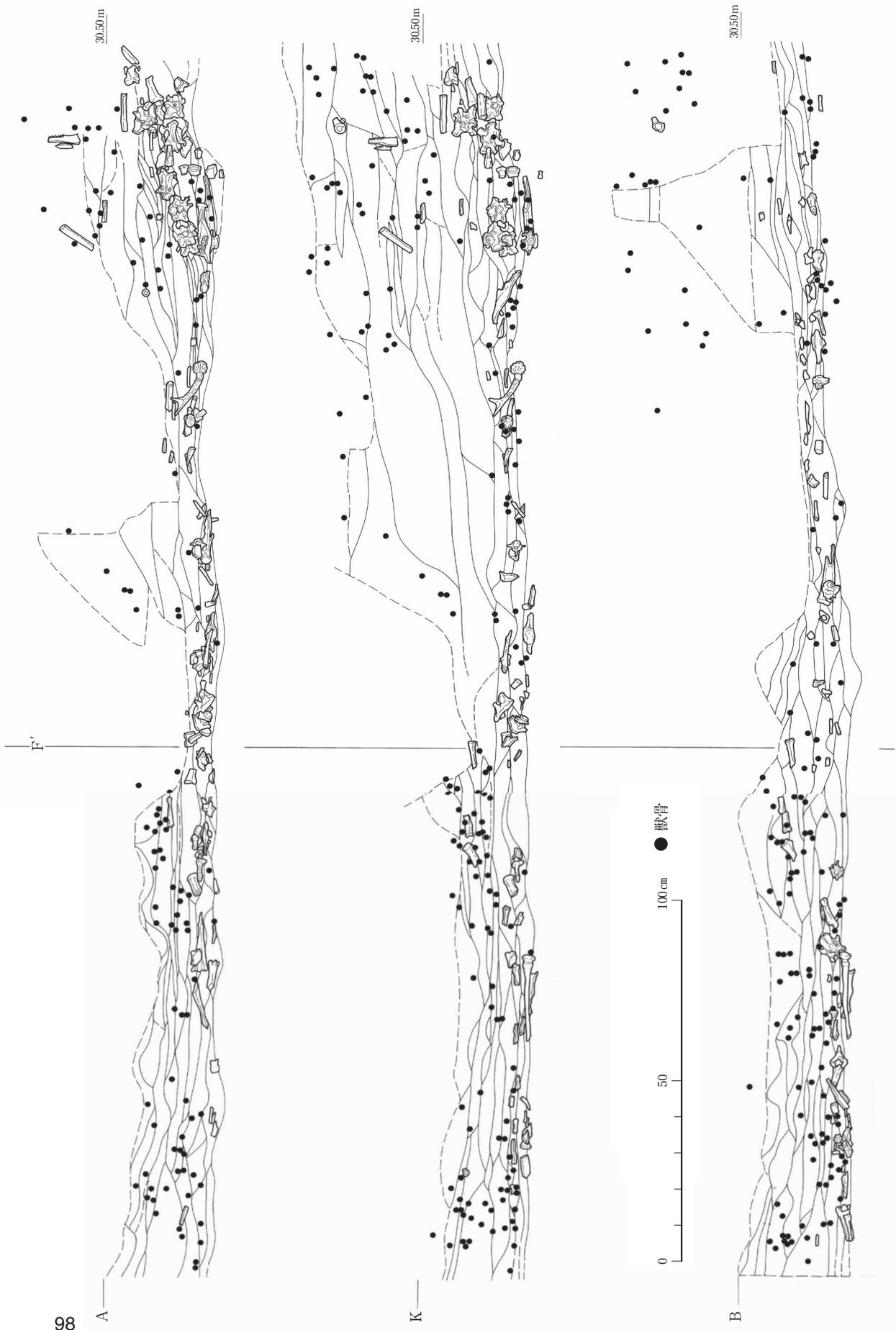


図 63 中央トレンチ I-2・I-3 区獣骨堆積状況 (1)

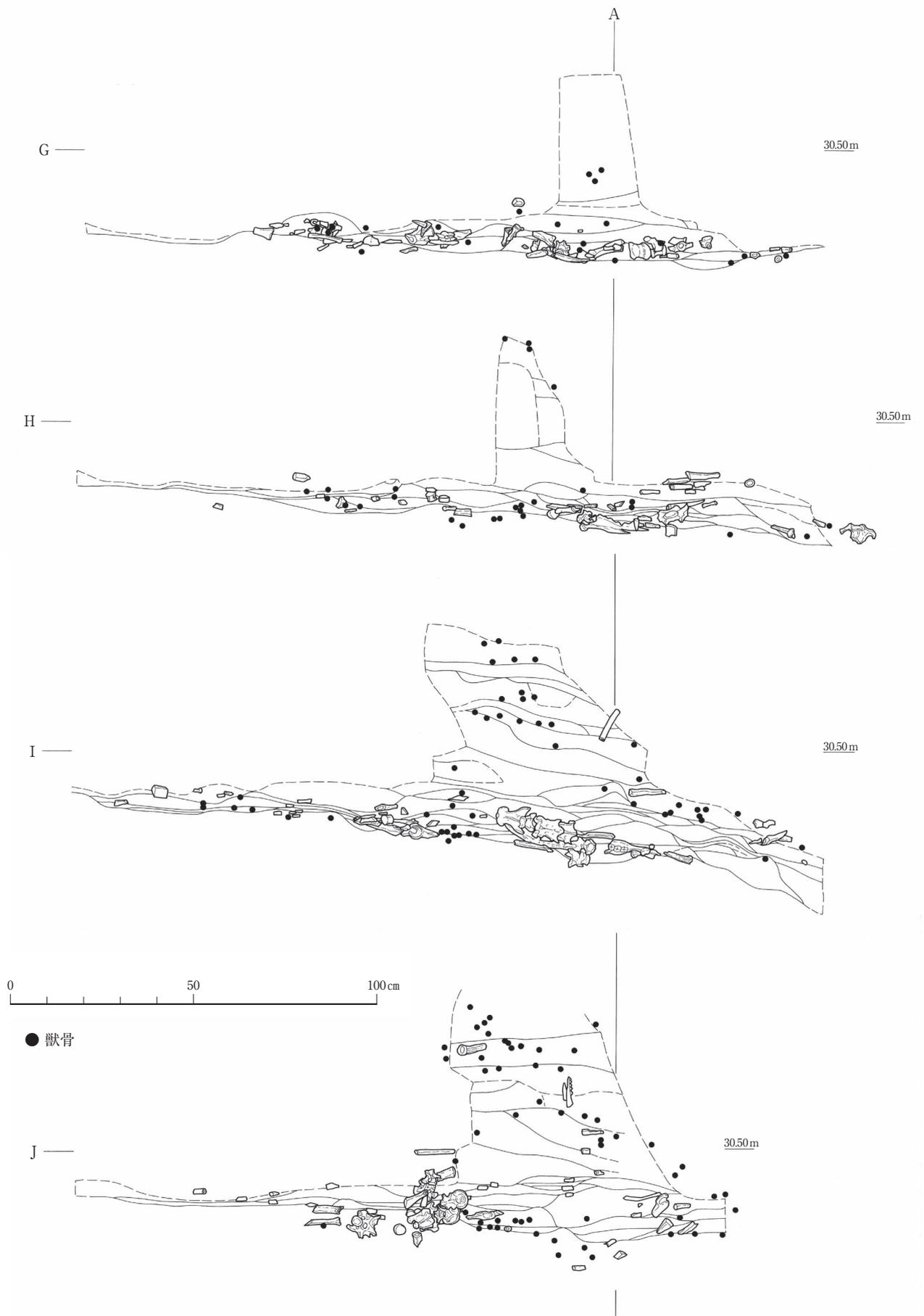


図 64 中央トレンチ I-2・I-3 区獣骨堆積状況 (2)

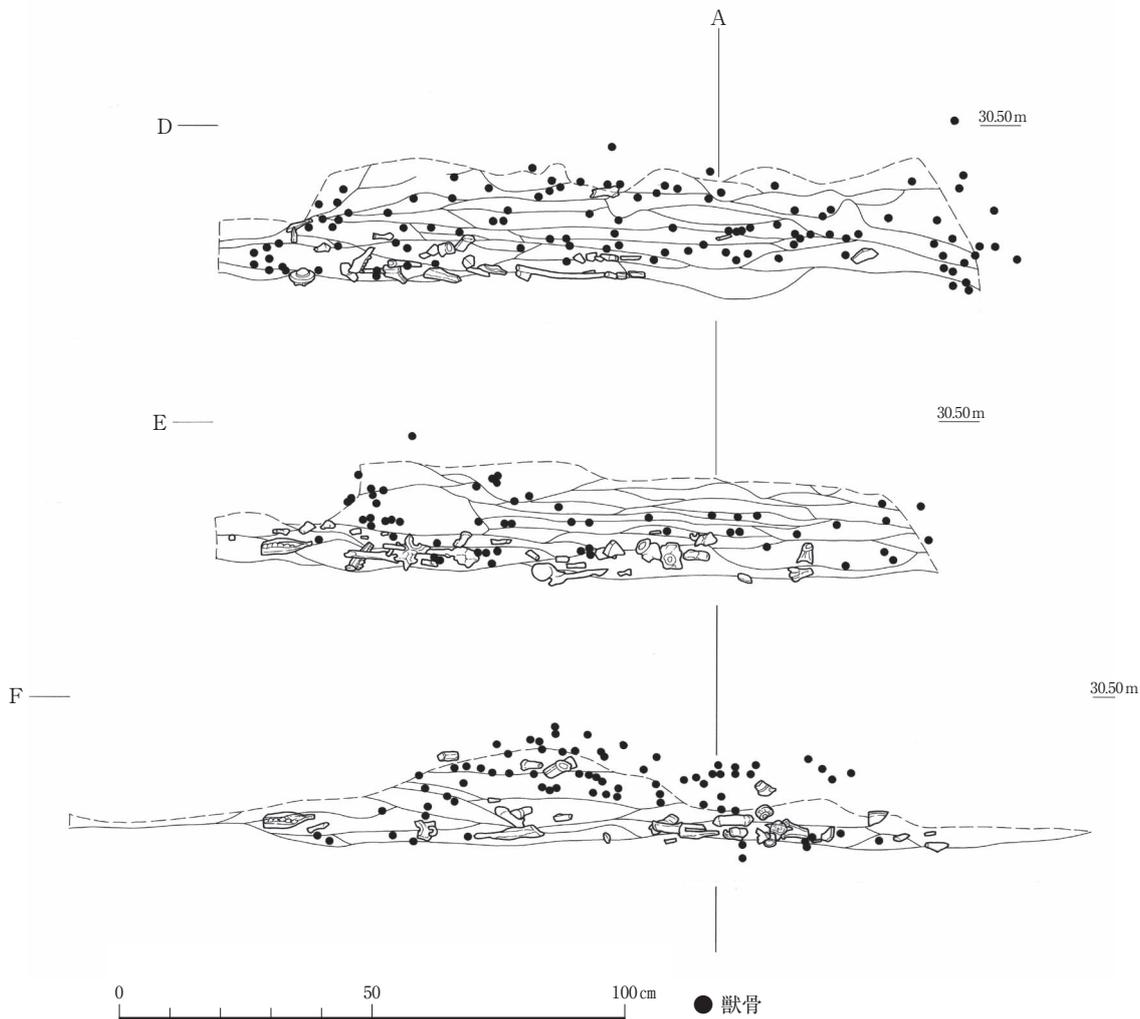


図65 中央トレンチ I-2・I-3 区獣骨堆積状況 (3)

(4) I-2 区の出土土器 (図66-326~図75-726)

326~356 が貝層の上に堆積していた褐色土層や攪乱層からの出土土器。357~573・593・659 が貝層中の出土土器。574~592・594~658・660~726 が貝層下の褐色土・黒褐色土層からの出土土器である。

① 貝層上の土層と攪乱層の出土土器

第Ⅵ群土器 (327・328)

3類 (327) 繊細な集合沈線文の土器。注口土器かもしれない。加曽利 B1 式。

12類 (328) 頸部が屈曲し、そこに列点文を加え、胴部に磨消縄文で縄文帯あるいは弧状の曲線文を加えたもの。加曽利 B3 式、あるいは第Ⅶ群 1 期に属す。

第Ⅷ群土器 (329)

1類 (329) 隆起帯縄文だが、扁平な傾向の強い類。329はその類の注口土器注口部。注口は短くずんぐりしてこの時期の特徴を示す。下に縦に刻みをもつ扁平な貼り瘤がある。安行 3a 式。

第Ⅸ群土器 (330・337・338)

3類 (330) 太い沈線によって区画された磨消縄文の土器。前浦Ⅱ式。

5類 (337・338) 撚糸文の深鉢。折り返し口縁とそれに類するもので、口縁部に横方向、以下縦や格子状に撚糸文を入れる。撚糸文は深くしっかりしている。口縁部がとがり気味の特徴がある。前浦Ⅱ式の粗製土器であろう。

第Ⅹ群土器 (331・333～336・339～356)

5類 (333・334・336) 沈線文の土器。333は口縁に2条の沈線を加えた深鉢。沈線間は丸みを帯びるように調整され、隆線気味になる。334は多条の沈線で頸部に文様を描く深鉢で、334は3本の沈線で稲妻状にモチーフを展開したいわゆる雑書文の類である。333も沈線は3条以上である。336の壺は肩部に4条の沈線で平行線を描く。

7類 (339) 撚糸文の土器。

8類 (340～356) 条痕文の土器。

細密条痕の土器

深鉢C (348) 348は波状口縁。

甕A2 (341) 341の口縁端部は尖り気味。

甕A3 (342・343) 342・343は薄手で、口縁肥厚部分は無文であり、頸部以下に細密条痕を施す。口縁は面取りされ、端が鋭く切られたままで未調整となっている。

甕C1 (344) 波状口縁である。口縁端部は鋭く面取りされている。

二枚貝条痕の土器

354・355。354は壺であり、二枚貝腹縁で並行沈線文を描いているように見える。

9類 (331・335) 無文土器。色調や態度、焼成具合などから判断して、本類に収めた。331は折り返し口縁の深鉢。335は壺であり、よく研磨されている。

② 貝層中の出土土器

第Ⅴ群土器 (372) 1期の堀之内Ⅰ式。

第Ⅵ群土器 (370・373～382)

7類 (373・374) 沈線文を集合させて斜格子状あるいは矢羽根状に施した土器。

12類 (382) 頸部が屈曲し、そこに列点文を加え、胴部に磨消縄文で縄文帯あるいは弧状の曲線文を加えたもの。

14類 (370・375～379) 紐線文土器。縄文地文に粗い条線文を加えたものが大半。

7・14類の大半は加曾利B2式。12類と14類の621が加曾利B3式、あるいは第Ⅶ群1期に属す。

第Ⅶ群土器 (383・387～395)

1類 (383) 隆起帯縄文だが、扁平な傾向の強い類。

2類 (387・388) 扁平な磨消縄文とそれに伴う類型。

5類 (359) 口縁が内湾する砲弾形の深鉢。横方向の弧状の条線文を口縁部に加える。

1類は安行3a式。2・5類は安行3b式ないし姥山Ⅱ式。

第Ⅸ群土器 (384・396～399)

2類 (397) 波状口縁の鉢。三叉状の区画がみえ、内面文をもたない。1期の前浦Ⅰ式。

3類 (384・396・398・399) 太い沈線によって区画された磨消縄文の土器。多くは前浦Ⅱ式である。

第Ⅹ群土器 (400~403・405・421・430~558・560~573)

1類 (400) 口縁に沈線区画と列点をもつ深鉢。口縁端部が面取りされて平坦になる。茶褐色。白色微砂を含む。

3類 (403・437) 437は削り込んで浮線を浮き立たせているが、モチーフは不明。赤みがあった茶褐色で、混和材は目立たない。

4類 (439) 沈線で区画した口縁部文様帯をもち、胴部に単節RLの縄文を加えた鉢。淡い赤褐色であり、沈線のシャープさや、沈線脇の調整の粘土が縄文部にはみ出しているところなど、他の類と特徴を異にしている。

5類 (421・430・432・434~436・438・532・571) 沈線文の土器。432・433は多条の沈線で頸部に文様を描く深鉢である。434は3・4類の胴部の可能性もある。438は荒海式に特有の断続的な沈線をもち、補修孔がある。571は3本の沈線で稲妻状にモチーフを展開したいわゆる雑書文の類である。大型の破片で、口縁が鋭く面取りされ、波状をなす。

7類 (440~445・518・520・522) 撚糸文の土器。440(甕A2)は折り返し口縁。口縁に横方向の撚糸文を加え、頸部は無文とする。441は深く明瞭な撚糸文で、明るい赤褐色。第Ⅹ群に属すかもしれない。

8類 (446~453・455~459・461~517・521・523~558・560~569・573) 条痕文の土器。

細密条痕の土器

深鉢A1 (459・573) 459には小突起を加え、573は口縁端部を連続して強く押さえてさざ波状にしている。459の口縁端部は鋭く面取りされている。

深鉢A3 (449・450・457・466) 457は口縁端部が面取りされる。口縁に突起はもうけられず、平口縁が目立つ。

深鉢C (465・566) 465は波状口縁。566は口縁端部に突起が付く。拓本では二股に分かれているようにみえるが、欠失しているためであり、本来は三角形であろう。

甕A1 (455) 口縁端部を面取りし、細密条痕の施文工具で連続押し引きを施す。

甕A2 (448・458・463) 458・463の口縁端部は面取りされて水平で、455と同じ押し引きがみられる。

甕A3 (467) 平口縁。

甕A4 (456) 甕A3の口縁が外反度を強めたもの。

甕B (452) かるい波状口縁で、口縁は面取りされている。

甕C1 (451・453・461) 波状口縁ないし、口縁に小突起をつける。451の口縁の突起は、丈が高い。突起の右側面を指によってくぼませる。口縁端部の面取りされたものが多い。

9類 (401・402・405・409・417~420・426~429・436・454・460・572) 無文土器。色調や胎土、焼成具合などから判断して、本類に収めた。402・454は頸胴界に屈曲と段差がみられる深鉢。572はよく研磨された淡赤褐色の鉢である。口縁に突起が付くが欠失している。おそらく山形であろう。335・428は壺であり、335・428はよく研磨されている。417は小型の鉢。418には補修孔がある。

③ 貝層下土層の出土土器

第Ⅱ群土器 (592・593・595) 592は胎土に繊維を含む関山式ないし黒浜式。593・595は0段多条縄文。

第Ⅴ群土器 (574・575・577・581・582・718・720・721) 1期の堀之内1式。584・585・588～597の縄文だけみられる破片のうちのあるものも、この群に含まれる。

第Ⅵ群土器 (583・598～618・621・625・630・637・717)

7類 (637) 沈線文を集合させて斜、格子状あるいは矢羽根状に施した土器。

12類 (639) 頸部が屈曲し、そこに列点文を加え、胴部に磨消縄文で縄文帯あるいは弧状の曲線文を加えたもの。

13類 (583) 縄文のみの深鉢。口縁内面に沈線がめぐる。

14類 (598～617・621・625・630・717) 紐線文土器。598には紐線文の下に半截竹管によるコンパス状の沈線文が描かれる。縄文地文に粗い条線文を加えたものが大半だが、621だけ条線がやや密であり、縄文が隠れ気味。

13類は堀之内2式。7・14類の大半は加曾利B2式。12類と14類の621が加曾利B3式、あるいは第Ⅶ群1期に属す。

第Ⅶ群土器 (628・639・642・656) 628・642は紐線文土器。地文に縄文がない。656は隆起帯縄文の深鉢。639はその類型の胴部。

第Ⅷ群土器 (574・638・641・643～648・660・681)

2類 (638・643～645・647・648・681) 扁平な磨消縄文とそれに伴う類型。638は胴部に磨消縄文の入り組み弧線文が描かれる。643にも入り組み弧線文がある。これは周囲の刻目からして、手燭形土器の破片であろう。645は鉢である。

5類 (646) 口縁が内湾する砲弾形の深鉢。横方向の弧状の条線文を口縁部に加える。

6類 (660) 無文土器。口縁が内湾する砲弾形の深鉢。無文の661～669には、第Ⅷ群の2期あるいは第Ⅸ群が含まれていると思われる。

2・5類は安行3b式ないし姥山Ⅱ式。

第Ⅸ群土器 (649～655・657～659)

3類 (649～655・657～659) 太い沈線によって区画された磨消縄文の土器。

3類の多くは前浦Ⅱ式である。

第Ⅹ群土器 (632・685～716・719・722・723・725・726)

3類 (689) 689は沈線化した浮線網状文の文様モチーフをもつ鉢である。浮線部分は尖り気味である。上の浮線は2線分岐で、右側の欠失部は3線分岐になるかもしれない。赤みがかかった茶褐色で、混和材は目立たない。貝層下土層の出土である。

5類 (687・688・690・691) 沈線文の土器。690は3・4類の胴部の可能性もある。荒海2式を特徴づける変形工字文が貝層中の5類には見られない。

7類 (692～703) 撚糸文の土器。

8類 (704～716・719・722・726) 条痕文の土器。7類の撚糸文よりも8類の細密条痕が圧倒的に多く、それも整った調整が大半である。

細密条痕の土器

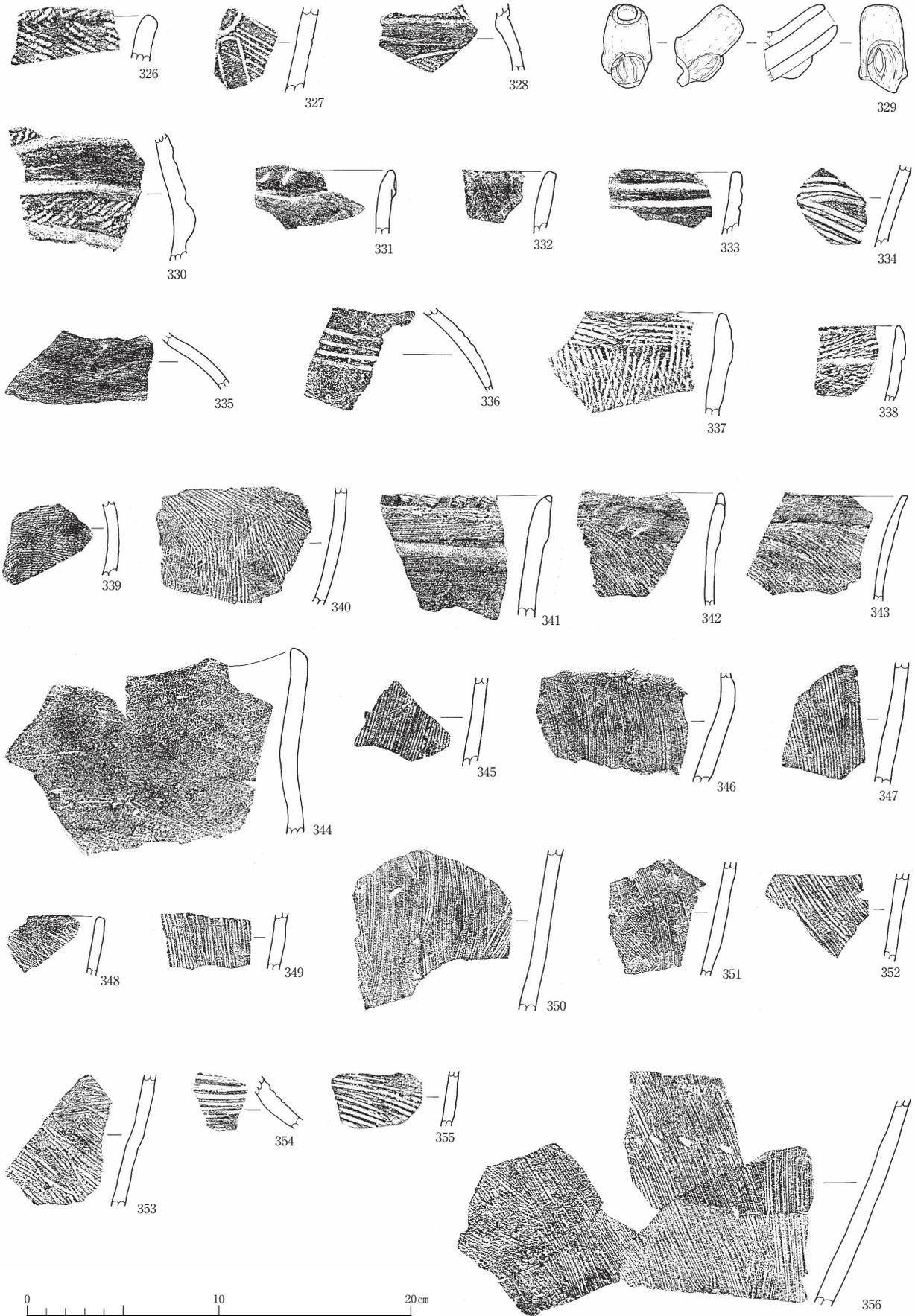


図66 中央トレンチ I-2 区出土土器 (1)

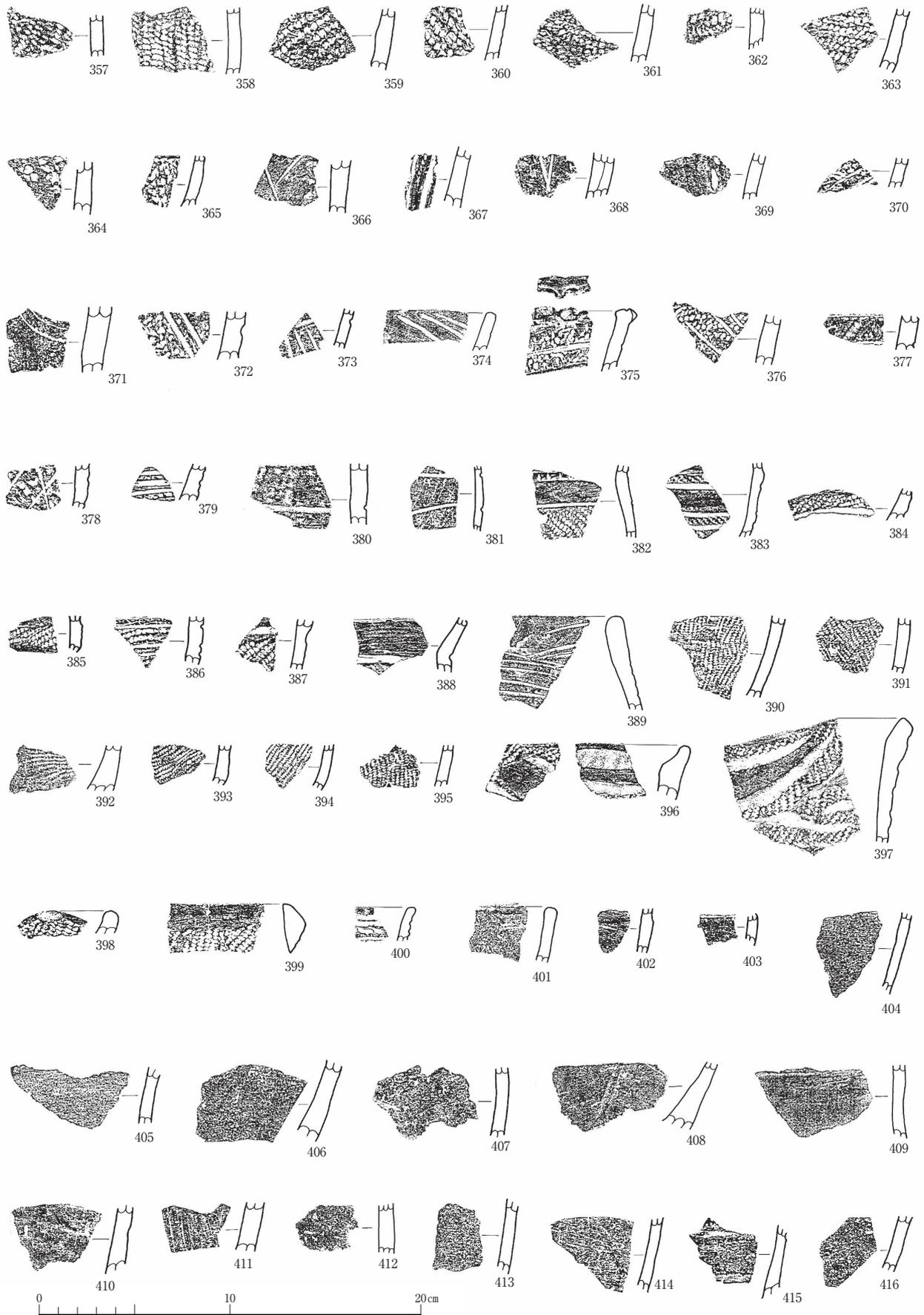


図 67 中央トレンチ I-2 区出土土器 (2)

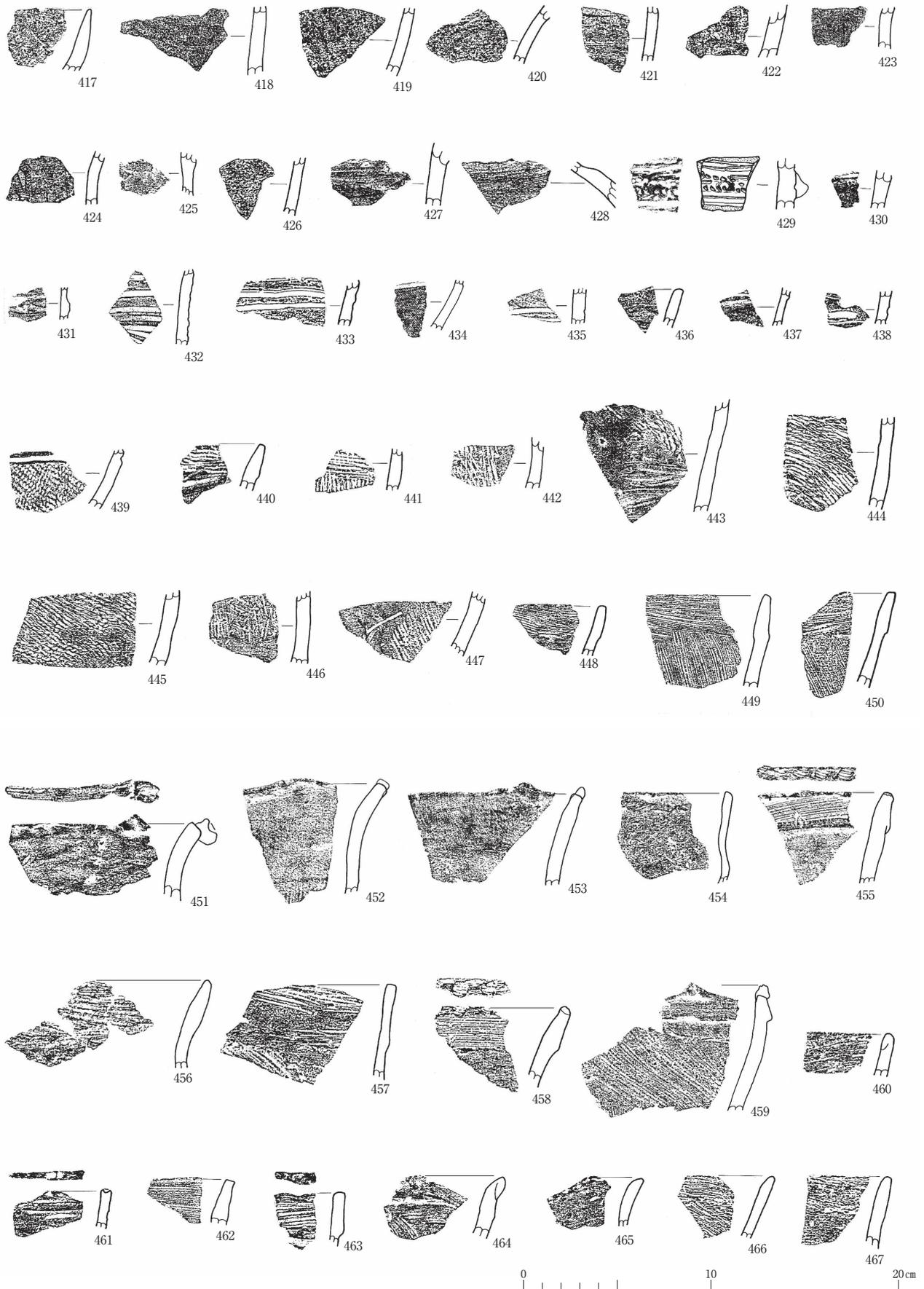


図 68 中央トレンチ I-2 区出土土器 (3)

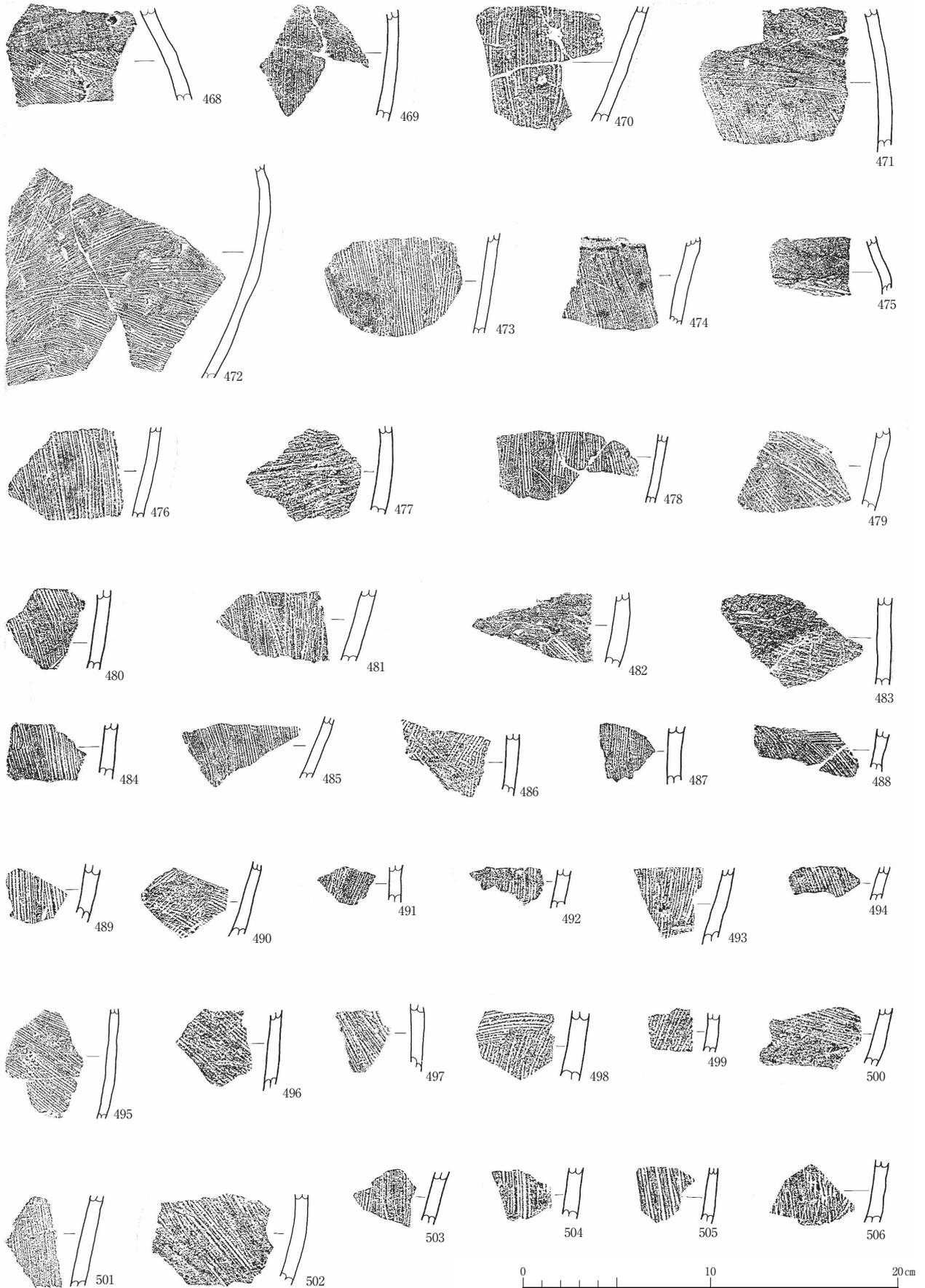


図 69 中央トレンチ I-2 区出土土器 (4)

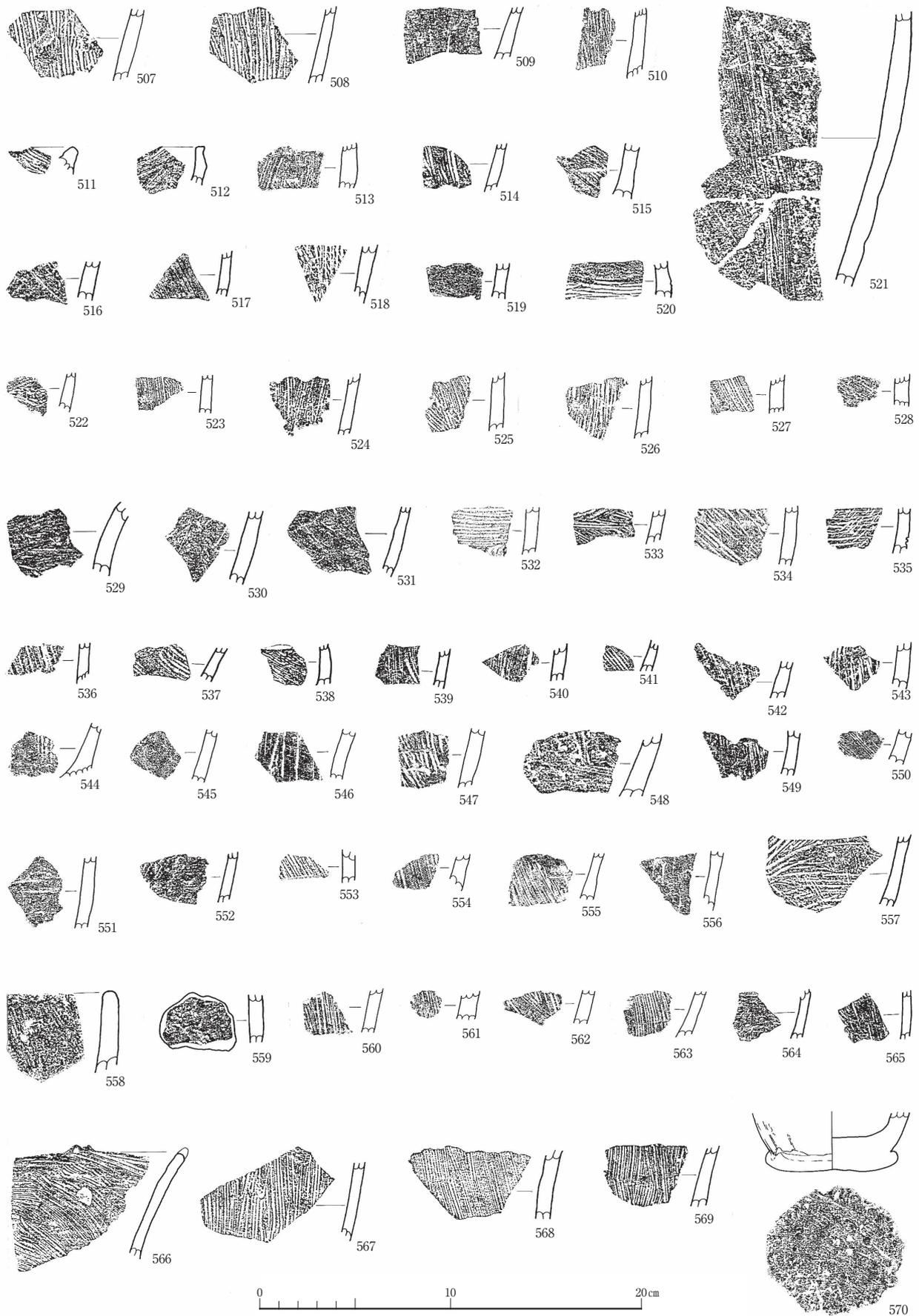


図70 中央トレンチ I-2 区出土土器 (5)

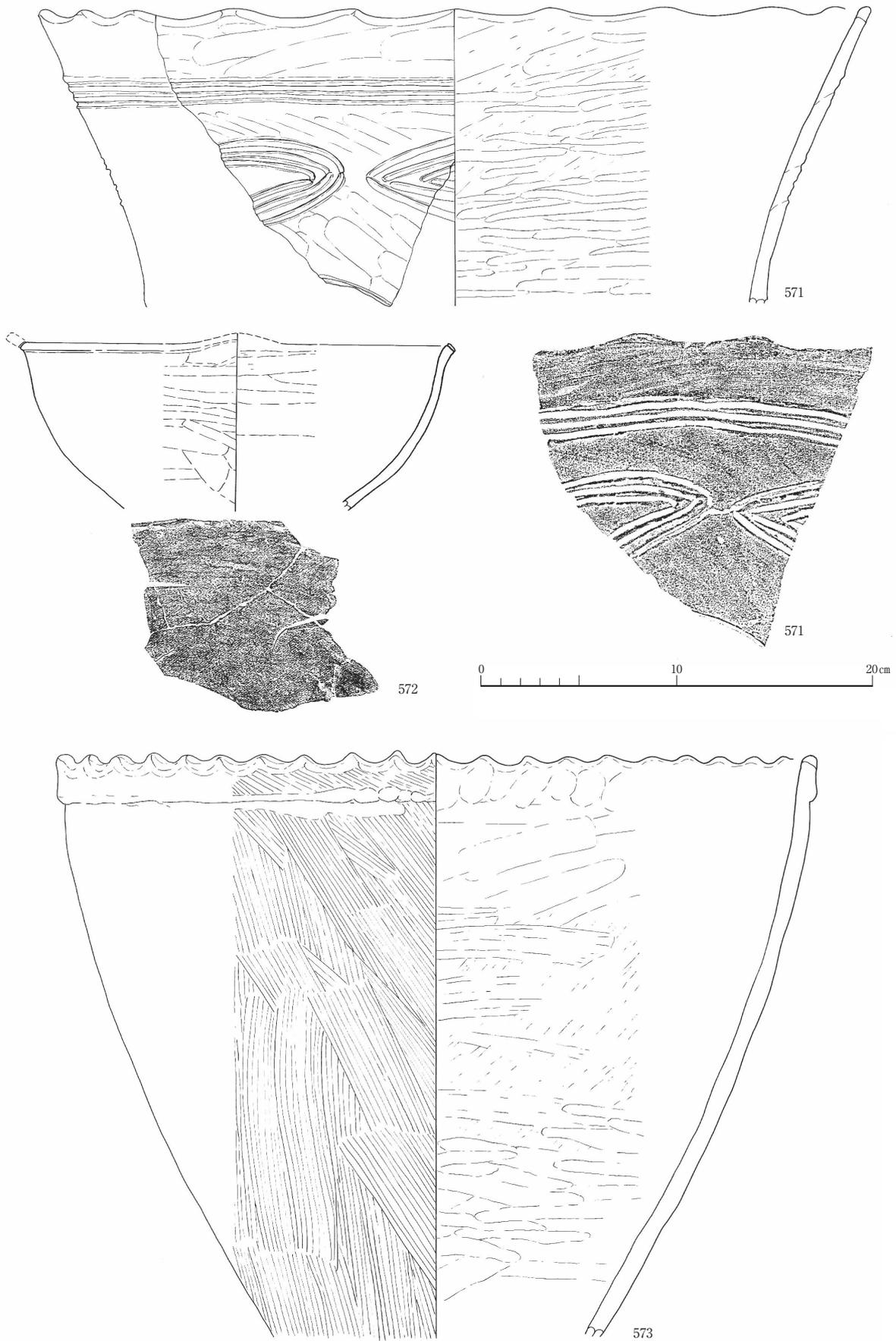


図 71 中央トレンチ I-2 区出土土器 (6)

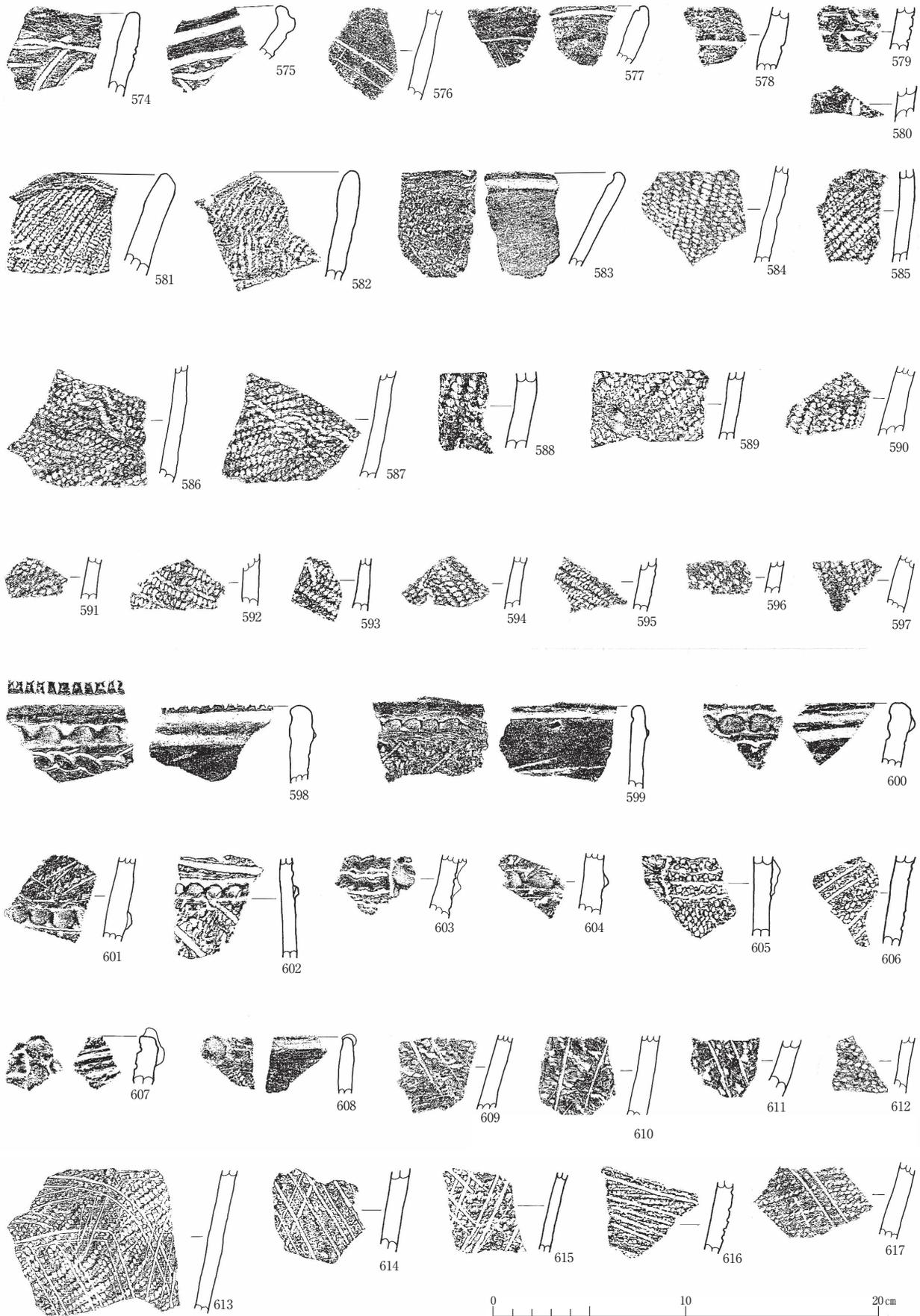


図72 中央トレンチ I-2 区出土土器 (7)

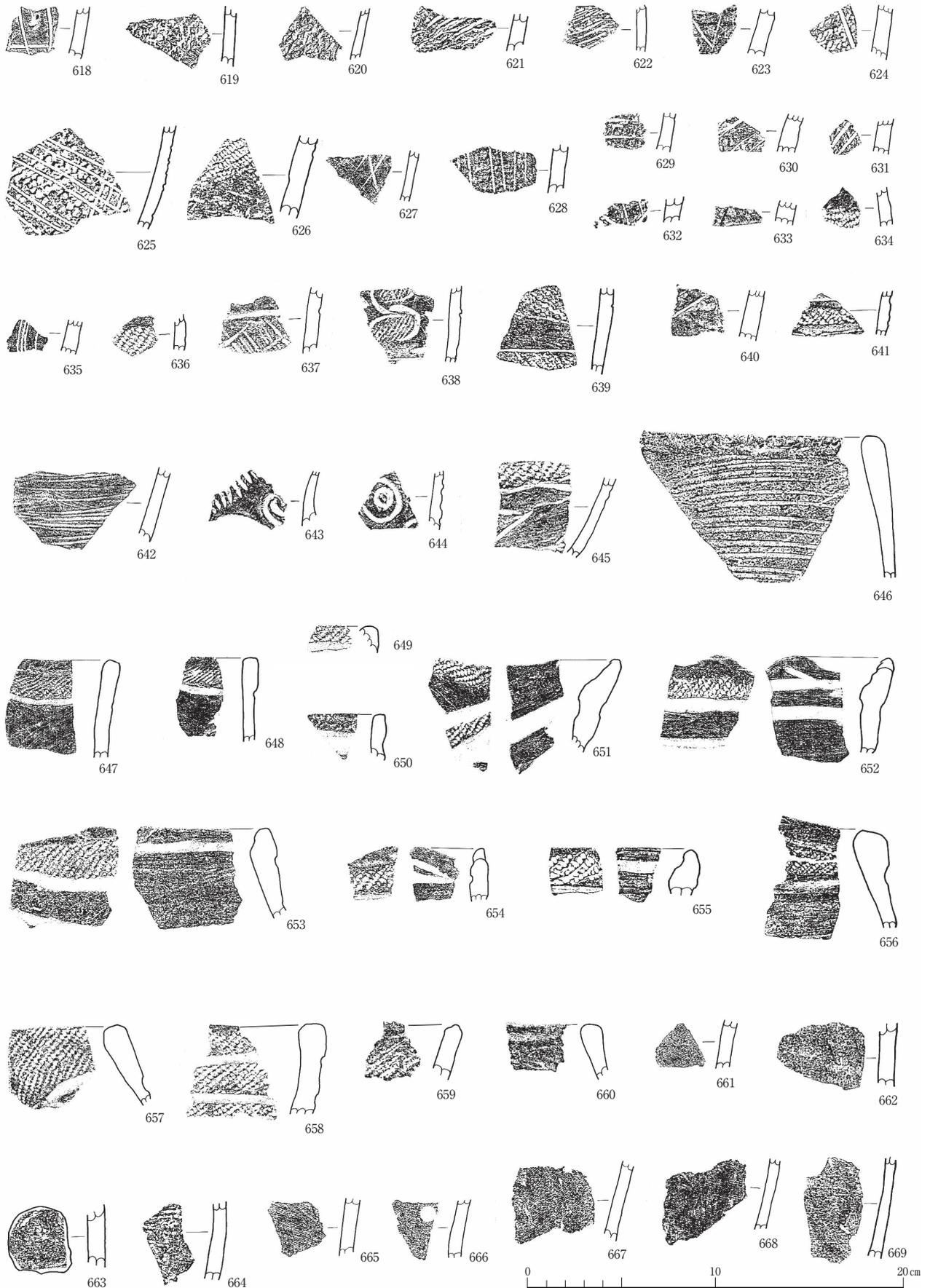


図 73 中央トレンチ I-2 区出土土器 (8)

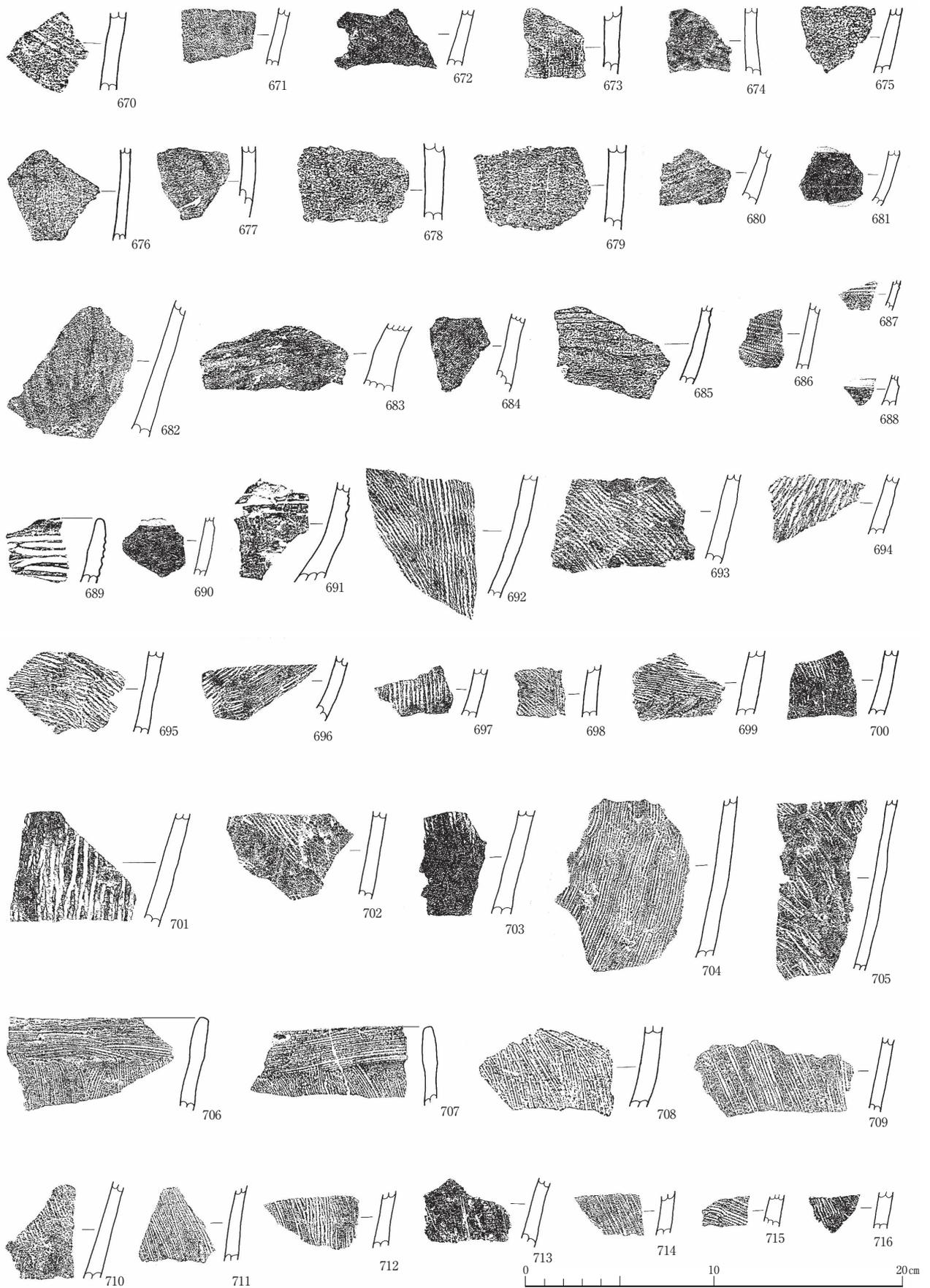


図74 中央トレンチ I-2 区出土土器 (9)

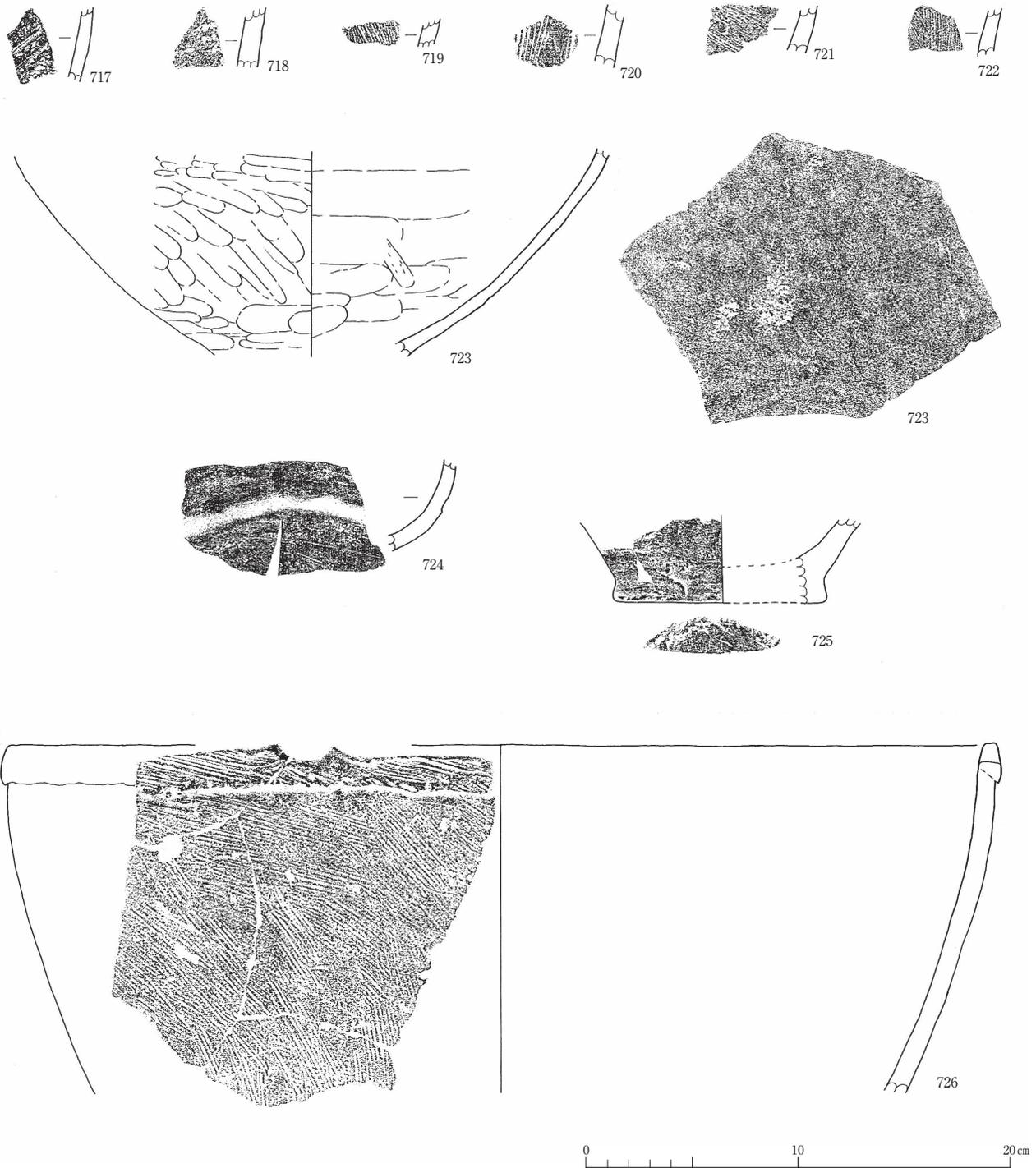


図 75 中央トレンチ I-2 区出土土器 (10)

深鉢 A1 (726) 口縁端部に大きな凹みを入れる。口縁端部は鋭く面取りされている。
 深鉢 A3 (706・707) 口縁が面取りされているが突起はもうけられず、平口縁である。
 二枚貝条痕の土器
 354・355の二点が貝層上の土層から出土したにすぎない
 9類 (685・723・725) 無文土器。660～680・682～684は貝層下土層から出土した無文の土器だが、
 明確に第X群に属すると思われるものはない。

表4 中央トレンチ I-2 区出土土器の層位

番号	層位	355	攪乱層	385	106層	415	121層	445	16層
326	表土層	356	攪乱層・ローム混り茶褐色土層	386	122層	416	91層	446	19層
327	攪乱層	357	129層	387	116層	417	23層	447	32層
328	?	358	45層	388	117層	418	33層	448	15層上層
329	攪乱層	359	120層	389	58層	419	120層	449	107層
330	攪乱層	360	129層	390	117層	420	100層	450	113層
331	攪乱層	361	1110層	391	129層	421	129層	451	75層
332	攪乱層	362	14層	392	41層	422	126層	452	116層
333	ローム混り茶褐色土層	363	100層	393	117層	423	19層	453	112層
334	攪乱層	364	123層	394	117層	424	16層	454	15層上層
335	攪乱層	365	120層	395	95層	425	14層	455	?
336	攪乱層	366	126層	396	119層	426	117層	456	95・100層
337	ローム混り茶褐色土層	367	104層	397	97層	427	西壁セクション P5	457	75層
338	ローム混り茶褐色土層	368	122層	398	122層	428	116層	458	78層
339	攪乱層	369	95層	399	126層	429	64a層	459	64a層
340	ローム混り茶褐色土層	370	116層	400	24層	430	58層	460	129層
341	攪乱層	371	100層	401	32層	431	64a層	461	80層
342	攪乱層	372	106層	402	126層	432	45層	462	119層
343	攪乱層	373	100層	403	126層	433	14層	463	109層
344	ローム混り茶褐色土層	374	61層	404	126層	434	65層	464	112層
345	ローム混り茶褐色土層	375	129層	405	119層	435	16層	465	74層
346	表土層	376	122層	406	116層	436	80層	466	122層
347	ローム混り茶褐色土層	377	121層	407	72層	437	14層	467	73層
348	?	378	116層	408	141層	438	185層	468	111層
349	ローム混り茶褐色土層	379	93層	409	14層	439	106層	469	119層
350	ローム混り茶褐色土層	380	119層	410	120層	440	5・6層	470	122層
351	攪乱層	381	119層	411	15層上層	441	116層	471	93層
352	破砕貝混り黒褐色土層	382	116層	412	14層	442	16層	472	15層上層
353	破砕貝混り黒褐色土層	383	116層	413	116層	443	117層	473	?
354	ローム混り茶褐色土層	384	117層	414	129層	444	74層	474	112層

475	104層	506	116層	537	76層	568	西壁セクションP3	599	貝層下褐色土層
476	?	507	106層	538	15層	569	西壁セクションP1	600	貝層下褐色土層
477	100層	508	100層	539	91層	570	14層	601	貝層下褐色土層
478	114層	509	120層	540	95層	571	58層	602	貝層下褐色土2層
479	14層	510	15層上層	541	105層	572	46・56層	603	貝層下褐色土層
480	112層	511	78層	542	91層	573	78層	604	貝層下褐色土層
481	?	512	95層	543	76層	574	貝層下褐色土2層	605	貝層下褐色土2層
482	34層	513	16層	544	63層	575	貝層下褐色土層	606	貝層下褐色土層上面
483	95層	514	56層	545	61層	576	貝層下褐色土層上面	607	貝層下褐色土2層
484	122層	515	126層	546	68層	577	貝層下褐色土層	608	貝層下褐色土層
485	56層	516	126層	547	65層	578	貝層下褐色土2層	609	貝層下褐色土層
486	95層	517	129層	548	106層	579	貝層下褐色土2層	610	貝層下褐色土層
487	113層	518	116層	549	76層	580	貝層下褐色土層上面	611	貝層下褐色土2層
488	126層	519	72層	550	64a層	581	貝層下褐色土層	612	貝層下褐色土層上面
489	119層	520	106層	551	44層	582	貝層下褐色土層	613	貝層下褐色土層
490	129層	521	73層	552	90層	583	貝層下褐色土2層	614	貝層下褐色土2層
491	76層	522	61層	553	14層	584	貝層下褐色土層	615	貝層下黒褐色土1層
492	129層	523	44層	554	69層	585	貝層下褐色土2層	616	貝層下褐色土2層
493	104層	524	40層	555	63層	586	貝層下褐色土層	617	貝層下褐色土層
494	95層	525	411層	556	63層	587	貝層下褐色土層	618	貝層下褐色土上面
495	19・41層	526	46層	557	74層	588	貝層下褐色土2層	619	貝層下褐色土2層
496	11 f層	527	51層	558	10層	589	貝層下黒褐色土1層	620	貝層下褐色土上面
497	13層	528	15層上層	559	15層	590	貝層下褐色土層上面	621	貝層下褐色土2層
498	160層	529	14層	560	61層	591	貝層下褐色土層上面	622	貝層下褐色土層
499	129層	530	122層	561	64a層	592	貝層下褐色土層上面	623	貝層下褐色土層
500	100層	531	104層	562	67b層	593	136層	624	貝層下褐色土上面
501	88層	532	?	563	64a層	594	貝層下褐色土層	625	貝層下褐色土2層
502	100層	533	74層	564	112層	595	貝層下褐色土層上面	626	貝層下褐色土2層
503	114層	534	23層	565	?	596	貝層下褐色土層上面	627	貝層下褐色土上面
504	113層	535	100層	566	西壁セクションP2	597	貝層下褐色土層上面	628	貝層下褐色土2層
505	79層	536	29層	567	西壁セクションP6	598	貝層下褐色土層	629	貝層下褐色土上面

630	貝層下褐色土上面	650	貝層下褐色土上面	670	貝層下褐色土層	690	貝層下褐色土層	710	貝層下褐色土上面
631	貝層下褐色土上面	651	貝層下褐色土層	671	貝層下褐色土層	691	貝層下褐色土2層	711	貝層下褐色土上面
632	貝層下褐色土層	652	貝層下褐色土上面	672	貝層下褐色土層	692	貝層下褐色土層	712	貝層下褐色土上面
633	貝層下褐色土上面	653	貝層下褐色土上面	673	貝層下褐色土2層	693	貝層下褐色土層	713	貝層下褐色土上面
634	貝層下褐色土層	654	貝層下褐色土上面	674	貝層下褐色土上面	694	貝層下褐色土層	714	貝層下褐色土上面
635	貝層下褐色土層	655	貝層下褐色土2層	675	貝層下褐色土層	695	貝層下褐色土上面	715	貝層下褐色土上面
636	貝層下褐色土上面	656	貝層下褐色土2層	676	貝層下褐色土2層	696	貝層下褐色土層	716	貝層下褐色土層
637	貝層下褐色土上面	657	貝層下褐色土層	677	貝層下褐色土2層	697	貝層下褐色土上面	717	貝層下褐色土層
638	貝層下褐色土上面	658	貝層下褐色土上面	678	貝層下褐色土2層	698	貝層下褐色土上面	718	貝層下褐色土上面
639	貝層下褐色土2層	659	189層	679	貝層下褐色土2層	699	貝層下褐色土上面	719	貝層下褐色土上面
640	貝層下褐色土上面	660	貝層下褐色土層	680	貝層下褐色土層	700	貝層下褐色土層	720	貝層下褐色土上面
641	貝層下褐色土2層	661	貝層下褐色土上面	681	貝層下褐色土上面	701	貝層下褐色土層	721	貝層下褐色土上面
642	貝層下褐色土層	662	貝層下褐色土2層	682	貝層下褐色土上面	702	貝層下褐色土層	722	貝層下褐色土上面
643	貝層下褐色土層	663	貝層下褐色土2層	683	貝層下褐色土層	703	貝層下褐色土層	723	硬化面上
644	貝層下褐色土上面	664	貝層下褐色土2層	684	貝層下褐色土層	704	貝層下褐色土上面	724	貝層下褐色土層
645	貝層下褐色土層	665	貝層下褐色土上面	685	貝層下褐色土2層	705	貝層下褐色土層	725	貝層下褐色土層
646	貝層下褐色土2層	666	貝層下褐色土上面	686	貝層下褐色土層	706	貝層下褐色土上面	726	貝層下褐色土上面
647	貝層下褐色土上面	667	貝層下褐色土層	687	貝層下褐色土上面	707	貝層下褐色土上面		
648	貝層下褐色土層	668	貝層下褐色土層	688	貝層下褐色土上面	708	貝層下褐色土上面		
649	貝層下褐色土層	669	貝層下褐色土2層	689	貝層下褐色土2層	709	貝層下褐色土上面		

第Ⅹ群土器は、荒海1-2式に位置づけられる。変形工字文に伴う二枚貝腹縁の条痕が極めて限られていることも、それを裏付けている。

(5) I-3区の出土土器 (図76-727~図87-1153)

727~751・753~787が貝層上の土層・攪乱層からの出土土器、752・788~812・814~999・1136が貝層中の出土土器、813・1000~1024・1067が貝層下の土坑からの出土土器、1025~1066・1068~1135・1137~1153が貝層下土層の出土土器である。

① 貝層上の土層・攪乱層からの出土土器

第Ⅴ群土器 (787)

1類 (787) 沈線で区画した中に列点を加えた深鉢。

1類は1期の称名寺Ⅱ式。

第Ⅷ群土器 (729・731)

2類(729) 扁平な磨消縄文の土器。

3類(731) 細密沈線文の土器。いわゆるカーテン文が展開する。黒色でよく研磨されている。安行3b式ないし姥山Ⅱ式。

第Ⅳ群土器(728・730)

3類(728・730) 太い沈線で区画した磨消縄文の土器。内面にも太い沈線文が描かれる。前浦Ⅱ式。

第Ⅴ群土器(735~745・747~786)

5類(737) 沈線文の土器。

6類(736・738・739) 細密条痕で文様をもつ土器。736は口縁に4条の沈線を加える。胴部に細密条痕が加えられると思われる。補修孔をもつ。738は口縁に沈線を3本引き、その間に米粒状の列点を加える。739はその胴部と思われ、やはり沈線の間には米粒状の列点が加えられる。文様を含む胴部には細密条痕が横方向に施される。赤褐色。

7類(758~762) 撚糸文の土器。

8類(740~745・747・748・750・752~757・759・760・763~783) 条痕文の土器。

細密条痕の土器

深鉢A2(741) 口縁が内湾した砲弾形の深鉢で、折り返し口縁を意識して口縁の下に指で太いなぞりを加えて段差を付けている。口縁に横方向、以下縦方向の細密条痕を加える。口縁に一か所、凹みがある。

深鉢・鉢C(750・754・755・757) 750は数少ない鉢形の器形。頸部はヘラナデで、胴は上部に横方向の、以下斜~縦の細密条痕を加える。口縁端部がヘラによって面取りされる。

甕A1(742・747・860・873・877・983) 747は口縁端部が外そぎ状にシャープに面取りされる。折り返し口縁の部分に横方向の、以下斜方向の細密条痕を施す。983は底部を欠失する以外、ほぼ完全な形態がうかがえる。口径約30cm。口縁部の折り返しはしっかりしている。端部に5か所、押捺がありくぼむ。頸胴間の屈曲はなく、なだらかである。折り返し部分にやや右下に傾いた細密条痕を、胴部には上部に横方向、以下斜方向の細密条痕を入れる。内面はヘラケズリで胴過半にミガキが少し加えられる。外面の胴下半は焦げているが、煤の付着は少ない。

甕A3(745) 口縁端部に押捺が加えられ、さざ波状をなす。

甕C1(743・744) 743・744には口縁に山形の突起がつけられる。879は口縁に大きな突起がつけられており、545と同じ類型である。

二枚貝条痕の土器

755・756は二枚貝腹縁による条痕であり、756(甕C2)は黄褐色で磨滅しており、器形も如意状口縁をなすなど他の種類と異なる。この種は新しくなると増加してくるのであろう。

9類(751) 無文の土器。鉢で、口縁内面が折り返されて段をもつ。

② 貝層中の土器

第Ⅴ群土器(789~793)

2類(789~793) 縄文の地文に沈線文をもつものとその仲間。2期の堀之内1式。

第Ⅵ群土器(794~803・811・985・987・988) 加曽利B2式を主体として、B3式をまじえる。

1類(985) バケツ形の深鉢。帯縄文と区切りの字文がみえる。

8類(811) 丸みを帯びた口縁部が、段差をもって内屈する鉢。口縁端部に斜の刻みをつける。

14類(795~803) 紐線文土器。口縁の内面に1~2条の沈線をもつ。縄文を地文として、半截竹管による粗い条線を加えたものが大半である。794・795は半截竹管により、コンパス状の沈線文を施す。803の条線は太く密で、縄文は隠れ気味。

第Ⅶ群土器(822・823) 紐線文土器。安行1式に伴うと思われる縄文を欠いた粗い条線によるもの。

第Ⅷ群土器(814・824・837~840・843)

2類(824・837~840・843) 扁平な磨消縄文の土器。839・840は波状口縁の深鉢。波頂部に鉢巻き状の粘土貼り付けをもつ。波頂部下の菱形の区画に入り組み弧線文を入れる。

4類(814・914) 沈線区画内に、小ぶりの列点文をもつ。

安行3b式ないし姥山Ⅱ式。

第Ⅸ群土器(813・845~848・915・920)

1類(813) 二段棒状文。安行3c式ないし姥山Ⅲ式。

3類(836・841・842・844~848) 太い沈線で区画した磨消縄文の土器。内面にも太い沈線文が描かれる。前浦Ⅱ式。

第Ⅹ群土器(849・851~854・856~865・867~870・872~881・883~927・929~932・980~984・993・994・996~999)

2類(852) 工字文を描く鉢。沈線化している。工字文を折り返した左下の部分が上にあがっており、水平ではない特殊な文様となる。

5類(851・856・858・859) 沈線文の土器。851は変形匹字文の鉢である。二条の沈線で文様帯下端を区画し、その上に二条の沈線で菱形の構図を加える。菱形の角の下端は文様帯下端沈線に食い込むようにV字形に押し下げられ、菱形の外枠線を埋めるとともに、両端がかすかに瘤状になる。菱形構図と下限沈線の間には下限沈線と並行して補助線が入られる。沈線は太くしっかりしている。赤褐色で他の土器と異なる特徴をもつ。

858は口縁に二条の沈線をめぐらした小型壺の口縁部。口縁に突起がある。859は口縁に8条の細い沈線を密にめぐらした深鉢。無文帯の下に沈線が一部見えているがそこで欠けている。胎土や色調、調整などからこの群に含めたが、珍しい土器である。737は壺の肩部。2条の沈線を引き、その中がヘラミガキされることで立体的な隆線となる。

6類(861) 細密条痕で文様をもつ土器。口縁は折り返して段をもち、斜めに細密条痕を入れる。口縁端部に山形の突起をもつ。頸部は条痕は加えず、3本ひと組の沈線文を稲妻状に配する。

7類(863・864・860・868・869・984・993) 撚糸文の土器。860(甕A1)は、口縁が外方に向かってやや尖り気味となる。984は底部破片であり、撚糸文は縦で条痕風に引きずっている部分が多い。底部付近はヘラケズリが横方向になされ、撚糸文を切っている。底面もヘラケズリによる。

8類(862・865・867・870・873~879・883~914・916~932・980~983・995) 条痕文の土器。

細密条痕の土器

甕A1(873・877・983) 983は底部を欠失する以外、ほぼ完全な形態がうかがえる。

口径約30cm。口縁部の折り返しはしっかりしている。端部に5か所、押捺がありくぼむ。頸胴

問の屈曲はなく、なだらかである。折り返し部分にやや右下に傾いた細密条痕を、胴部には上部に横方向、以下斜方向の細密条痕を入れる。内面はヘラケズリで胴過半にミガキが少し加えられる。外面の胴下半は焦げているが、煤の付着は少ない。

甕 A2 (878) 口縁端部が面取りされて、その部分に細密条痕がみられる。

甕 A4 (876) 口縁端部に押捺が加えられ、さざ波状をなす。内面も細密条痕風の仕上げとなる。

甕 C1 (879・980・982) 879 は口縁に大きな突起がつけられており、545 と同じ類

型である。980 は大型の破片。復元口径約 32cm。口縁は内傾し、肩が張る。口縁に接して3つの突起がつけられる。補修孔をもつ。頸部は磨かれており、胴部は上部に横方向の、それ以下斜～縦方向の細密条痕を施す。内面はケズリの上に、部分的に横方向のヘラミガキを加える。982 は波状口縁の深鉢。波頭部は二股に分かれる。

8類の細密条痕は、ストロークの長い整ったものが大半を占めており、932のような乱調のものはごくまれである。

9類 (880・881・928・933～956・958～965・967～979) 無文の土器。深鉢が多い。952 は鉢。966 は壺。881・975 の口縁端部は面取りされて、平坦になる。880 は口縁からやや下がったところに一条の隆帯をめぐらした深鉢。751 は鉢で、口縁内面が折り返されて段をもつ。

③ 貝層下の土坑からの出土土器

第Ⅵ群土器 (1000・1002～1007・1009・1013)

12類 (1013) 口縁部に沈線数条もつ類型。

14類 (1001・1008) 紐線文土器。口縁の内面に1～2条の沈線をもつ。縄文を地文として、半截竹管による粗い条線を加えたものが大半である。

第Ⅷ群土器 (1012)

安行 3b 式ないし姥山Ⅱ式。

第Ⅸ群土器 (1015・1016・1023)

3類 (1015・1016・1023) 太い沈線で区画した磨消縄文の土器。内面にも太い沈線文が描かれる。前浦Ⅱ式。

第Ⅹ群土器 (1018・1024)

8類 (1018・1024) 条痕文の土器。

④ 貝層下土層の出土土器

第Ⅴ群土器 (1025～1027・1112・1148)

2類 (1025～1029・1112) 縄文の地文に沈線文をもつものとその仲間。

3類 (1148) 条線文の土器。

2・3類は2期の堀之内Ⅰ式。

第Ⅵ群土器 (1030～1035・1077・1078・1126) 加曾利 B2 式を主体として、加曾利 B3 式をまじえる。

7類 (1030・1034・1035・1077) 条線文を施した土器。波状口縁の深鉢。

8類 (1031・1126) 丸みを帯びた口縁部が、段差をもって内屈する鉢。口縁端部に斜の刻みをつける。

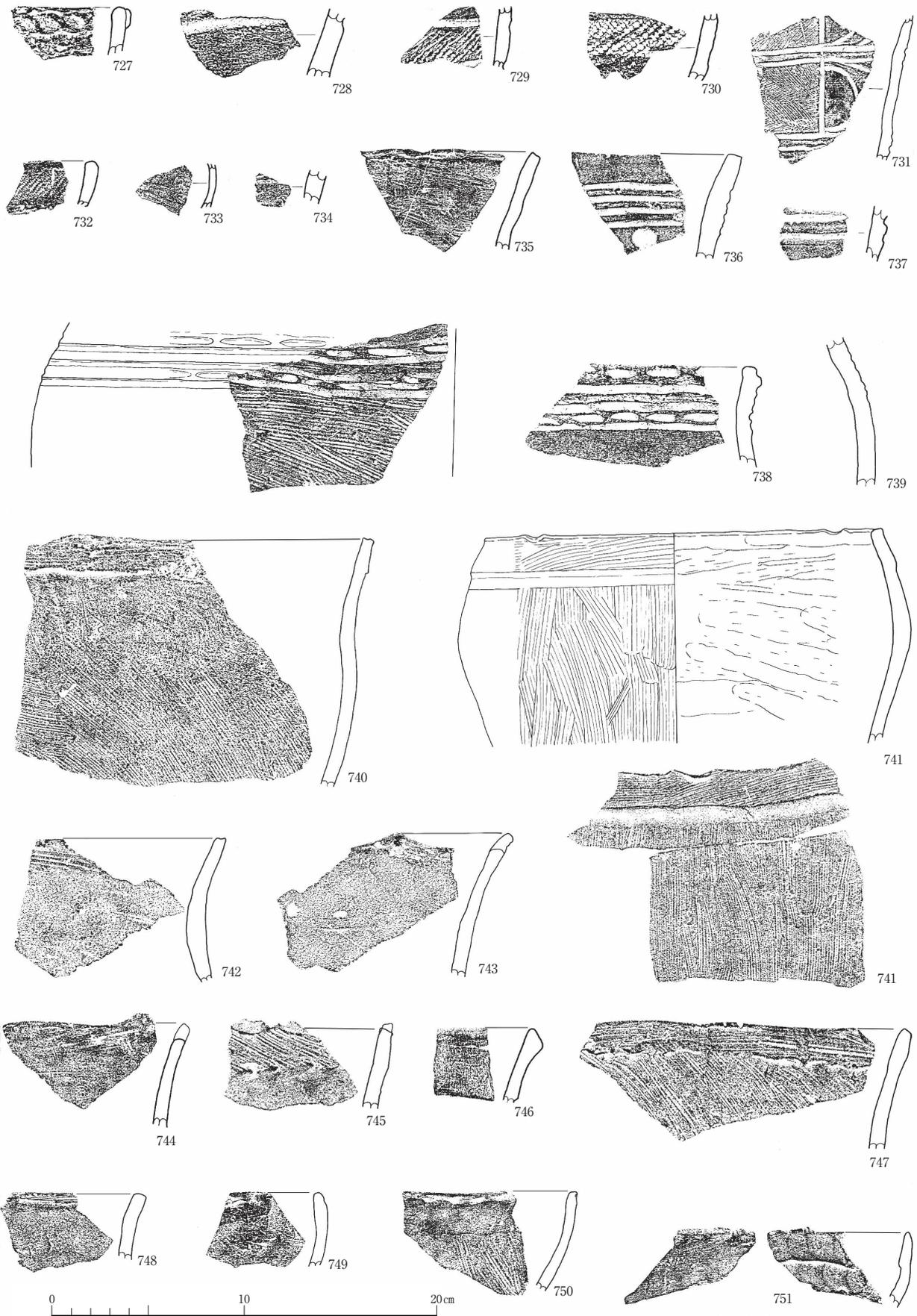


図76 中央トレンチ I-3区出土土器 (1)

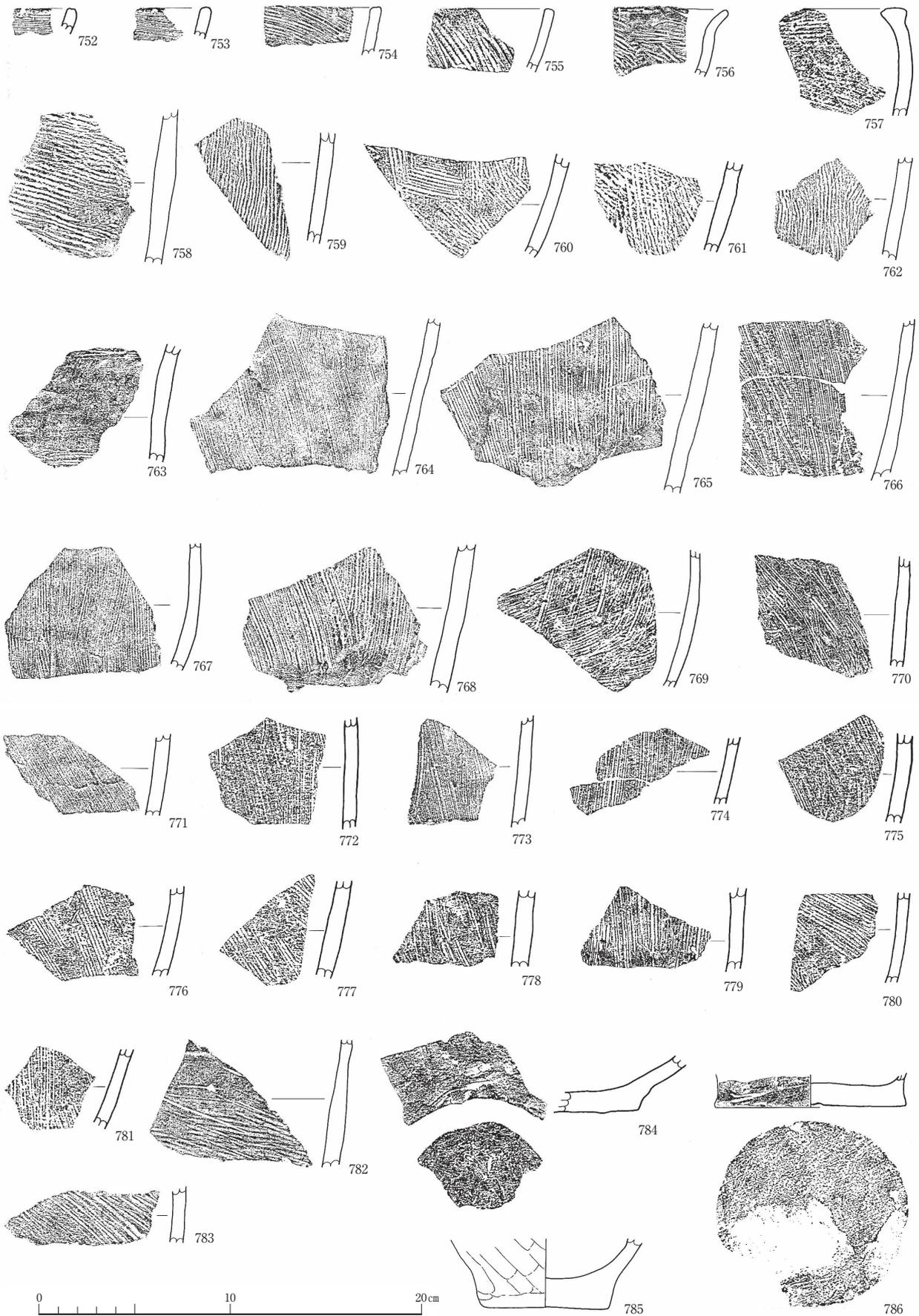


図 77 中央トレンチ I-3 区出土土器 (2)

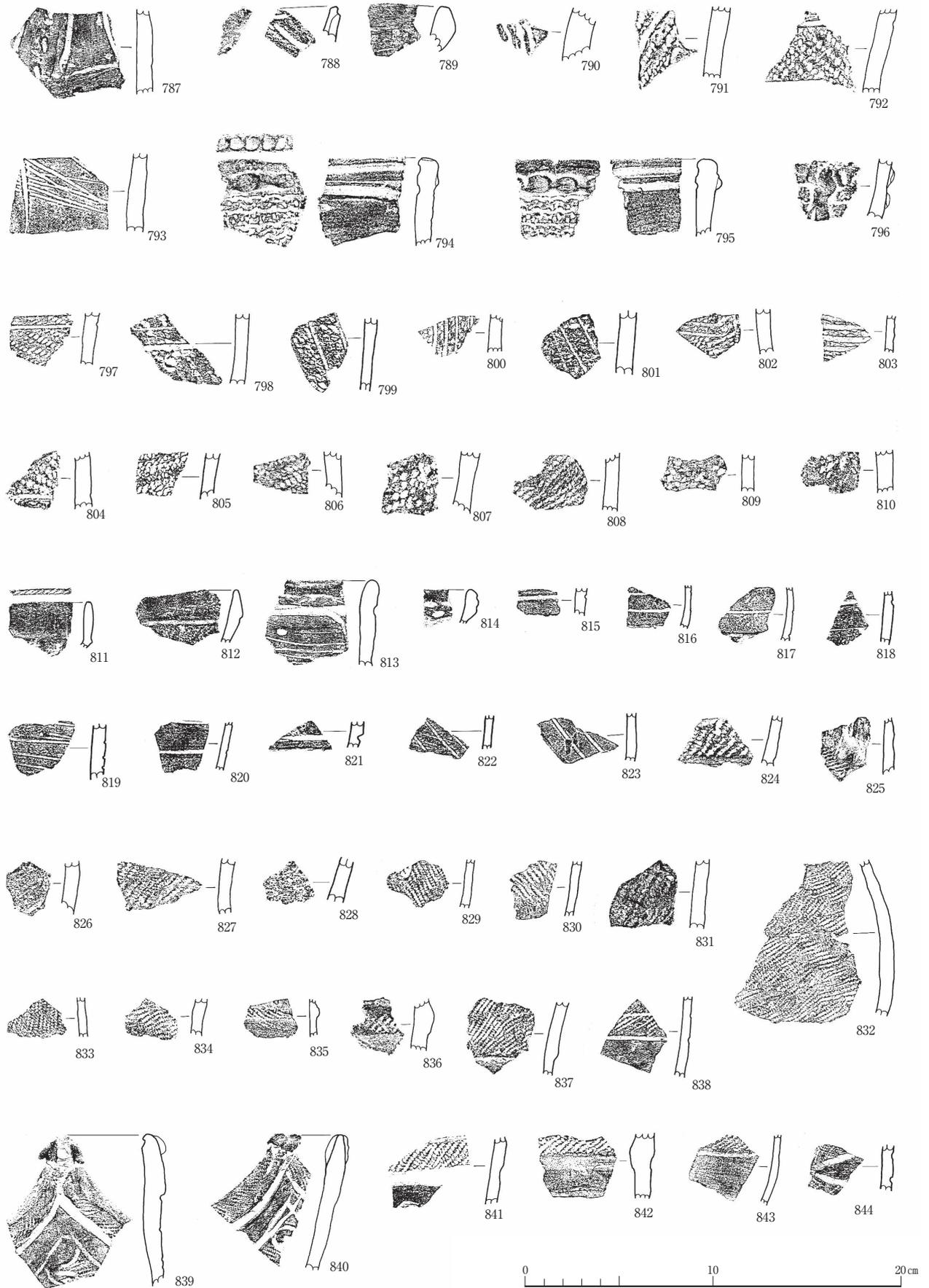


図 78 中央トレンチ I-3 区出土土器 (3)

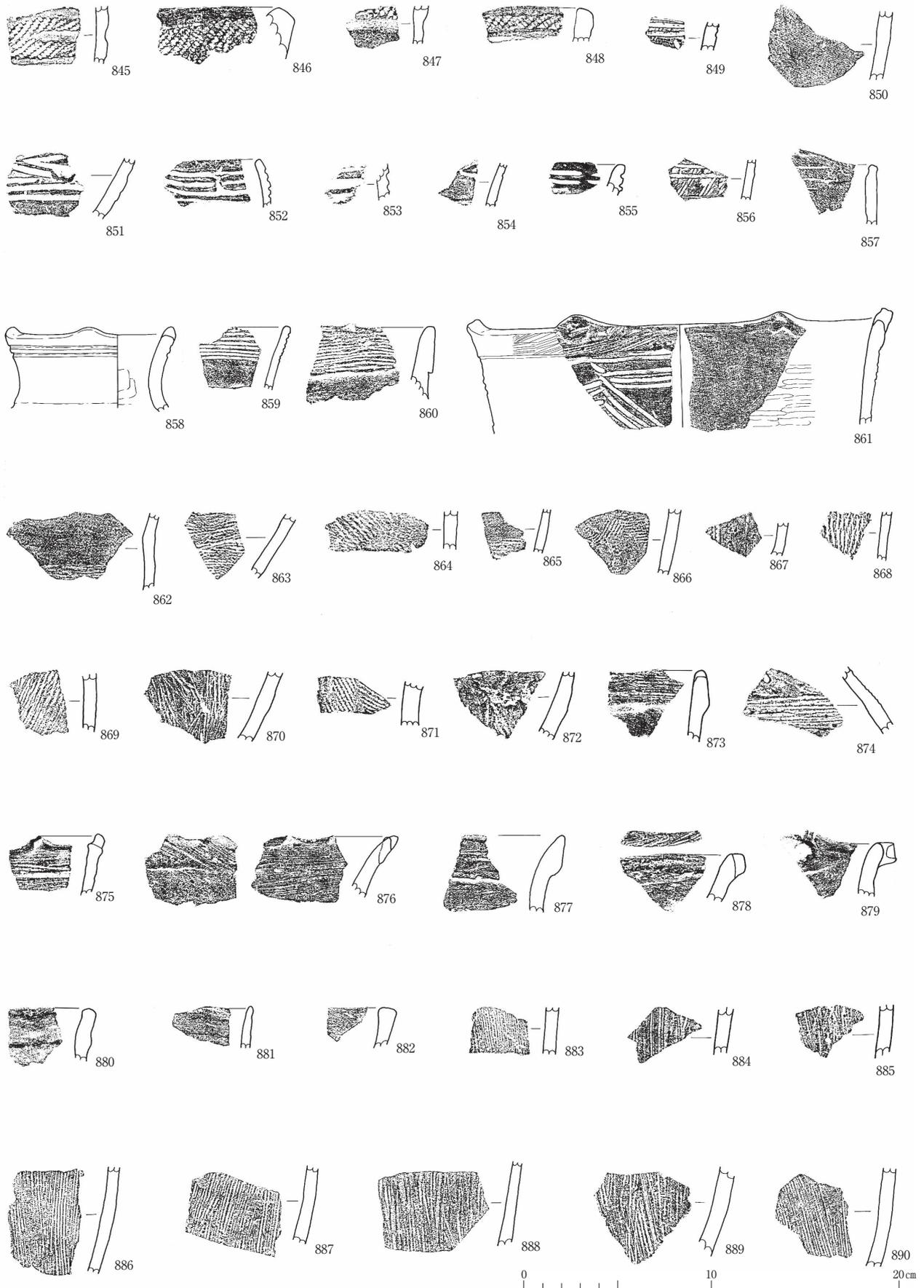


図 79 中央トレンチ I-3 区出土土器 (4)

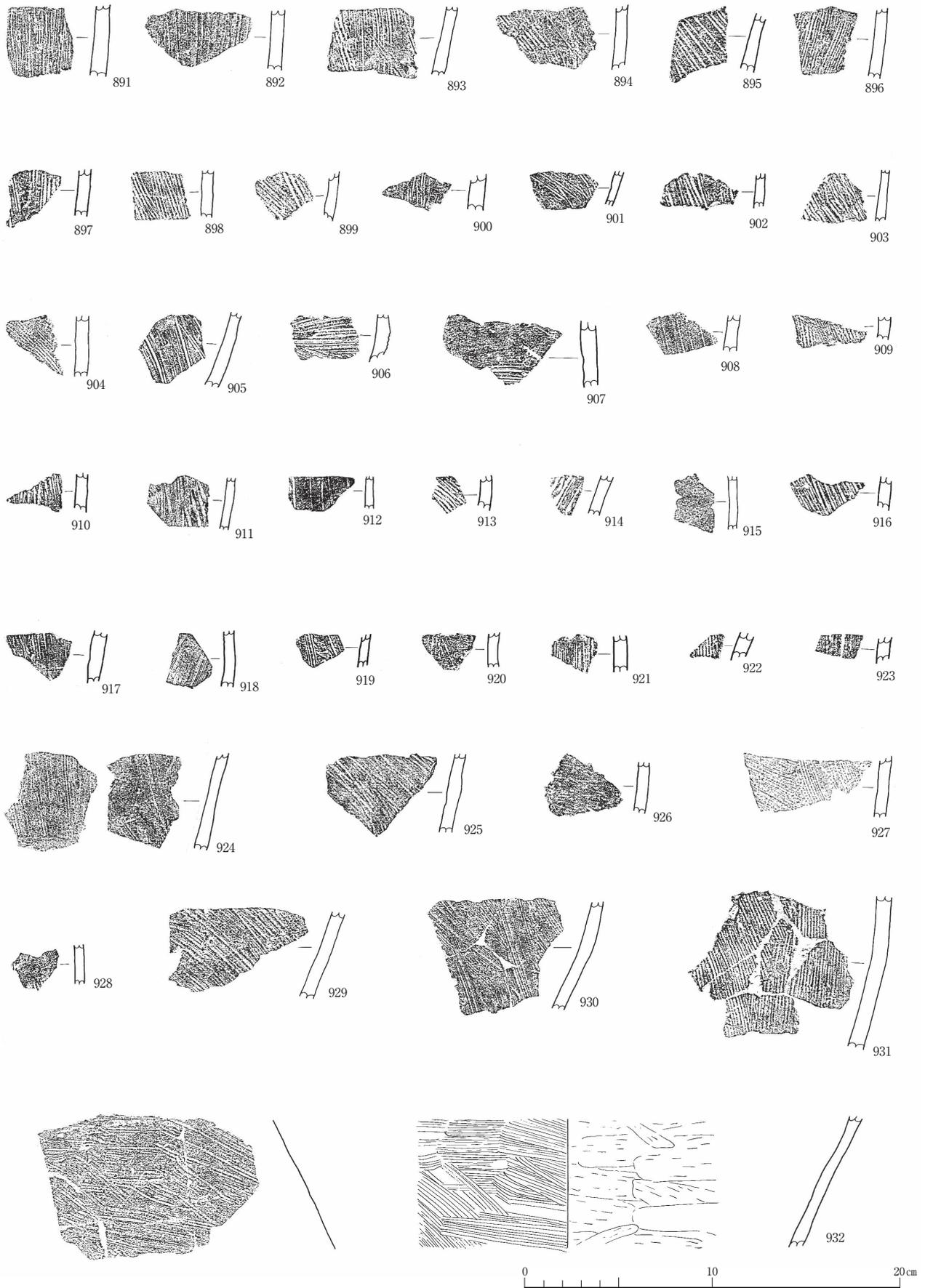


図80 中央トレンチ I-3区出土土器 (5)

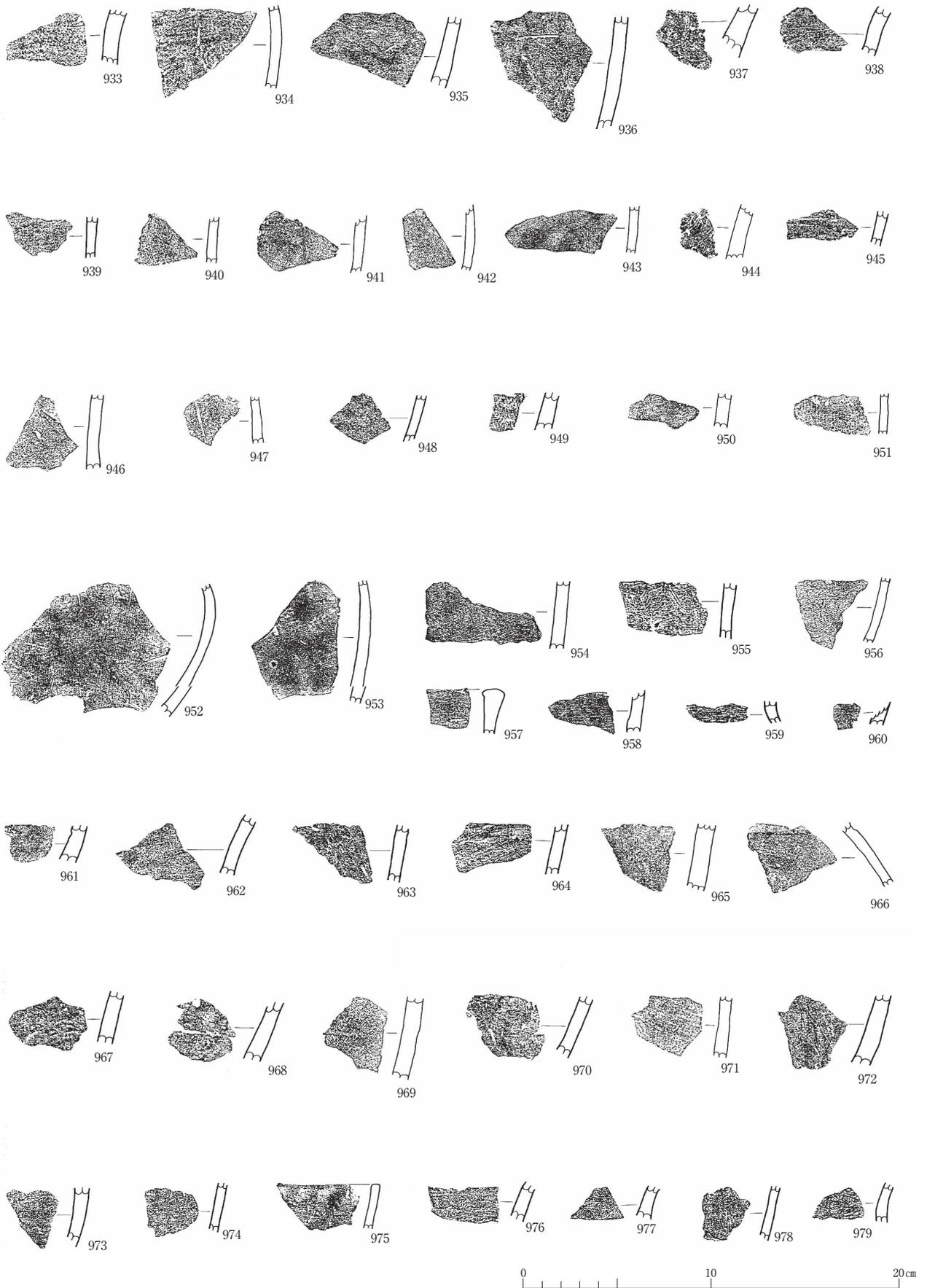


図 81 中央トレンチ I-3 区出土土器 (6)

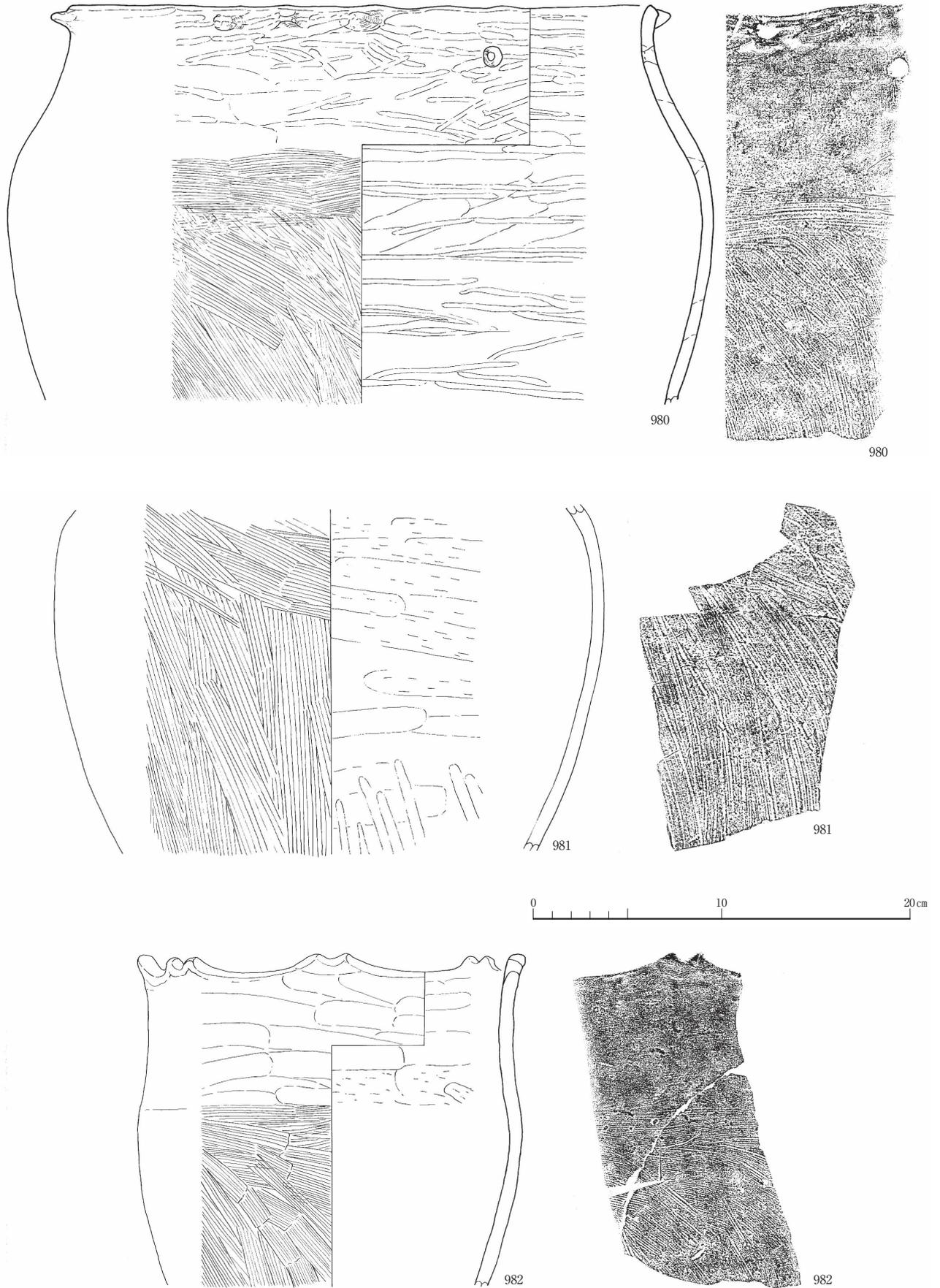


図 82 中央トレンチ I-3 区出土土器 (7)

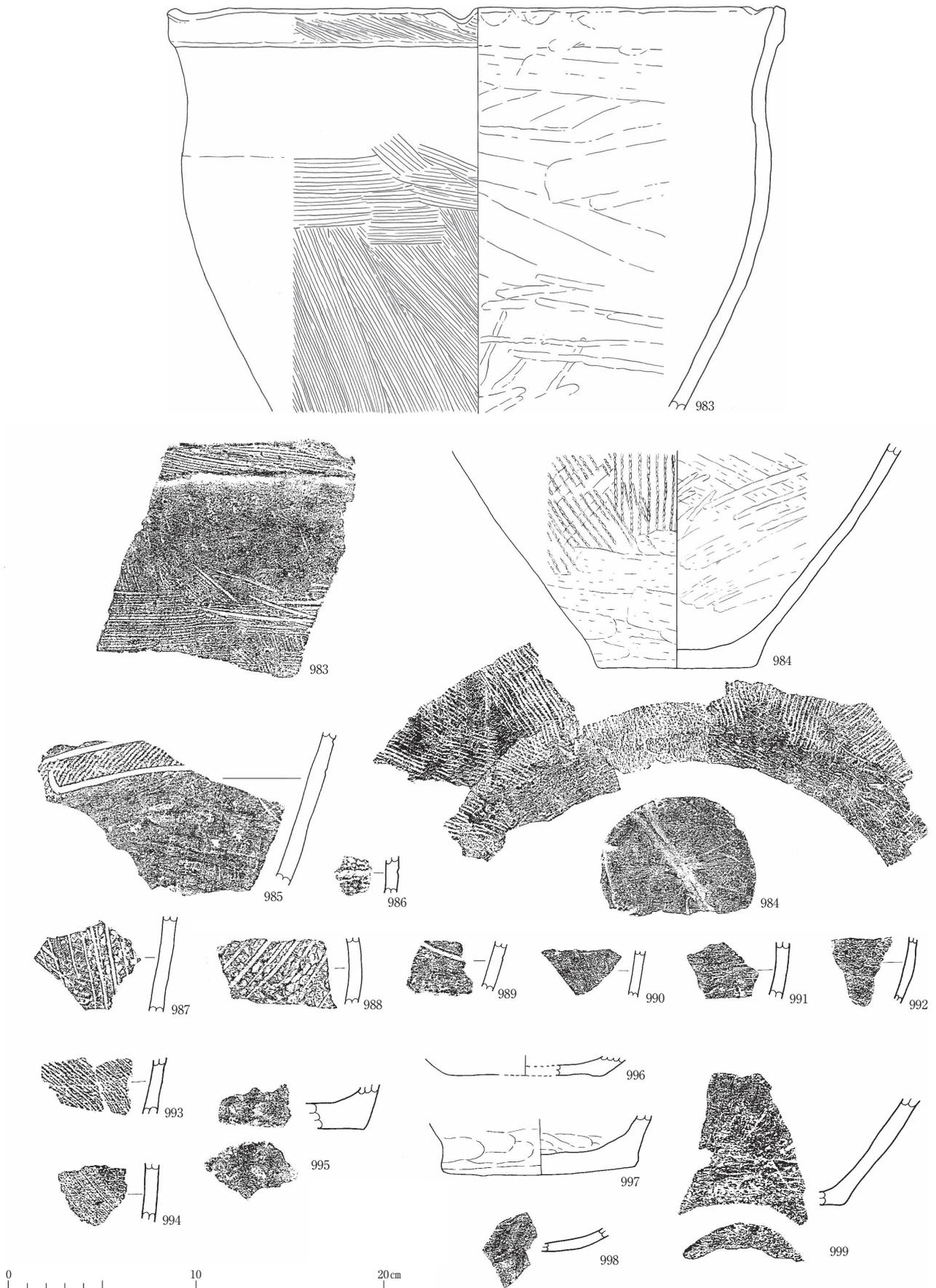


図 83 中央トレンチ I-3 区出土土器 (8)

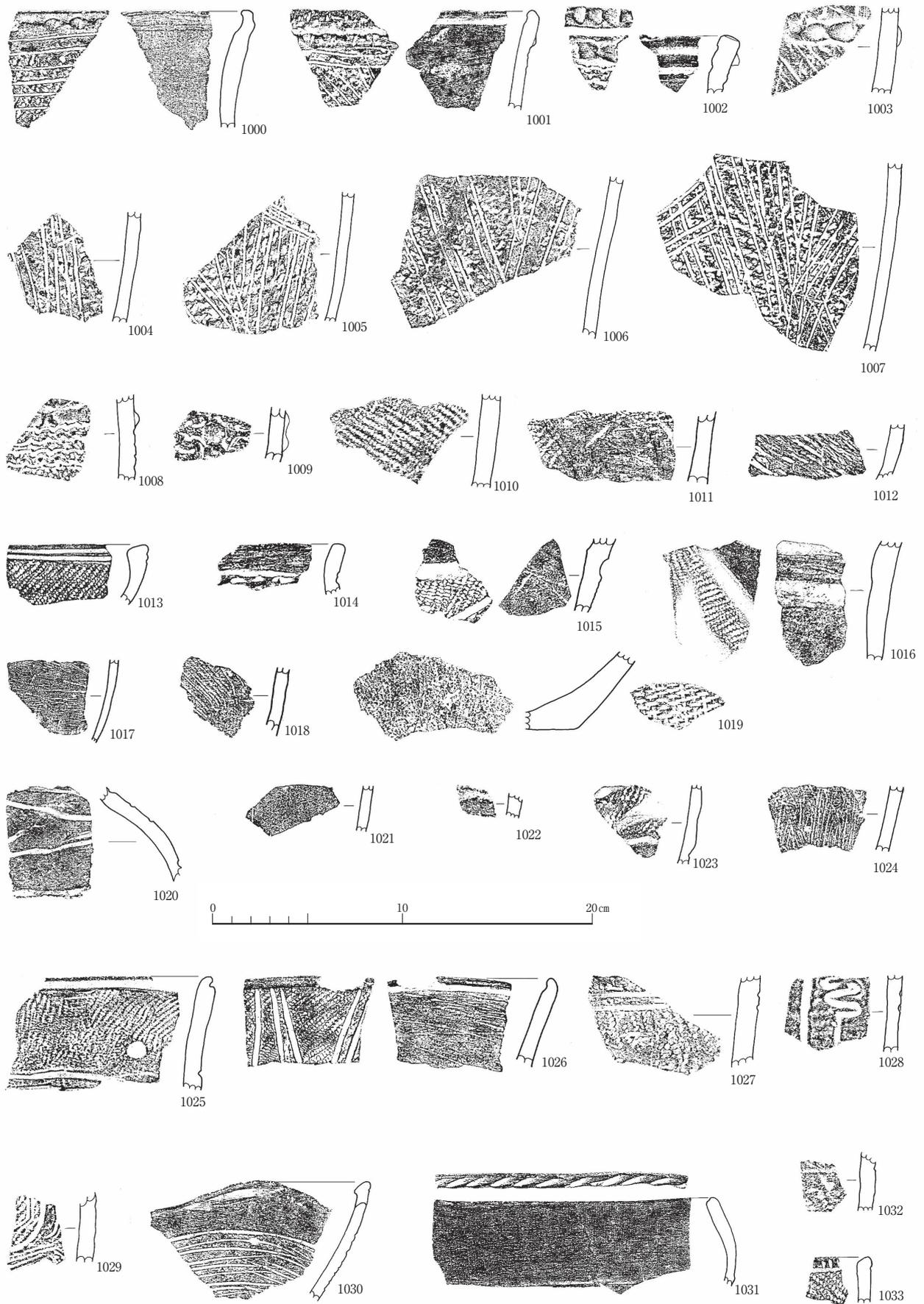


図84 中央トレンチ I-3 区出土土器 (9)

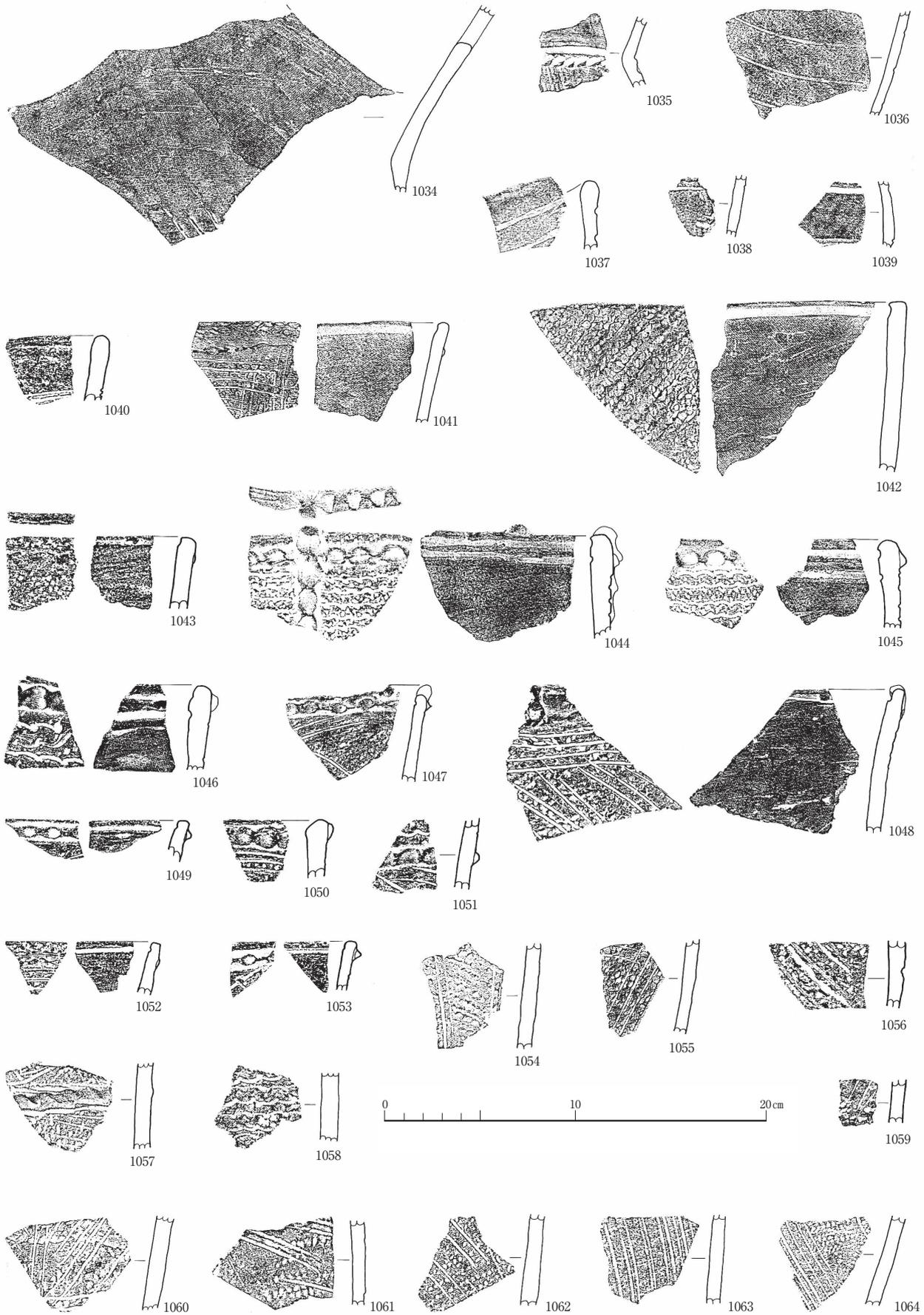


図 85 中央トレンチ I-3 区出土土器 (10)

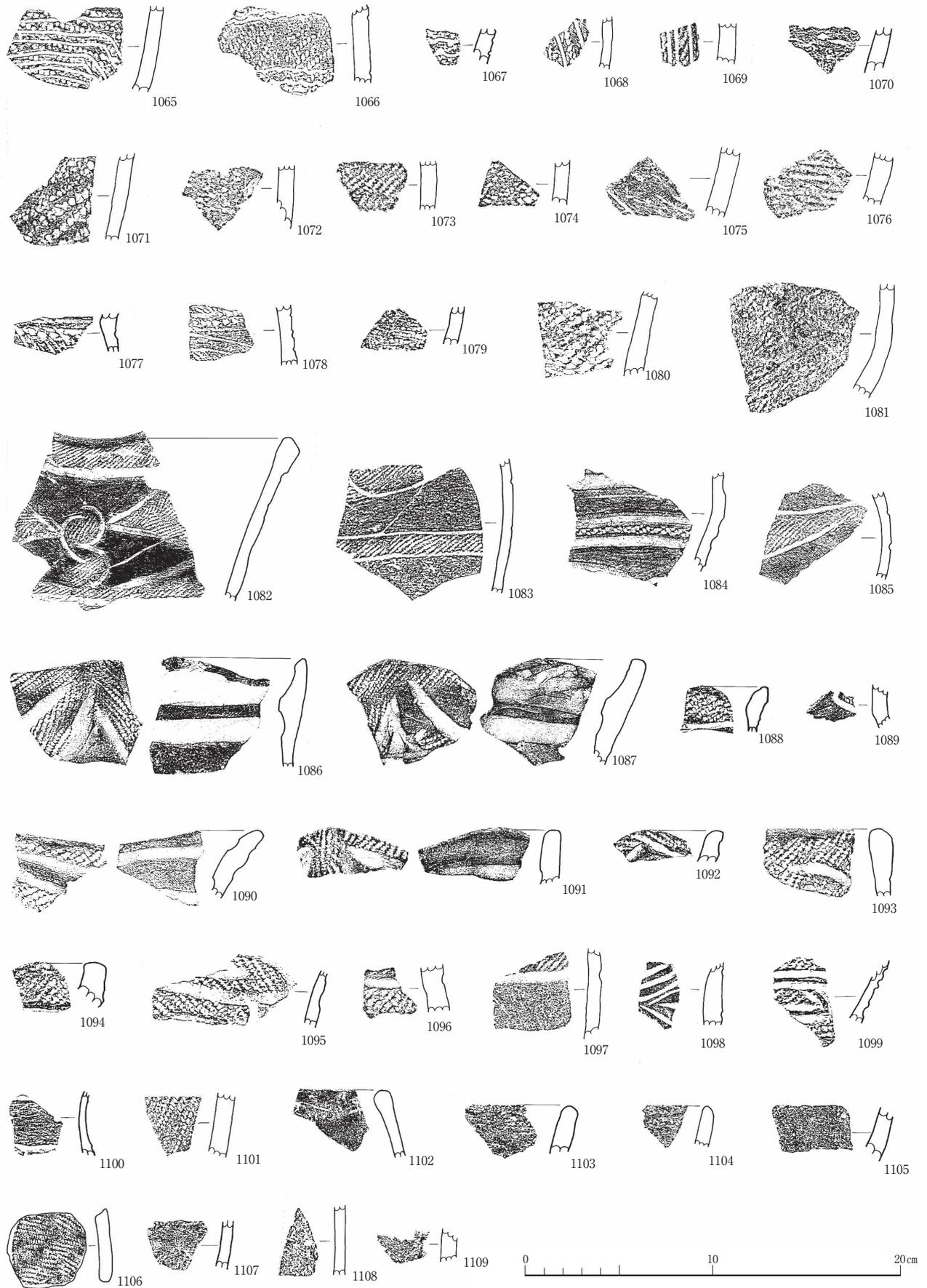


図86 中央トレンチ I-3 区出土土器 (11)

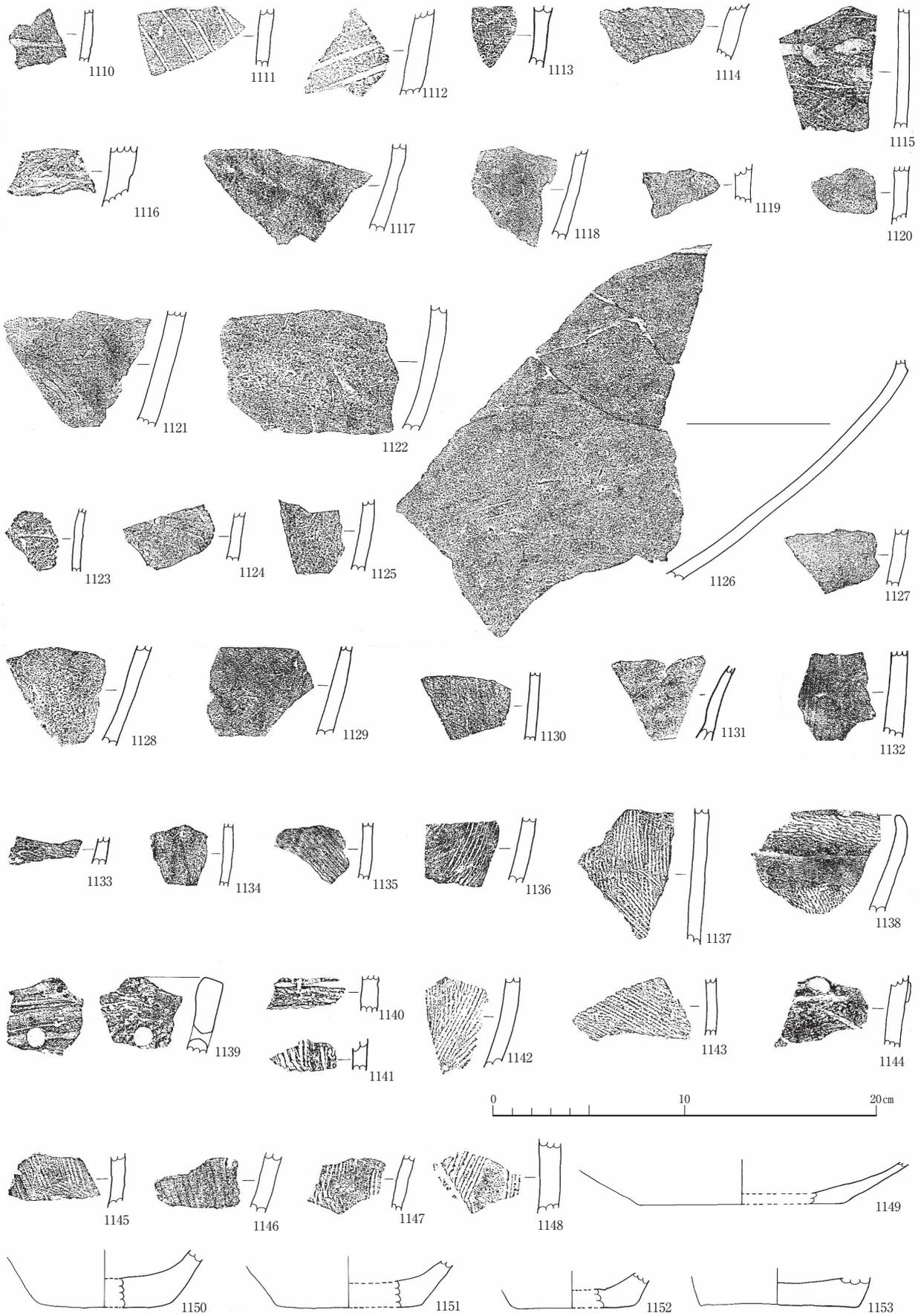


図87 中央トレンチ I-3 区出土土器 (12)

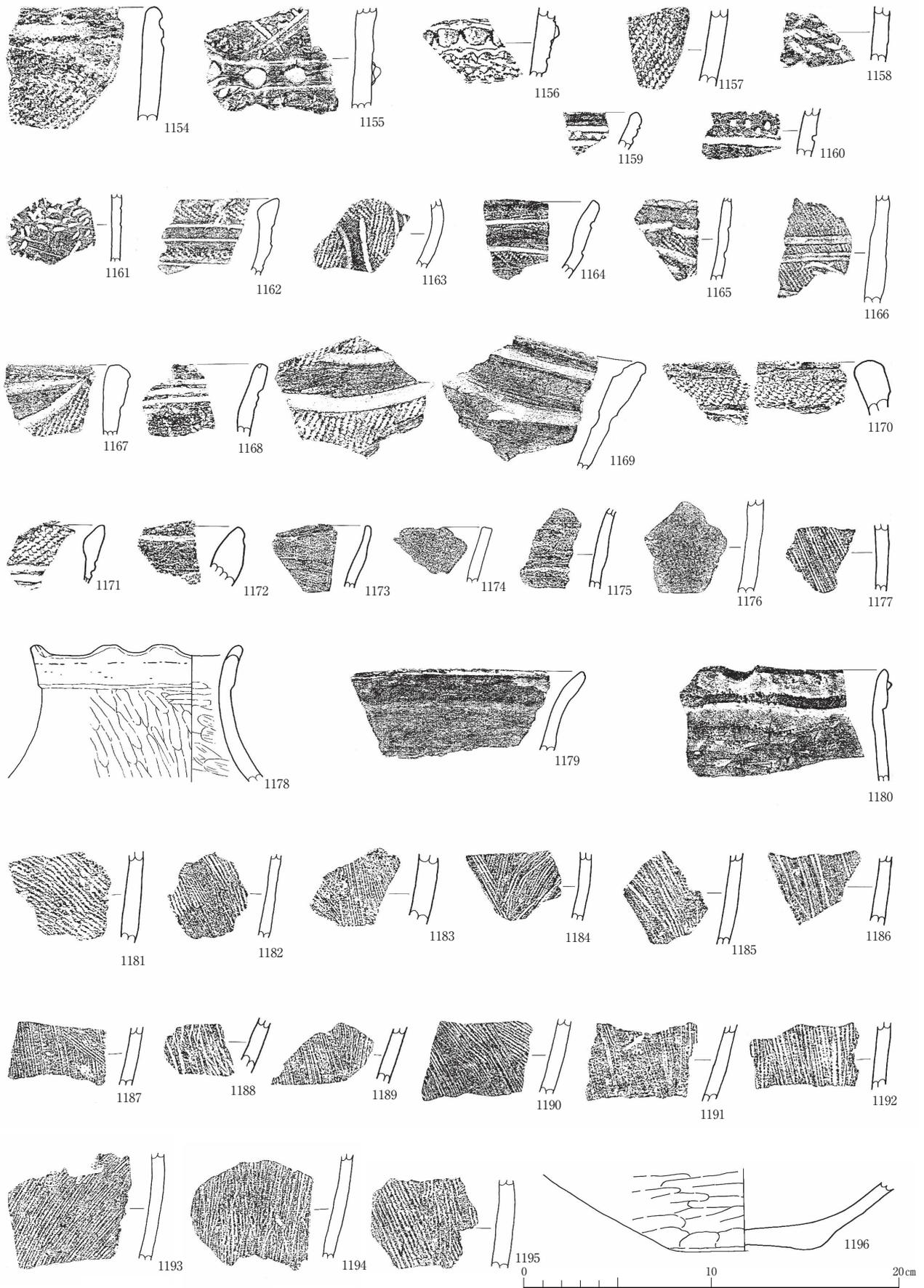


図88 中央トレンチ I-2・I-3 区出土土器

表5 中央トレンチ I-3 区出土土器の層位

番号	層位	758	明褐色土層	790	1013層	822	1548層	854	1006層
727	攪乱層	759	攪乱層	791	1535層	823	1534層	855	1010層
728	攪乱層	760	明褐色土層	792	1603層	824	1012層	856	1560層
729	攪乱層	761	攪乱層	793	1012層	825	1528層	857	60層
730	攪乱層	762	攪乱穴	794	1601層	826	1537層	858	10層
731	攪乱穴	763	明褐色土層	795	1593層	827	1542層	859	1540層
732	攪乱穴	764	明褐色土層	796	1013層	828	1541層	860	1602層
733	壁	765	攪乱穴	797	1548層	829	1012層	861	7d層
734	貝層	766	攪乱穴	798	1541層	830	?	862	4c層
735	攪乱穴	767	明褐色土層	799	4c層	831	1571層	863	4c層
736	攪乱層	768	明褐色土層	800	1589層	832	1563層・貝層下褐色土層	864	1548層
737	攪乱穴	769	明褐色土層	801	1541層	833	1569層	865	1534層
738	明褐色土層	770	攪乱穴	802	1013層	834	1579層	866	1553層
739	?	771	攪乱層	803	1564層	835	1011層	867	1560層
740	?	772	明褐色土層	804	1570層	836	1579層	868	1510層
741	明褐色土層	773	明褐色土層	805	1542層	837	1535層	869	1563層
742	明褐色土層	774	攪乱層	806	1544層	838	1564層	870	7e層
743	明褐色土層	775	明褐色土層	807	1541層	839	?	871	1582層
744	表土	776	明褐色土層	808	1540層	840	1603層	872	46層
745	攪乱層	777	攪乱穴	809	1598層	841	1010層	873	1011層
746	貝層下褐色土2層	778	攪乱穴	810	1540層	842	1570層	874	7e層
747	明褐色土層	779	攪乱穴	811	1543層	843	1603層	875	5b1層
748	攪乱層	780	攪乱層	812	1565層	844	1509層	876	7b層(7d層)
749	褐色土層	781	?	813	SK2	845	1011層	877	9c層
750	明褐色土層	782	攪乱層	814	4b層	846	1593層	878	1546層
751	明褐色土層	783	攪乱穴	815	1548層	847	1566層	879	9b1層
752	1532層	784	攪乱穴	816	1541層	848	1603層	880	60層
753	東壁	785	攪乱層	817	1013層	849	?	881	4層
754	攪乱層	786	攪乱層	818	1550層	850	1011層	882	1533層
755	貝層下褐色土2層	787	?	819	4b層	851	1563層	883	1502層
756	明褐色土層	788	4c上層	820	1544層	852	10層	884	4c下層下面
757	表土・攪乱層	789	1541層	821	4b層	853	1548層	885	4f層

886	1013 層	918	1004 層	950	1549 層	982	5 層上面	1014	SD1
887	?	919	40 上層	951	1597 層	983	攪乱層・8b・95・1012・1557 層・貝層下土層・硬化面上	1015	SD1
888	46 層	920	1594 層	952	1541 層	984	1567・1573・1591 層・貝層下褐色土上面・褐色土層	1016	SD1
889	10 層上面	921	90 層	953	1569 層	985	東壁 P4	1017	SD1
890	1545 層	922	9 層上面	954	1523 層	986	1012 層	1018	SD1
891	4c 層	923	5a1 層	955	60 層	987	東壁 P2 ないし 3	1019	SD1
892	4c 層	924	4l 層	956	1602 層	988	東壁 P5	1020	SK2
893	4b 層	925	1011 層	957	1590 層	989	東壁 P3	1021	SK1
894	4d 層下面	926	1568 層	958	1549 層	990	北壁 P1	1022	SK1
895	1579 層	927	?	959	9b1 層	991	9 層	1023	SK2
896	4b 層	928	1013 層	960	?	992	9 層	1024	SK1
897	4b 層	929	8a 層	961	60 層	993	1011 層・貝層下褐色土層	1025	貝層下黒褐色土 2 層
898	1603 層	930	7b 層	962	40 層	994	9 層	1026	貝層下褐色土 2 層
899	1579 層	931	1006 層	963	10 層	995	1597 層	1027	貝層下褐色土層
900	7b 層	932	7b 層	964	1557 層	996	1553 層	1028	貝層下褐色土 2 層
901	4b 層	933	1558 層	965	1546 層	997	7e 層	1029	貝層下褐色土層
902	4f 層	934	1533 層	966	1603 層	998	4d 層	1030	貝層下褐色土 2 層
903	1541 層	935	1537 層	967	7e 層	999	1516 層	1031	貝層下褐色土層・褐色土 2 層
904	1550 層	936	1012 層	968	4c 下層	1000	SD1	1032	貝層下褐色土層上面
905	4g 層	937	1602 層	969	1603 層	1001	SD1	1033	貝層下褐色土層上面
906	9b 層	938	4f 層	970	1012 層	1002	SD1	1034	貝層下褐色土 2 層
907	11b 層	939	1573 層	971	1602 層	1003	SD1	1035	貝層下褐色土 2 層
908	1503 層	940	1568 層	972	1577 層	1004	SD1	1036	貝層下黒褐色土 2 層
909	1573 層	941	1601 層	973	4c 層	1005	SD1	1037	貝層下褐色土層
910	22 層	942	1530 層	974	7b 層	1006	SD1	1038	貝層下褐色土層上面
911	1542 層	943	1576 層	975	1532 層	1007	SD1	1039	貝層下褐色土層
912	1011 層	944	1570 層	976	7e 層	1008	SD1	1040	貝層下黒褐色土 2 層
913	9a3 層	945	10 層上面	977	9a3 層	1009	SD1	1041	貝層下黒褐色土 2 層
914	1565 層	946	1590 層	978	1567 層	1010	SD1	1042	貝層下黒褐色土 2 層
915	1563 層	947	1563 層	979	4b 層	1011	SD1	1043	貝層下褐色土 2 層
916	4a 層	948	1570 層	980	60 層	1012	SD1	1044	貝層下褐色土層
917	1 層	949	9 層上面	981	1512 層	1013	SD1	1045	貝層下褐色土層

1046	貝層下褐色土2層	1068	貝層下褐色土層上面	1090	貝層下褐色土層	1112	貝層下褐色土層	1134	貝層下褐色土層上面
1047	貝層下褐色土2層	1069	貝層下褐色土層上面	1091	貝層下黒褐色土2層	1113	貝層下褐色土層	1135	貝層下褐色土層
1048	貝層下褐色土2層	1070	貝層下褐色土層	1092	貝層下褐色土層	1114	貝層下褐色土層	1136	1534層
1049	貝層下褐色土層	1071	貝層下褐色土層	1093	?	1115	貝層下褐色土層上面	1137	貝層下褐色土層上面
1050	貝層下褐色土層	1072	貝層下褐色土層	1094	貝層下褐色土層	1116	貝層下褐色土層	1138	貝層下褐色土層
1051	?	1073	貝層下褐色土層上面	1095	貝層下褐色土層・褐色土2層	1117	貝層下褐色土層	1139	貝層下褐色土層
1052	貝層下褐色土層	1074	貝層下褐色土層上面	1096	貝層下褐色土層上面	1118	貝層下褐色土層	1140	貝層下褐色土層
1053	貝層下褐色土層	1075	貝層下褐色土層	1097	貝層下褐色土層	1119	貝層下褐色土層上面	1141	貝層下褐色土層
1054	貝層下褐色土層	1076	貝層下褐色土2層	1098	貝層下褐色土層	1120	貝層下褐色土層上面	1142	貝層下褐色土層
1055	貝層下黒褐色土2層	1077	貝層下褐色土層	1099	貝層下褐色土層・黒褐色土2層	1121	貝層下褐色土層	1143	貝層下褐色土層上面
1056	貝層下褐色土2層	1078	貝層下褐色土層	1100	貝層下褐色土層	1122	貝層下褐色土層	1144	貝層下黒褐色土2層
1057	?	1079	貝層下褐色土層	1101	?	1123	貝層下褐色土層上面	1145	貝層下褐色土層上面
1058	貝層下褐色土層上面	1080	貝層下褐色土層	1102	?	1124	貝層下褐色土層上面	1146	貝層下褐色土2層
1059	貝層下褐色土層	1081	貝層下褐色土2層	1103	貝層下褐色土層	1125	貝層下褐色土層	1147	貝層下褐色土層上面
1060	貝層下褐色土層	1082	貝層下褐色土層・黒褐色土2層	1104	貝層下褐色土層上面	1126	貝層下褐色土層	1148	貝層下褐色土層上面
1061	貝層下褐色土層上面	1083	表土・貝層下褐色土層	1105	貝層下褐色土層	1127	貝層下褐色土層上面	1149	貝層下褐色土層
1062	貝層下褐色土層	1084	貝層下褐色土層	1106	貝層下褐色土層	1128	貝層下黒褐色土2層	1150	貝層下褐色土層
1063	貝層下褐色土層	1085	貝層下褐色土層	1107	貝層下褐色土層	1129	貝層下褐色土層	1151	貝層下褐色土層
1064	貝層下褐色土層	1086	貝層下黒褐色土2層	1108	貝層下褐色土層上面	1130	貝層下褐色土層上面	1152	貝層下褐色土層
1065	貝層下褐色土2層	1087	貝層下褐色土層	1109	貝層下褐色土層上面	1131	貝層下褐色土層	1153	貝層下褐色土2層
1066	貝層下黒褐色土2層	1088	貝層下褐色土層	1110	貝層下褐色土層上面	1132	貝層下褐色土層		
1067	SD1	1089	貝層下褐色土層上面	1111	貝層下褐色土層	1133	貝層下褐色土層		

12類 (1033・1078) 口縁部に沈線数条もつ類型。沈線の中に刻目をいれるものを含む。1033は刻目のある鉢。1078がこれらの胴部。

13類 (1042) 縄文だけの深鉢。口縁内面に沈線文を1条引く。1071～1076・1079・1080・1101・1108にはこの類の体部破片が混じる。

14類 (1041・1043～1058・1060～1069) 紐線文土器。口縁の内面に1～2条の沈線をもつ。縄文を地文として、半截竹管による粗い条線を加えたものが大半である。1044・1045は半截竹管により、コンパス状の沈線文を施す。

第Ⅶ群土器 (1083・1111) 1083は弧線の磨消縄文をもつ深鉢の胴部。1111は紐線文土器。安行1式に伴うと思われる縄文を欠いた粗い条線によるもの。

第Ⅷ群土器 (1082・1084・1085・1088・1090)

2類 (1082・1084・1085・1088・1090) 扁平な磨消縄文の土器。1082は波状口縁深鉢波底部破片。

表6 中央トレンチ I-2・I-3 区出土土器の層位

番号	層位	1162	攪乱層	1171	貝層下褐色土層	1180	攪乱層	1189	攪乱層
1154	排土中	1163	攪乱層	1172	?	1181	攪乱層	1190	攪乱層
1155	攪乱層	1164	貝層下黒褐色土2層	1173	?	1182	攪乱層	1191	攪乱層
1156	排土中	1165	攪乱層	1174	攪乱層	1183	貝層下明褐色土層	1192	攪乱層
1157	攪乱層	1166	攪乱層	1175	攪乱層	1184	攪乱層	1193	攪乱層
1158	攪乱層	1167	攪乱層	1176	攪乱層	1185	攪乱層	1194	攪乱層
1159	攪乱層	1168	貝層深掘り	1177	攪乱層	1186	攪乱層	1195	攪乱層
1160	攪乱層	1169	攪乱層	1178	攪乱層	1187	攪乱層	1196	攪乱層
1161	攪乱層	1170	貝層下褐色土層	1179	攪乱層	1188	攪乱層		

稲妻状の磨消縄文の交点に入り組み弧線文を磨消縄文で加えている。1084は隆起帯縄文だが、沈線は太く、第Ⅸ群2類に近い。

6類(1102) 無文土器。口縁が内湾する砲弾形の深鉢。安行3b式ないし姥山Ⅱ式。

第Ⅸ群土器 (1037~1039・1086・1087・1090~1098)

1類(1037~1039・1098) 沈線文だけで構成され、縄文をもたない。1037は波状口縁の深鉢。1039は二段杵状文。1098は密な沈線で複雑なモチーフを描く。安行3d式。

3類(1086・1087・1090~1097) 太い沈線で区画した磨消縄文の土器。内面にも太い沈線文が描かれる。前浦Ⅱ式。

第Ⅹ群土器 (1099・1135~1143・1145~1147)

1類(1099) 縄文を地文に、沈線で区画文を描く。区画は大ぶりの楕円形のパネル状文である。

6類(1140) 撚糸を地文として沈線文を描く。

7類(1136~1138・1141・1142・1147) 撚糸文の土器。1138は深鉢A1。

8類(1135・1139・1143・1145) 条痕文の土器。いずれも細密条痕である。1139は甕C1。

I-2・I-3区出土土器のまとめ 貝層出土土器は、荒海1式である。土層は千網式~前浦Ⅱ式である。

(設楽)

(6) 土器の出土状態 (図89・90)

土器の出土状態の概要 ここではI-2・I-3区における土器の出土状態について、平面分布と垂直分布、接合状況について概要を示す。

図89は、中央トレンチのI-2・3区を中心とした土器の平面分布である。白抜きは、貝層出土土器、黒塗りのドットは貝層下の土層から出土した土器を示している。分布の空白部分は、過去のトレンチが所在していた区域に相当する。垂直分布図は、平面分布に対応する垂直分布の状態をグリッドの各ラインで作成したものが、図90のD~Gである。各ライン上の土層図に、前後

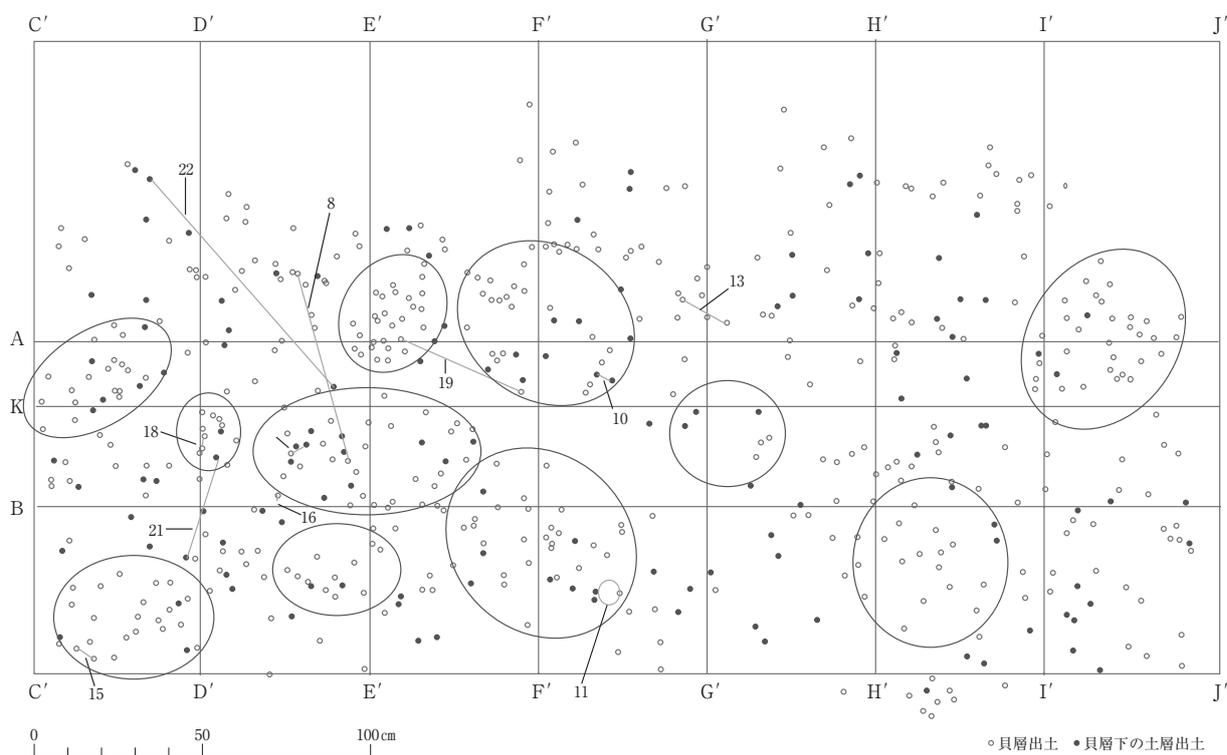


図 89 中央トレンチ I-2・I-3 区出土土器の平面分布

50cm 幅の出土土器のドットを投影している。接合関係にある土器同士は直線で結び、他の区の土器と接合関係にあるものについては、矢印を付して区別している。接合関係にある土器の番号は、表 7 にその基礎データを示している。

なお、各地区における個別の遺物出土状態については、図 56～61 に示している。また、I-2・I-3 区の貝層部における土器は、面的に全体に満遍なく分布しているように見える（図 89 の白抜きドット）。この傾向は、貝層下の土層においても同様である（図 89 の黒ドット）。こうした、散布状態のなかにあつて、大型土器破片の集中度合いや、小破片の密集度合から、楕円形の囲み範囲を図 89 のように設定できる。こうした範囲は、貝層形成過程における一定の廃棄単位を示している可能性はある。大型土器破片群を除き、こうした範囲内で土器が接合する例もあるが、全体的な傾向として見れば接合率は低く、小破片となった土器を集めて一括して廃棄している、と見るべきであろう。以下で述べるように、接合関係にある土器が圧倒的に少ない点から推定して、本来接合するはずの土器が小破片となった結果、接合率が低くなった、というのが実態であろう。

土器の接合関係 次に、土器の出土状態について、貝層部と貝層下土層における土器の接合関係について概要を示す。土器の接合関係を検討するにあたり、単純に土器の接合関係のみを図上で示すだけでは、たとえば土器がその場にどのように廃棄・遺棄されたのか、あるいは貝層の形成過程を復元するには不十分である。そこで、接合する土器の状態や、接合する土器の間の距離や高低差などの諸要素に注目しつつ、接合関係についての基礎データを表 7 に提示する。

土器の接合関係は、様々な状況が作用することによって形成されたものであり、ここでそれらすべての作用・状況を考慮した分析を提示することはできないが、大まかに土器自体の状態と接合状

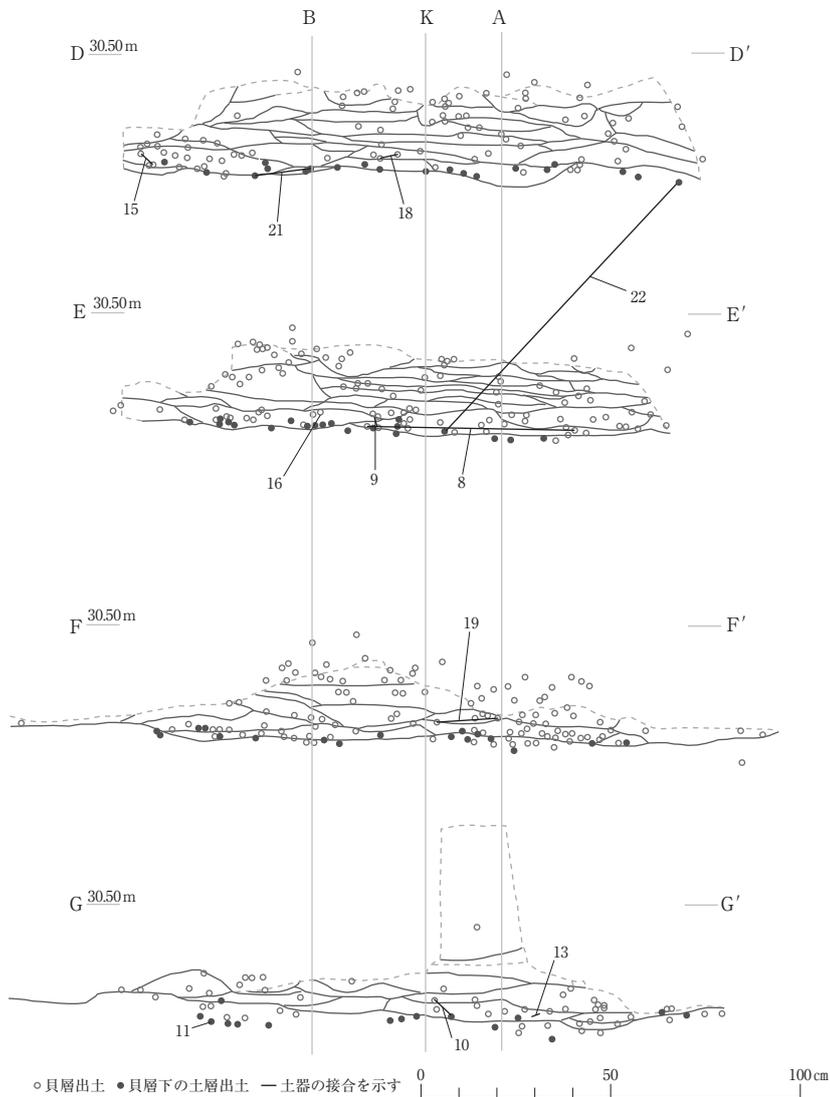


図90 中央トレンチ I-2・I-3 区出土土器の垂直分布

況の2つの面から見た状況について示す。最初に個々の要素について説明しておく。

接合関係の諸要素 まず土器の状態については、土器の割れ口部分（Ⅰ）と表面（Ⅱ）の風化や磨滅といった劣化状態がどの程度進行しているのかに注目した。劣化状態の判定にあたり、それぞれの程度を3段階（A～C）で区別し、AとBの中間的な状態なものは「A/B」と表記する。3段階の基準は、A 風化や磨滅がなくフレッシュな状態を比較的とどめているもの、B やや風化や磨滅が進行しているもの、C 風化や磨滅が顕著なもの、以上の分類による。

このように土器の風化や磨滅が少ない場合と顕著な場合では、土器が破損等により使用停止してから、廃棄されるまでの過程における様々な行為の状況が作用しているであろう。また廃棄後に、風雨などの自然的な営為の作用によっても土器は劣化していく。したがって、土器の状態のみから廃棄行為を推定するのは容易ではないが、土器の状態に一定の傾向が見られるかどうかは検討して

表7 中央トレンチ I-1・I-2・I-3 区出土土器の接合状況

No	土器図	地区	年度	層位	土器型式	土器の状態	接合番号	接合点数	接合層位	距離	高低差	順位
1		I-1	90	3048層	荒海式 体部	I-A II-A	2	4	同一層内	2~10cm	2cm以内	A
2		I-1	90	褐色土層中	荒海式 底部	I-B II-C	1	5	複数層間 (II-2区104層の 土器と接合)	—	—	G
3		I-1	90	褐色土層中	前浦式? 体部	I-A II-A	3	4	同一層内	48cm	—	A
4		I-1	90	貝層色下黒色土	不明 体部	I-B II-B	4	2	同一層内	71cm	2cm以内	F
5		I-2	89		不明 体部	I-B II-B	5	5	同一層内	—	—	F
6	553	I-2	89	46層・56層	荒海式 口縁部	I-B II-A	6	4	複数層間	8~4cm	2cm以内	D
7		I-2	90	126層	前浦式 口縁部	I-B II-A/B	7	2	同一層内	58cm	2cm以内	E
8		I-2	89	19層	荒海式 体部	I-A II-A	13	2	同一層内	37cm	7cm	A
9		I-2	90	119層	荒海式 体部	I-A II-A	14	3	同一層内	6cm	4cm	A
10		I-2	90	122層	荒海式 体部	I-B II-A/B	15	2	同一層内	2cm	2cm以内	E
11		I-2	89	15層上層	荒海式 体部	I-A/B II-A	16	4	同一層内	—	—	B
12		I-2	90	114層	荒海式 体部	I-A/B II-A/B	17	3	同一層内	2cm	2cm以内	C
13		I-2	90	95層	荒海式 体部	I-A/B II-A/B	18	3	同一層内	39cm	2cm以内	C
14		I-2	90	褐色土上面	荒海式 口縁部	I-B II-A/B	8	2	複数層間	5cm	2cm以内	E
15		I-3	90	1563層・ 褐色土上面	不明 体部	I-A II-A/B	12	2	複数層間	15cm	2cm以内	B
16		I-3	90	褐色土2層	安行式 体部	I-B II-A/B	9	2	同一層内	5cm	2cm以内	E
17		I-3	90	褐色土2層	安行式 体部	I-A II-A	10	2	複数層間	1m以上	—	A
18		I-3	90	褐色土中	不明 体部	I-A II-A	11	5	同一層内	—	—	A
19		I-3	90	褐色土層中	安行式 体部	I-A II-A	19	2	同一層内	—	—	A
20		I-3	90	褐色土層中	安行式 体部	I-A II-A	20	3	同一層内	32cm	2cm以内	A
21		I-3	90	褐色土層中	安行式 体部	I-A II-A	21	2	同一層内	82cm	4cm	A

おく必要がある。

土器の接合関係において、土器の空間的な位置関係を示す諸要素をここでは「接合状況」とする。接合状況の諸要素とは、土器が帰属する層位、接合の距離と高低差である。

層位については、各層位における「同一層内での接合」の場合と、「複数層間での接合」の場合を区別する。中央トレンチの貝層部分では、同一層内における接合関係を有するものがほとんどであり、複数層間での接合は少ない。したがって、各層が一定の廃棄単位を反映しているとすれば、土器も貝の廃棄と同時になされた可能性が高い。

さらに微細な見方として、まず接合の距離を見ることによって、近い距離で接合するのか（近接接合）、離れて接合するのか（遠隔接合）を検討可能となる。さらに高低差によって、ほぼ水平に接合するのか（水平接合）、あるいは高低差をもって接合するのか（傾斜接合）を判別できる。今回の中央トレンチにおいては、荒海式段階の接合土器の接合距離は、50cm未満であり、遠隔接合するものはない。一方、晩期安行式段階や前浦式段階の接合土器の接合距離を見ると、50cm以上を越えるものがあり、さらに他の区のものとの接合する遠隔接合例も存在する。高低差については、時期

の区別なく2cm以内と高低差がなく、水平接合のありかたを示している。これは、各貝層の厚さ自体が薄い点とも関連していると考えられるが、実態としては上下の層間での接合関係がほとんどないことに示されているように、廃棄単位や廃棄行為のあり方と深く関わると考えた方がよいであろう。

接合関係と土器の状態 中央トレンチにおいて接合関係を確認できる土器について、まず土器の出土状態と劣化状態の組み合わせを表7中の項目を指標に分類すると、A～Gの7段階に区分できる(表7中の順位)。土器の状態が良好なA段階のもの2/3は、貝層下の土層出土土器が主体を占め、貝層出土のものはB段階以下のものが主体である。前者の土器は、荒海式以前の土器型式が主体であり、後者の土器は荒海式以前と荒海式の土器型式からなる。

貝層下の土層出土土器が主体で、状態が良好なA段階のものでは、土器の接合距離は約30cm以上のものが多く、土器の接合距離が長いものはいずれもほぼ荒海式以前の土器型式からなる。

一方、貝層出土のものが多いB段階以下、C段階からG段階のものは、10cm以下と30cm以上のものの両者からなるが、土器の接合距離が長いものはいずれもほぼ荒海式以前の土器型式からなり、貝層下の土層と同様なありかたを示す。

以上のような土器の状態と接合距離を見る限り、中央トレンチでは貝層形成以前の荒海式以前の土器型式、すなわち、晩期安行式から前浦式段階では、土器の接合距離は長めで、土器破片の表面や割れ口の状態は劣化したものもあるが、良好なものが多い、と整理できる。こうしたあり方は、貝層形成以前の段階には、中央トレンチ付近はおそらく生活の場であり、貝層のような廃棄の場ではなかった可能性が高いことを示している。貝層部に比べて、貝層形成以前の土層中で他の区の土器との遠隔接合例(接合1・11)が見られることも、この可能性の高さを示している。

また、荒海1式のなかには、土器破片の表面や割れ口の状態の良好なものが貝層下の土層から出土しており、貝層形成前段階には、荒海式期の生活の場が中央トレンチ付近にも広がっていた可能性が高い。そして、荒海式の大部分は、貝層、あるいは貝層下土層出土のいずれにおいても、表面や割れ口の状態の悪いものが多く、貝層形成段階以降、中央トレンチ付近は生活の場というよりは廃棄の場、すなわち荒海式段階の貝塚となったことを示している。比較的大型土器破片が据えられるように廃棄されている一方、破片の土器の状態が悪いのは、破片となった後に、一定期間どこかに集積し、それらを片付けした後に貝層に廃棄するというような、複雑な廃棄行為によるものと考えられる。貝層全体にわたる接合土器の少なさや、上下層間での接合土器がないこと、さらに同一層内での水平接合ばかりである点は、以上の点を補強する材料となろう。

最後に、接合関係から推定できる廃棄行為についても触れておく。中央トレンチにおける土器の接合状況において、接合土器間で結んだ線(接合方向)を見ると、いずれもほぼ南北方向が主である。中央トレンチの北側は、標高の低い谷側であり、生活の場としては不向きである。接合方向が南北方向に偏るのは、中央区の南側に生活の場があり、そちらの方向から廃棄することが多かったことを示しているのであろう。そして、廃棄の方向性を図示することができなかったが、貝層下土層においては南北方向以外にも接合する傾向があり、貝層形成以前と以後では、土地利用と廃棄行動の相関関係に差異が見られる点を指摘できる。

(小林青)

4 II-2・II-3 区の調査と出土土器

(1) 土層・貝層堆積状況

II-2 区は、南北幅 50cm ごとに 3 区画、貝層を掘り下げた。その結果、東からそれぞれの区画は 1~15 層の 15 層、101~140 層の 41 層（2 層に分かれた層がある）、201~208 層（各層は細別された）の 36 層に区分された。貝層の厚さはおよそ 40cm であり、いずれも混土貝層である。貝層を乗せる層は暗褐色土層で、ほぼ水平である。貝層は南から北に向かって下がるように、斜めに堆積している。

貝層は、ムラサキガイを含む層が多いが、含まれる数は 1~2 個程度と少なく、まれにハマグリやウミナナなどを含むだけで、ヤマトシジミがほぼ 100% である。

(2) 遺物の出土状況と堆積の時期

II-2 区の暗褐色土上面には、イノシシの下顎骨が横たわっていた。土器片と獣骨を比較的多く包含している層がある。それは下層と上層であり、中間の層には両者は少ない。また、土器と獣骨の多い層は両者ともに含まれる場合が多いが、中にはどちらか一方を多く、あるいは片方のみを含む層もある。

(3) 出土土器（図 91-1197~図 94-1355）

第Ⅴ群土器（1197） 堀之内 1 式。

第Ⅵ群土器（1199・1204~1207・1211・1212・1221・1333・1334・1336）

1221~1223 は 7 類の条線文の土器。1336 はソロバン玉状の深鉢。それ以外は紐線文土器。加曾利 B1・B2 式。1336 は加曾利 B2 ないし B3 式。

第Ⅶ群土器（1209・1222・1341） 1209 は紐線文土器。条線が密で太い曾谷式。1222 は条線がまばらな安行 1 式。1341 は瓢形土器。くびれ部に 1 段の列点がめぐり、その上と下に襷状磨消縄文や連弧状磨消縄文を描く。曾谷式か。

第Ⅷ群土器（1198・1217・1220・1335~1337） 1198 は帯縄文の波状口縁深鉢。帯縄文は扁平である。安行 3a 式。1220 は内湾口縁の砲弾形の深鉢。安行 3b 式、姥山 II 式。1335~1337 は扁平な磨消縄文や細密沈線文をもつ土器群。安行 3b 式。

第Ⅸ群土器（1226） 縄文を欠く。二段杵状文。姥山 III 式。

第Ⅹ群土器（1200・1223・1224・1232・1235・1237~1292・1338~1340・1342~1345・1347~1355）

1 類（1200・1235） 1200 はパネル状の長楕円区画文を 2 条の沈線によって描き、中と外に縄文を加えた壺。立体的な彫刻である。1235 は口縁外面に 2 条、内面に 1 条の沈線をもつ深鉢。口縁は若干外反し、頸胴部にくびれをもつであろう。沈線の部分がよく磨かれて、丁寧な作りである。やや茶色みを帯びた黒褐色。中部高地地方の女鳥羽川式や埼玉県域の前窪式に類例のある深鉢であり、大洞 A1 式に並行する。

5 類（1237・1243・1338・1340） 口縁に 2 条の沈線を引き、そこから 2 条の沈線を斜めに下す鉢。内面にも 2 条の沈線がある。1338 は直線で区画した中に、弧線文を描いた壺。1340 は壺。沈線文

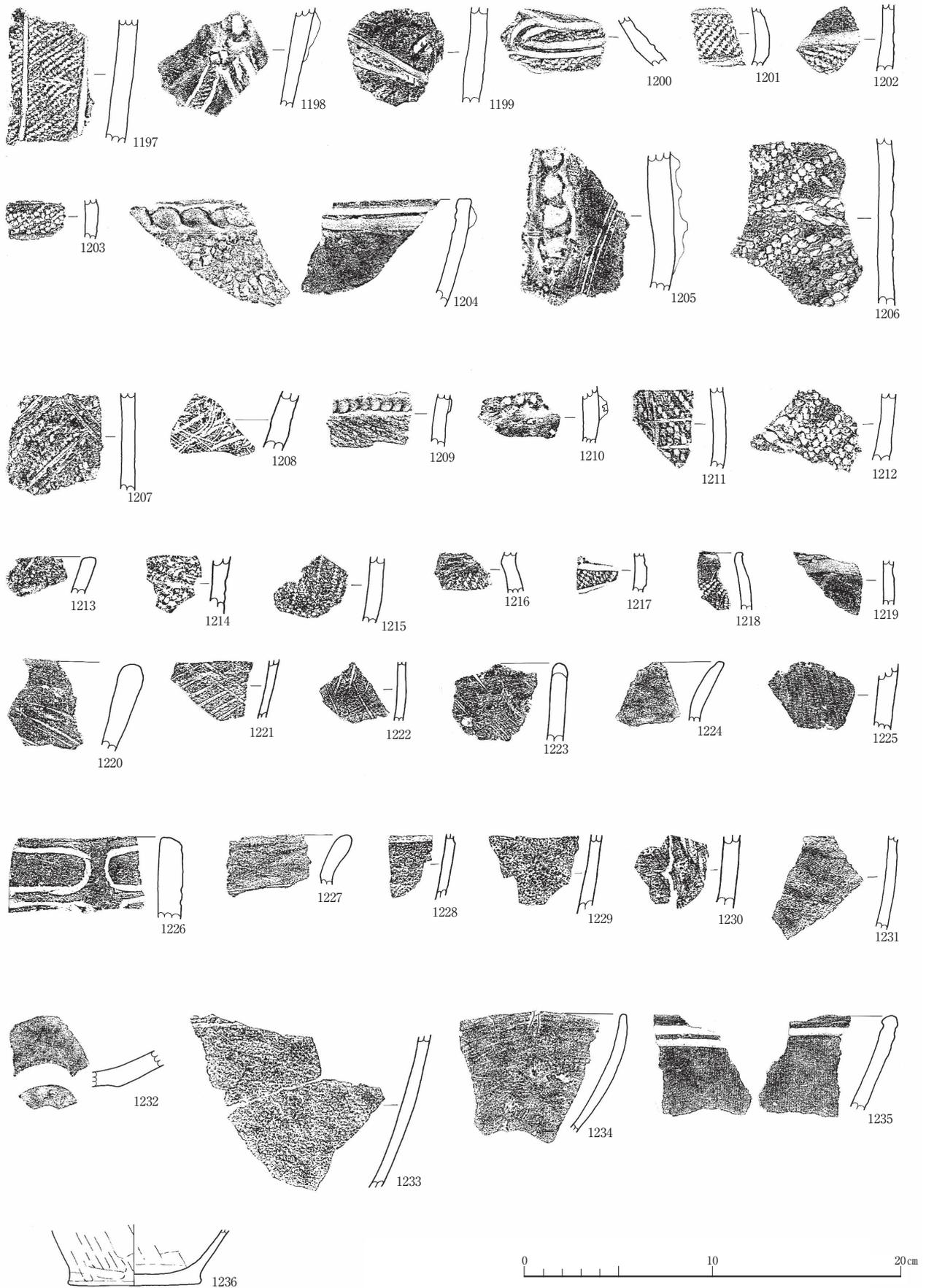


図91 中央トレンチⅡ-2区出土土器(1)

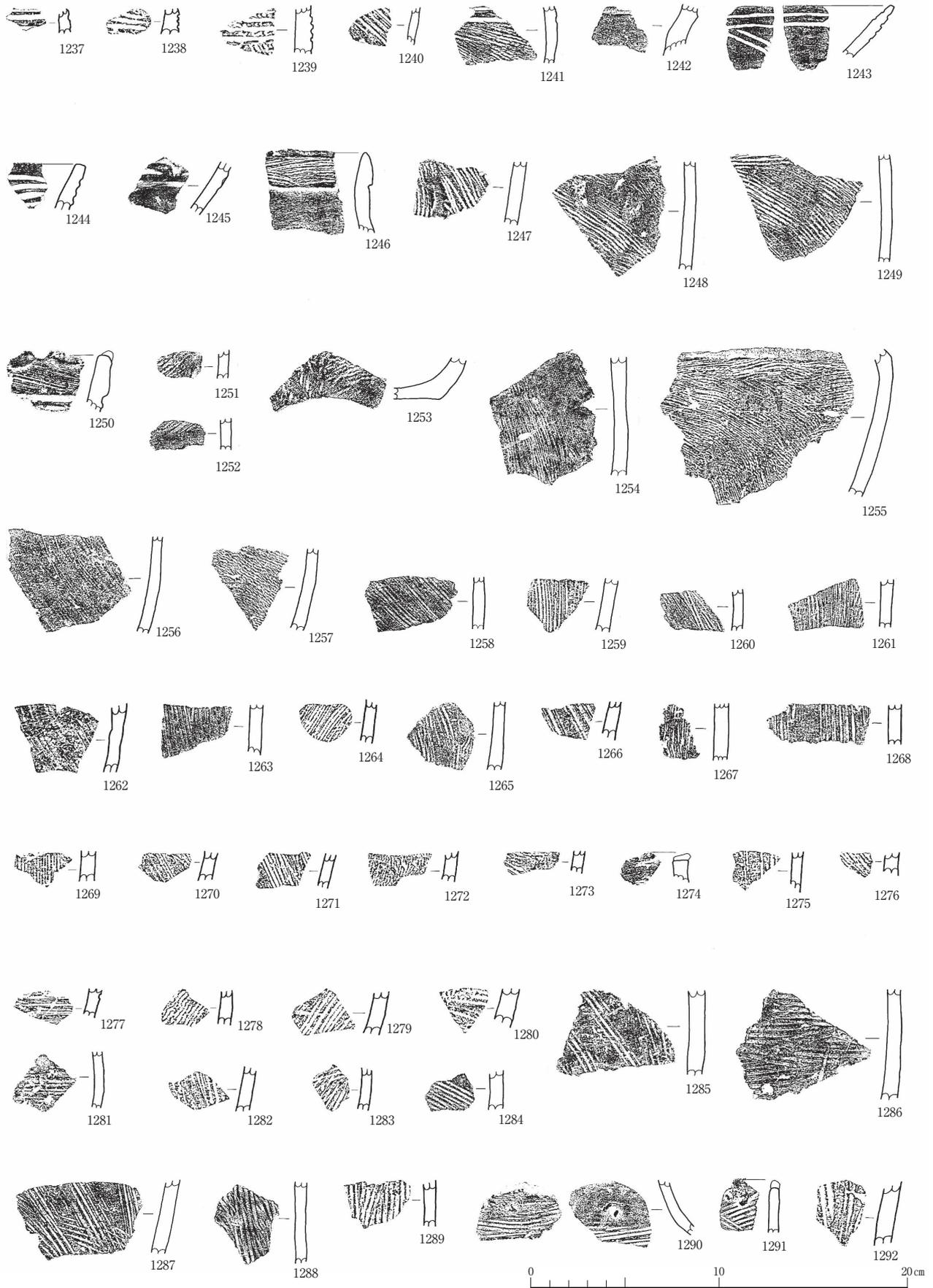


図 92 中央トレンチ II-2 区出土土器 (2)

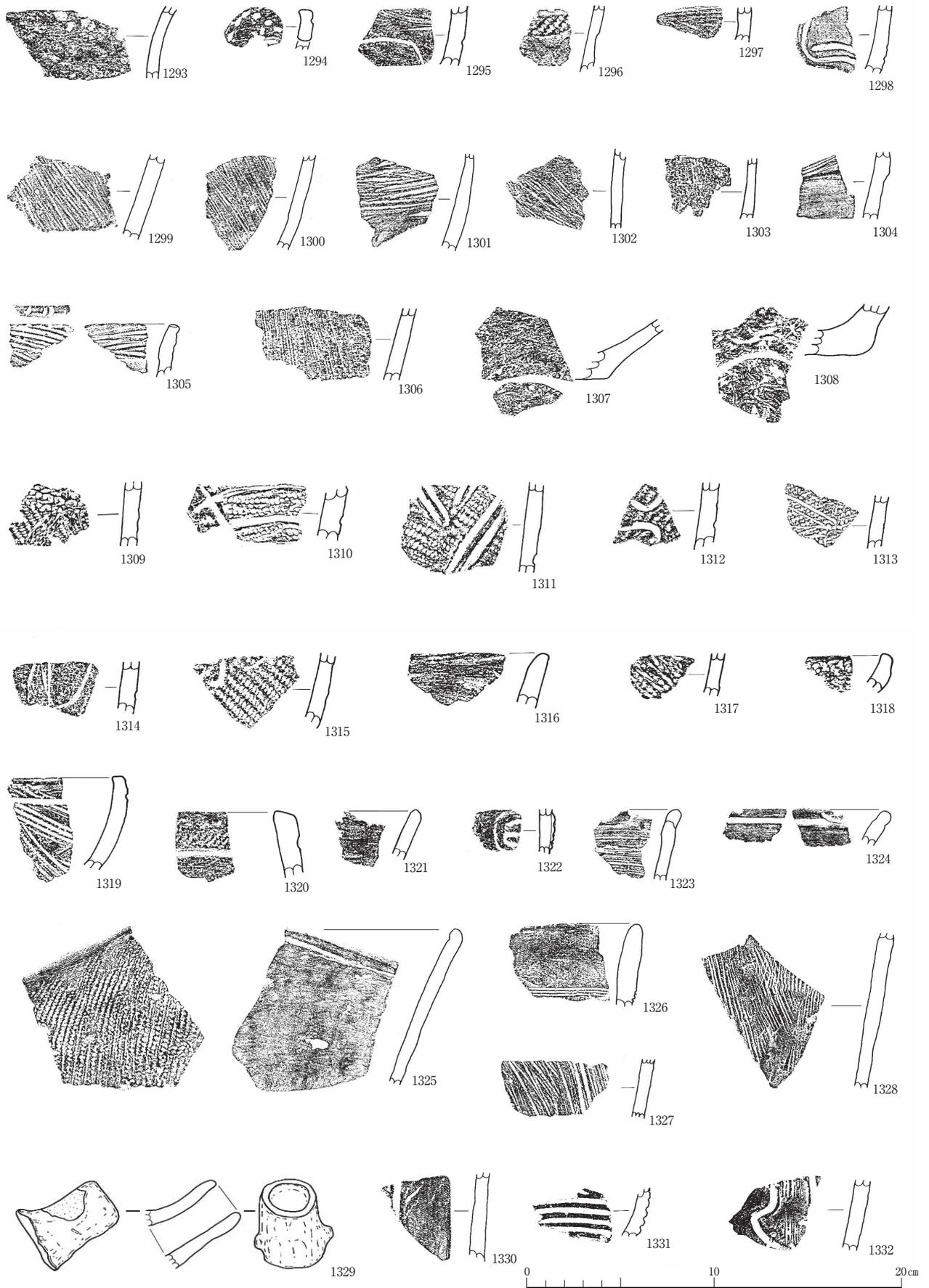


図93 中央トレンチⅡ-2区出土土器(3)

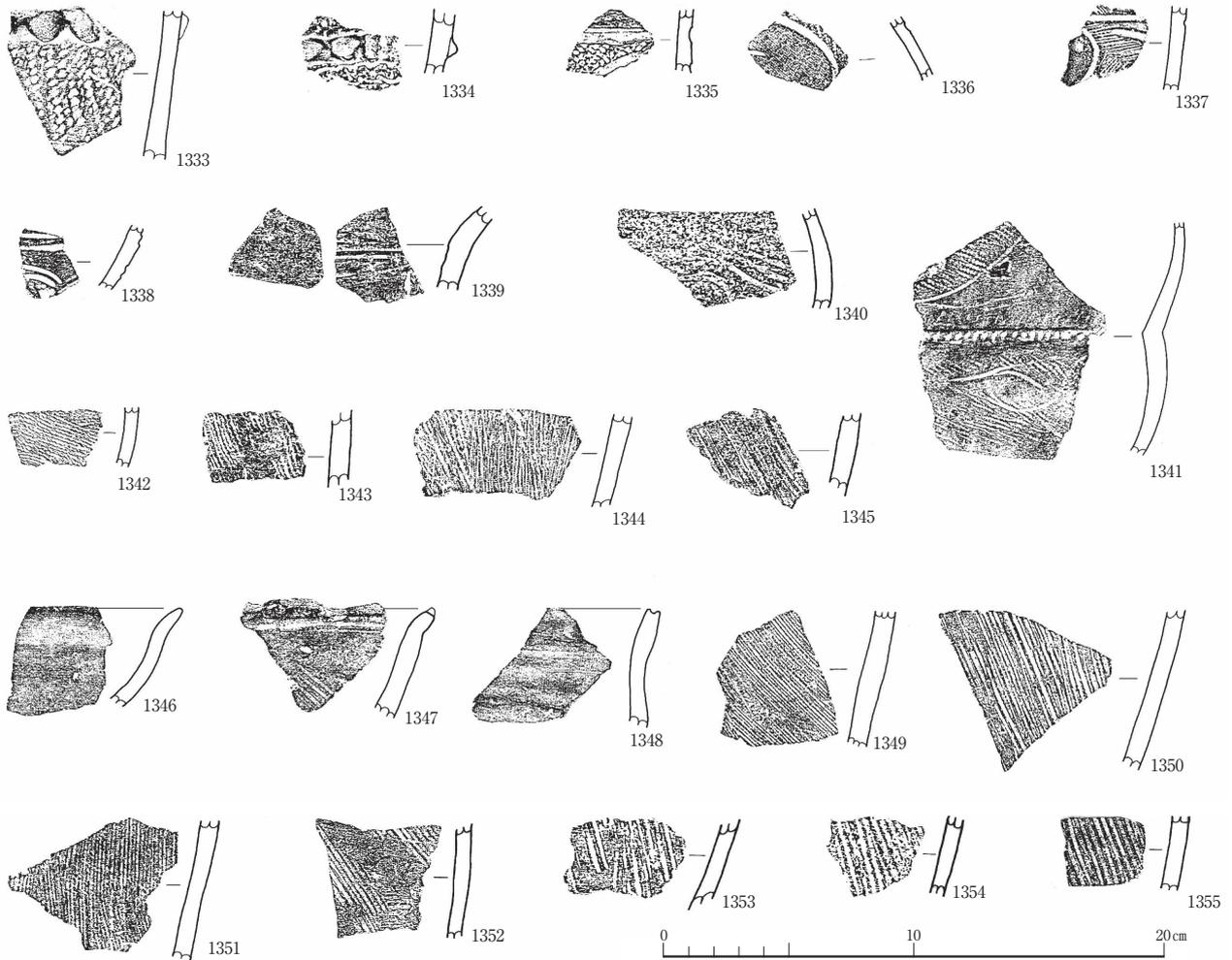


図 94 中央トレンチⅡ-2区出土土器 (4)

があるが、器表面がはげ落ちており、文様モチーフは不明。

6類 (1250) 細密条痕の深鉢。折り返し口縁で、口縁直下に2条以上の沈線がめぐる。

7類 (1241・1244~1249・1251~1253・1255~1257・1342・1343) 撚糸文の土器。1241は鉢であり、2条沈線がめぐる。赤褐色で、他の深鉢と異なる。1246は折り返し口縁に横方向の撚糸文が施され、頸部は無文となる。1255は頸部が無文。胴部には上位に横、下位に斜の撚糸文が施される。

8類 (1240・1254・1258~1292・1339・1344・1345・1347~1355) 条痕文の深鉢。1258~1283は緻密な整った細密条痕だが、1284~1292は粗い。1348は口縁端部に沈線がある。1339は頸部の内面に条痕がある。1286・1288~1291・1339・1347・1352~1355は二枚貝腹縁による。1290は壺形土器で、内面の下半にも二枚貝腹縁の条痕が認められる

9類 (1348) 無文の土器。胴部に屈曲がある鉢。1179と同一個体と思われる。

Ⅱ-2・Ⅱ-3区出土土器のまとめ Ⅱ-2区の二枚貝腹縁の条痕が多いのは、Ⅱ-1区と同じ傾向である。Ⅱ-3区出土土器は、Ⅰ-1~Ⅱ-2区と変わらない様相を示す。1346は土師器。

(設楽)

表8 中央トレンチⅡ-2区出土土器の層位

番号	層位	1224	118層	1252	124層	1280	125層	1308	?
1197	貝層下褐色土層	1225	3層	1253	208f層	1281	7層	1309	褐色土中間部深掘り
1198	攪乱層	1226	攪乱層	1254	貝層下褐色土層	1282	107層	1310	深掘り
1199	貝層下褐色土層	1227	208P層	1255	貝層下褐色土層	1283	134層	1311	褐色土中間部深掘り
1200	貝層下褐色土層	1228	14層	1256	9層	1284	102層	1312	褐色土中間部深掘り
1201	129層	1229	貝層下褐色土層	1257	206b層	1285	北壁	1313	深掘り
1202	13層	1230	134層	1258	北壁	1286	113層	1314	深掘り
1203	9層	1231	?	1259	126層	1287	120層	1315	深掘り
1204	攪乱層	1232	?	1260	1層	1288	北壁	1316	褐色土中間部深掘り
1205	貝層下褐色土層	1233	?	1261	206b層	1289	123層	1317	深掘り
1206	貝層下褐色土層	1234	北壁	1262	貝層下褐色土層	1290	貝層	1318	褐色土中間部深掘り
1207	貝層下褐色土層	1235	貝層下褐色土層	1263	北壁	1291	204k層	1319	褐色土中間部深掘り
1208	?	1236	攪乱層	1264	2086層	1292	203層	1320	深掘り
1209	129層	1237	105層	1265	111層	1293	?	1321	深掘り
1210	貝層下黒色土層	1238	107層	1266	125層	1294	?	1322	深掘り
1211	北壁	1239	15層	1267	207b層	1295	?	1323	排土中
1212	貝層下褐色土層	1240	131層	1268	208d層	1296	?	1324	深掘り
1213	北壁	1241	208g層	1269	104層	1297	?	1325	深掘り
1214	208W層	1242	206b層	1270	208b層	1298	?	1326	褐色土中間部深掘り
1215	7層	1243	7層	1271	4層	1299	?	1327	深掘り
1216	2090層	1244	貝層	1272	104層	1300	?	1328	褐色土中間部深掘り
1217	1層	1245	3層	1273	133層	1301	?	1329	深掘り
1218	北壁	1246	118層	1274	7層	1302	?	1330	深掘り
1219	貝層下褐色土層	1247	貝層	1275	129層	1303	?	1331	排土中
1220	1層	1248	13層	1276	104層	1304	?	1332	褐色土中間部深掘り
1221	?	1249	貝層下褐色土層	1277	204g層	1305	?		
1222	2090層	1250	貝層	1278	104層	1306	攪乱穴		
1223	攪乱層	1251	13層	1279	201b層	1307	?		

表9 中央トレンチⅡ-3区出土土器の層位

番号	層位	1337 ?	1342 攪乱層	1347 攪乱層	1352 攪乱層
1333	攪乱層	1338 ?	1343 表土層	1348 攪乱層	1353 攪乱層
1334	褐色土 22 層	1339 表土層	1344 表土層	1349 攪乱層	1354 攪乱層
1335	攪乱層	1340 ?	1345 ?	1350 攪乱層	1355 表土層
1336	?	1341 ?	1346 ?	1351 攪乱層	

5 Ⅲ-1～Ⅲ-3区の調査と出土土器

(1) 土層・貝層堆積状況

Ⅲ-2区は第1層の表土層の下に、第2層の黒褐色土層が厚さ20～30cmほど堆積する。この層は、部分的に破砕貝を含む土層である。第3層はやや褐色が強い黒褐色土層であり、やはり部分的に破砕貝を含む。その下の第4層は破砕貝や完全な貝を含む混貝土層である。第4層は地表下70～90cmで現れ、北に向かって下がるように傾斜しており、この面で発掘を中止した。第4層は、Ⅰ-1～Ⅲ-1区の西壁で確認された第5層に相当し、レンズ状に堆積していると思われる。

(2) 出土土器 (図95-1356～図96-1421)

第Ⅱ群土器 (1356～1359) 1356は羽状縄文を地文として口縁に二条、細い半截竹管で沈線を引く。胎土に繊維を含む。1357～1359は細い半截竹管による曲線文や押し引き文を描く。1356が黒浜式で、それ以外は諸磯a式。

第Ⅳ群土器 (1378・1380・1394) 1378・1380は縄文を地文として縦に並行する沈線を加える。加曾利E3式。1394は太い隆起線をもつ厚手の土器。加曾利E4式。

第Ⅴ群土器 (1360～1366・1368～1377・1379・1381・1405～1410・1412・1419)

1類 (1360～1362・1379) 1期の称名寺Ⅰ・Ⅱ式。

2類 (1363～1366・1368～1377・1381・1405～1410・1412・1419) 縄文を地文として曲線的な沈線文を描いたものとその仲間。2期の堀之内1式。

第Ⅵ群土器 (1387・1399・1402・1404) 紐線文土器と弧状の磨消縄文をもつ深鉢。加曾利B1～3式。

第Ⅶ群土器 (1398・1411・1413・1414) 隆起帯縄文をもつ土器とその仲間。1398は安行1式の紐線文土器。1413・1414は瘤に横の刻目が入る安行2式。

第Ⅷ群土器 (1415) 波状口縁の深鉢。波頂部に粘土貼り付けがある。姥山Ⅱ式。

第Ⅸ群土器 (1384～1386・1388・1393) 1384から1386・1388は太い沈線で区画した磨消縄文のある土器。1393は杵状の沈線文による磨消縄文の深鉢。前浦Ⅱ式。

第Ⅹ群土器 (1367・1390～1392・1395・1397・1400・1417・1418) 1367は折り返し口縁の深鉢。無文。1400は波状口縁で口縁部が無文の深鉢。1390・1392・1395は捩糸文の深鉢。1391・1397は細密条痕の深鉢。1418は二枚貝腹縁による条痕。千網式・荒海式。

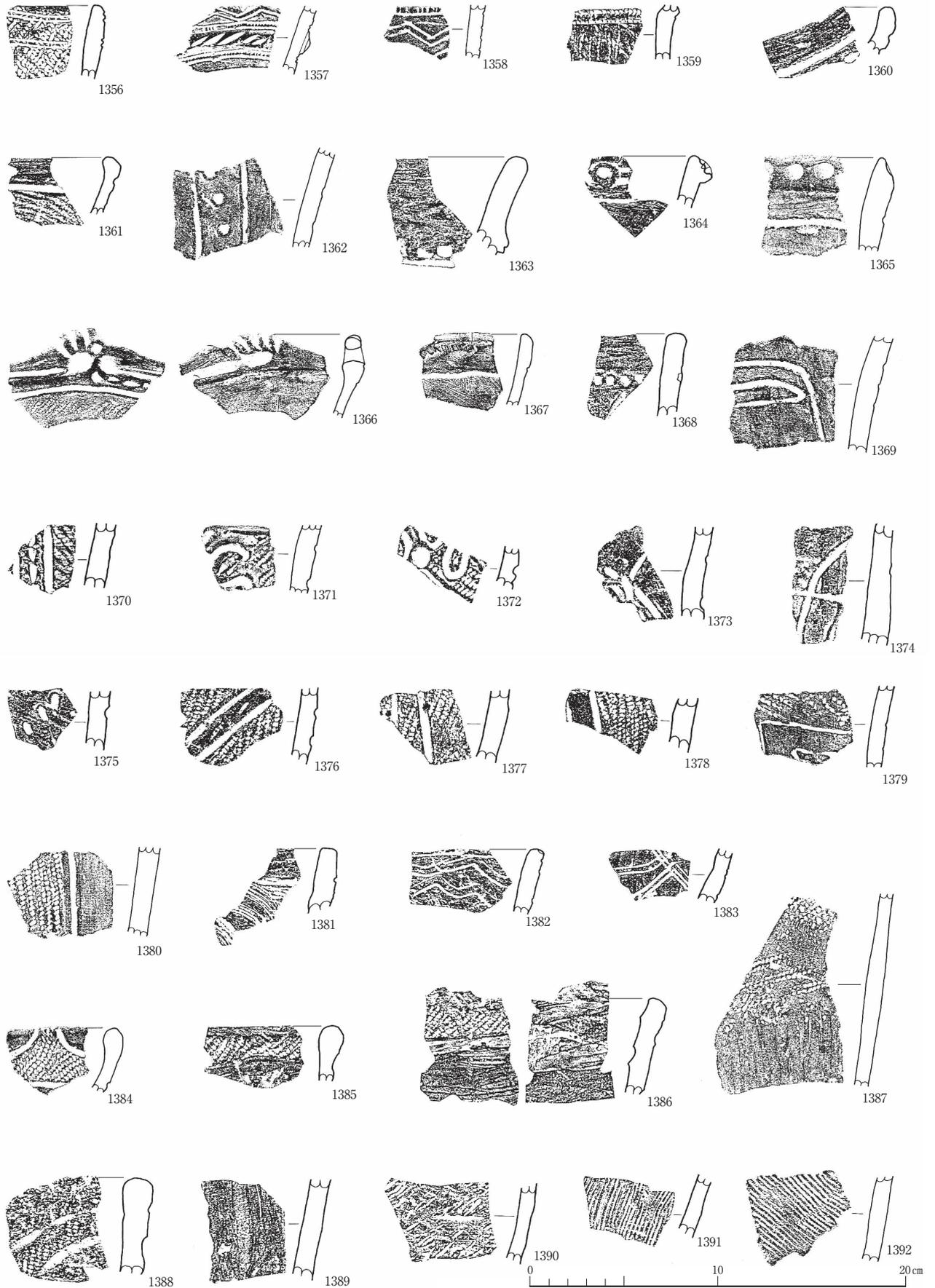


図95 中央トレンチⅢ-1区出土土器

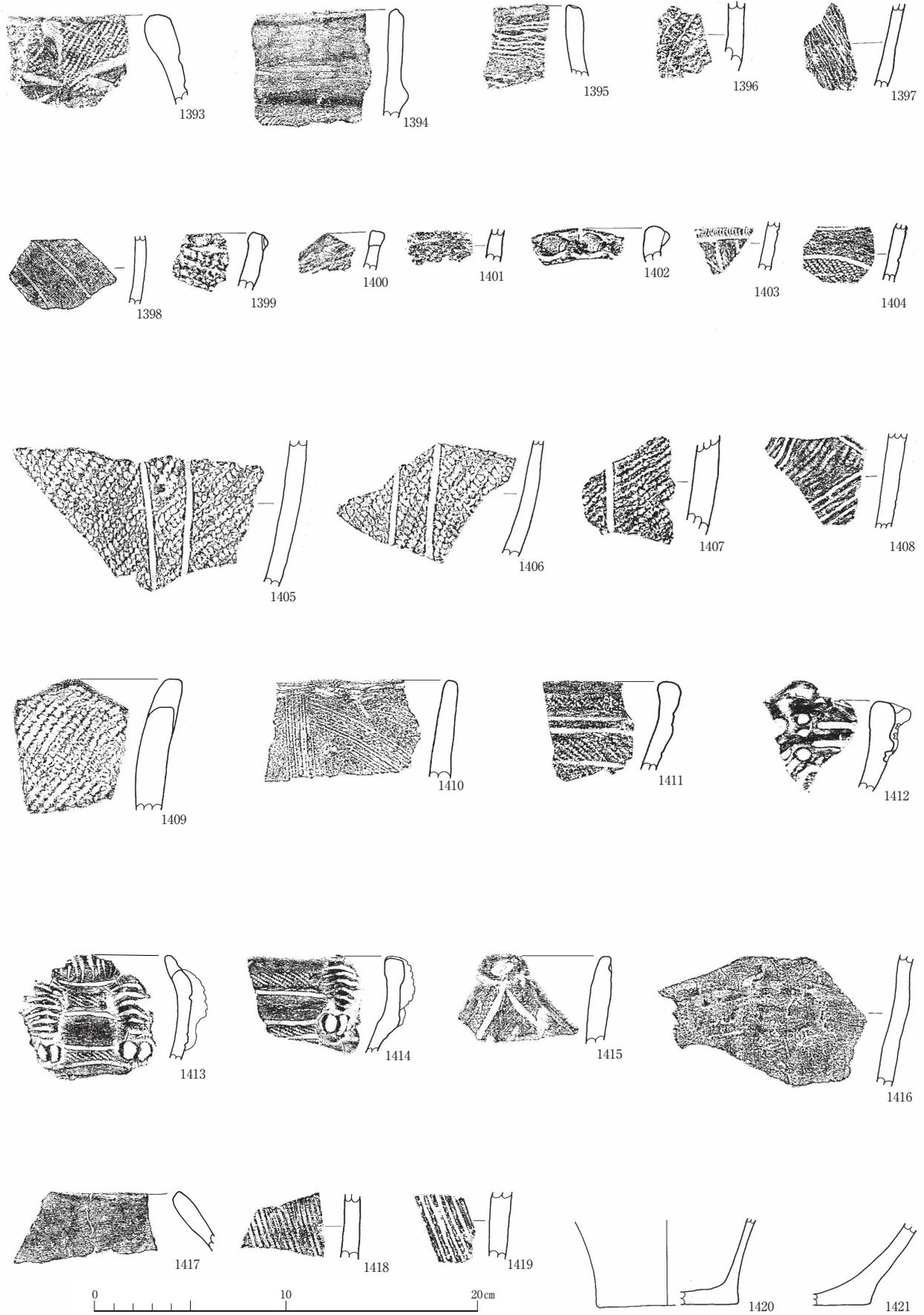


図 96 中央トレンチⅢ-2・Ⅲ-3区出土土器

表 10 中央トレンチⅢ区出土土器の層位

番号	層位	1369	深掘り土層	1383	深掘り土層	1397	表土層	1411	表土層
1356	深掘り土層	1370	深掘り土層	1384	深掘り土層	1398	表土層	1412	?
1357	深掘り土層	1371	深掘り土層	1385	深掘り土層	1399	表土層	1413	?
1358	深掘り土層	1372	深掘り土層	1386	黒色土層	1400	1層	1414	?
1359	深掘り土層	1373	深掘り土層	1387	深掘り土層	1401	1層	1415	4層
1360	深掘り土層	1374	深掘り土層	1388	黒色土層	1402	?	1416	?
1361	深掘り土層	1375	深掘り土層	1389	深掘り土層	1403	?	1417	?
1362	深掘り土層	1376	深掘り土層	1390	深掘り土層	1404	表土層	1418	表土層
1363	深掘り土層	1377	深掘り土層	1391	黒色土層	1405	?	1419	4層
1364	深掘り土層	1378	深掘り土層	1392	黒色土層	1406	?	1420	?
1365	深掘り土層	1379	深掘り土層	1393	表土層	1407	?	1421	3-4層
1366	深掘り土層	1380	深掘り土層	1394	?	1408	表土層		
1367	表土層	1381	深掘り土層	1395	1層	1409	?		
1368	深掘り土層	1382	深掘り土層	1396	表土層	1410	?		

Ⅲ区出土土器のまとめ Ⅲ-1区出土土器は、縄文前期～縄文晩期終末であり、堀之内1式が多い。Ⅲ-2・Ⅲ-3区出土土器は、縄文中期後半～晩期終末であり、これといった特徴はなく、各時期の土器が出土している。

(設楽)

6 IV-1～IV-3区の調査と出土土器

(1) 土層・貝層堆積状況 (図97)

IV-1区は厚さ30～50cmの第1層表土を取り除くと東南側で第2層の破砕貝を含む暗褐色混貝土層が確認された。その下は第3層の黒褐色土層であり、この区画の大半は表土の下が第3層である。地表下約80cmで第4層の暗褐色土層になる。第3・4層は破砕貝を含めて貝をほとんど含まない土層である。第4層上面で掘り下げを止め、西壁沿いに幅50cmのトレンチを設定し、深掘りをおこなった。その結果、第4層は厚さ40～70cmほどであり、その下は貝を含まない第5層の黒褐色土層が堆積していることが明らかになった。地表下約150cm掘り下げ、第5層の途中で発掘を中止した。IV-2・IV-3区とも同じような土層堆積状況である。

(2) 出土土器 (図98-1422～図103-1603)

第Ⅱ群土器 (1480) 細い半截竹管の押し引き文がある。諸磯a式。

第Ⅴ群土器 (1422～1442・1444～1447・1471・1481～1488・1489～1500・1542・1548・1549・1551～1555・1557・1558) 口縁が肥厚して沈線文を加えたり、孔のある立体的な口縁部装飾をもったもの、縄文を地文として沈線で文様を描くもの、櫛歯状工具による沈線文を加えたもの、縄文だけの深鉢など、バリエーションが豊富である。縄文だけの個体には第Ⅵ群土器も含まれる可能性がある。称名寺Ⅱ式、堀之内Ⅰ式。

第Ⅵ群土器 (1448～1450・1508・1513・1559) 1508はバケツ状の深鉢。加曾利B1式。1448・1513は紐線文土器であり、1513は縄文が隠れ気味の加曾利B3式。1449は注口土器。加曾利B1式。1450・1559は加曾利B2式の紐線文土器。

第Ⅶ群土器 (1453・1503～1507・1509・1514・1560・1568) 隆起帯縄文系の土器。1503は波状口縁の深鉢。瘤に刻目がかかない安行Ⅰ式。1505は安行Ⅰ式の注口土器あるいは瓢形土器。1504は安行Ⅱ式の注口土器。1509は条線をもつ半精製土器。1453・1514・1560・1568は安行Ⅰ～Ⅱ式の紐線文土器。

第Ⅷ群土器 (1455～1457・1462・1510～1512・1519・1562・1569～1573) 扁平な磨消縄文や沈線文のみによる土器。1569・1572は安行3a式の深鉢。1570は姥山Ⅱ式の細密沈線文土器。1573は条線文を施した姥山Ⅱ式の砲弾形深鉢。1462は無文で調整が粗い粗製土器。

第Ⅸ群土器 (1458) 太い沈線による磨消縄文の土器。前浦Ⅱ式。

第Ⅹ群土器 (1459・1472～1476・1534・1535・1537・1539・1540・1543～1545・1550・1553・1590～1602)

2類 (1535) 浮線による工字文をもつ壺。立体的でしっかりした工字文を描く。

5類 (1537・1539・1540) 沈線文により文様を描く土器。1537は変形工字文を施した鉢。1539は断続的な沈線文を3列施す。磨滅している。1540は縄文を地文として変形工字文を胴上部に施した深鉢。胴が張り、口縁は屈曲して外反する。上の工字状文の交点には粘土の盛り上がりがかろうじてみられるが、下の三角形取束部分はえぐりが深く加えられるものの、粘土の盛り上がりはない。

6類 (1459・1550・1590) 沈線文による。1459は口縁が沈線により段をもって区画された深鉢。

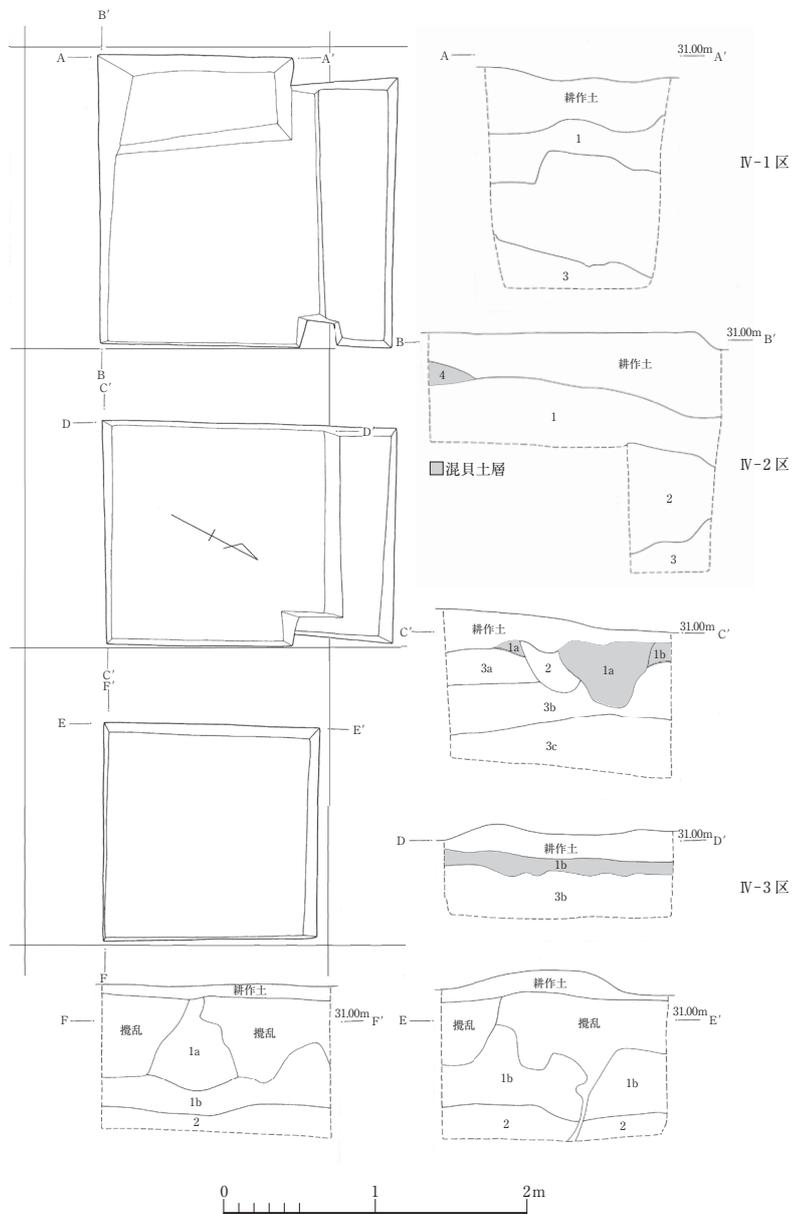


図 97 中央トレンチIV区

IV区トレンチ土層

IV-1区

- 第1層 黒褐色土 (10YR3/2)：粘性弱いがしまりあり。破碎貝はほとんど含まない。
- 第2層 暗褐色土 (10YR3/4)：粘性しまりともにあり。破碎貝はほとんど含まない。
- 第3層 黒褐色土 (10YR2/3)：粘性しまりともに強い。破碎貝は含まない。
- 第4層 暗褐色土 (10YR3/3)：混貝土層。粘性弱いがしまりややあり。破碎貝を含む。

IV-2区

- 第1層 黒褐色土 (10YR3/2)：混貝土層。しまりあるが粘性なし。破碎貝を含む。
- 第2層 黒褐色土 (10YR2/3)
- 第3a層 黒褐色土 (10YR3/2)：しまり良いが粘性なし。
- 第3b層 黒褐色土 (7.5YR3/2)：比較的しまりがいい。
- 第3c層 黒褐色土 (7.5YR2/2)：しまり良い。少量の焼土を含む。

IV-3区

- 第1a層 黒褐色土 (10YR3/2)：しまり良いが粘性なし。
- 第1b層 黒褐色土 (7.5YR3/2)：比較的しまりがいい。
- 第2層 黒褐色土 (7.5YR2/2)：しまり良い。少量の焼土を含む。

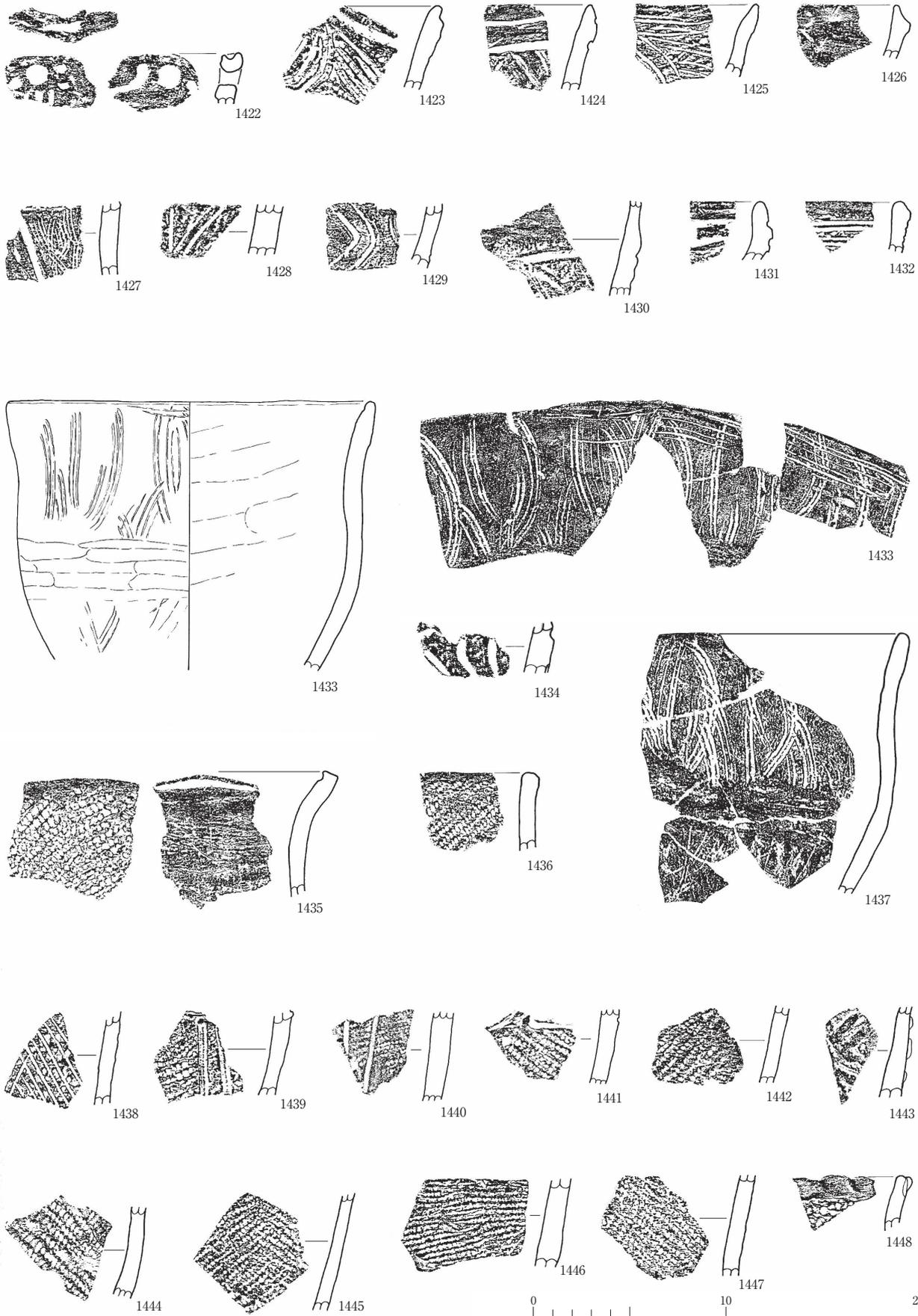


図 98 中央トレンチIV-1 区出土土器 (1)

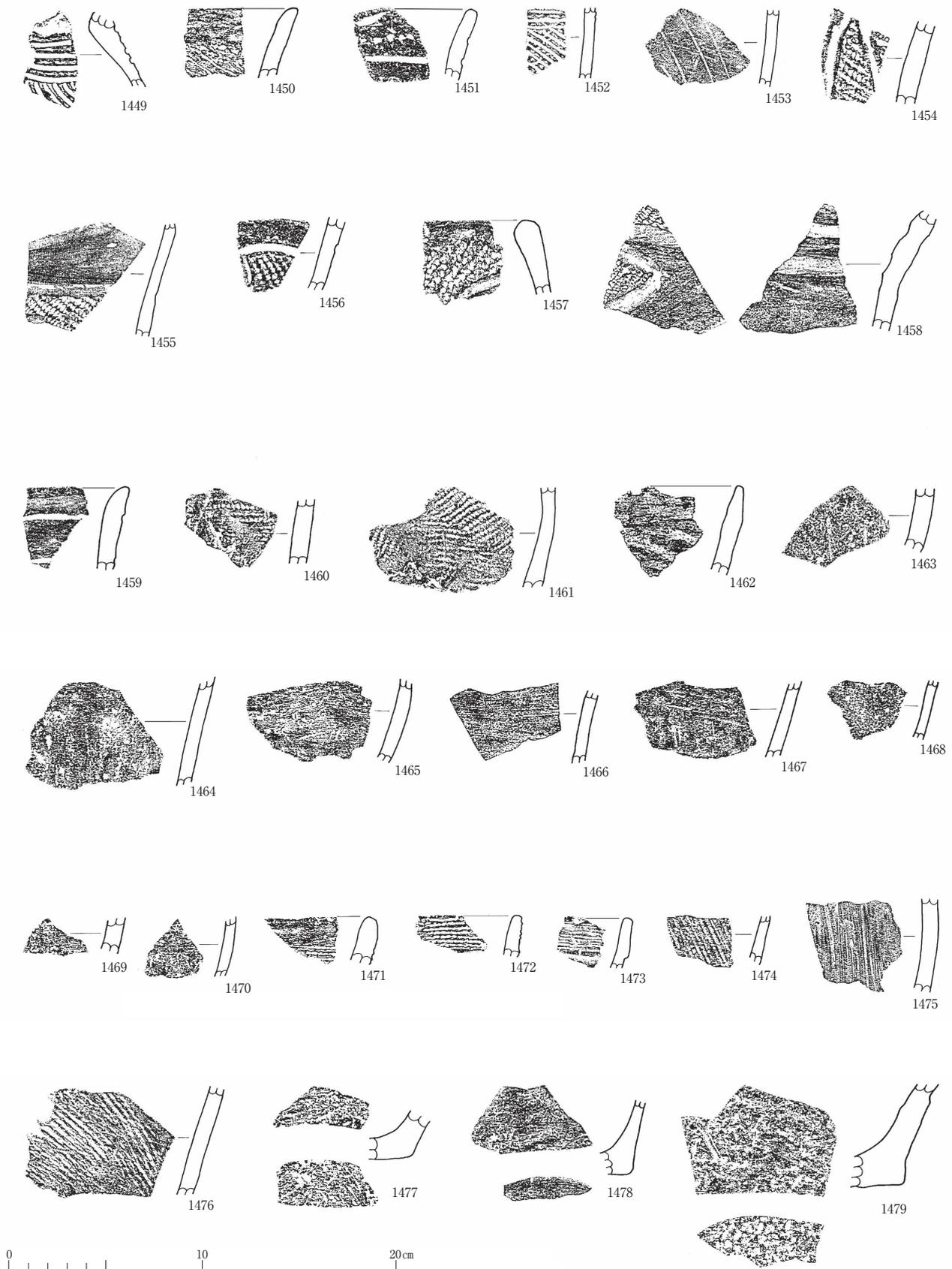


図 99 中央トレンチⅣ-1 区出土土器 (2)

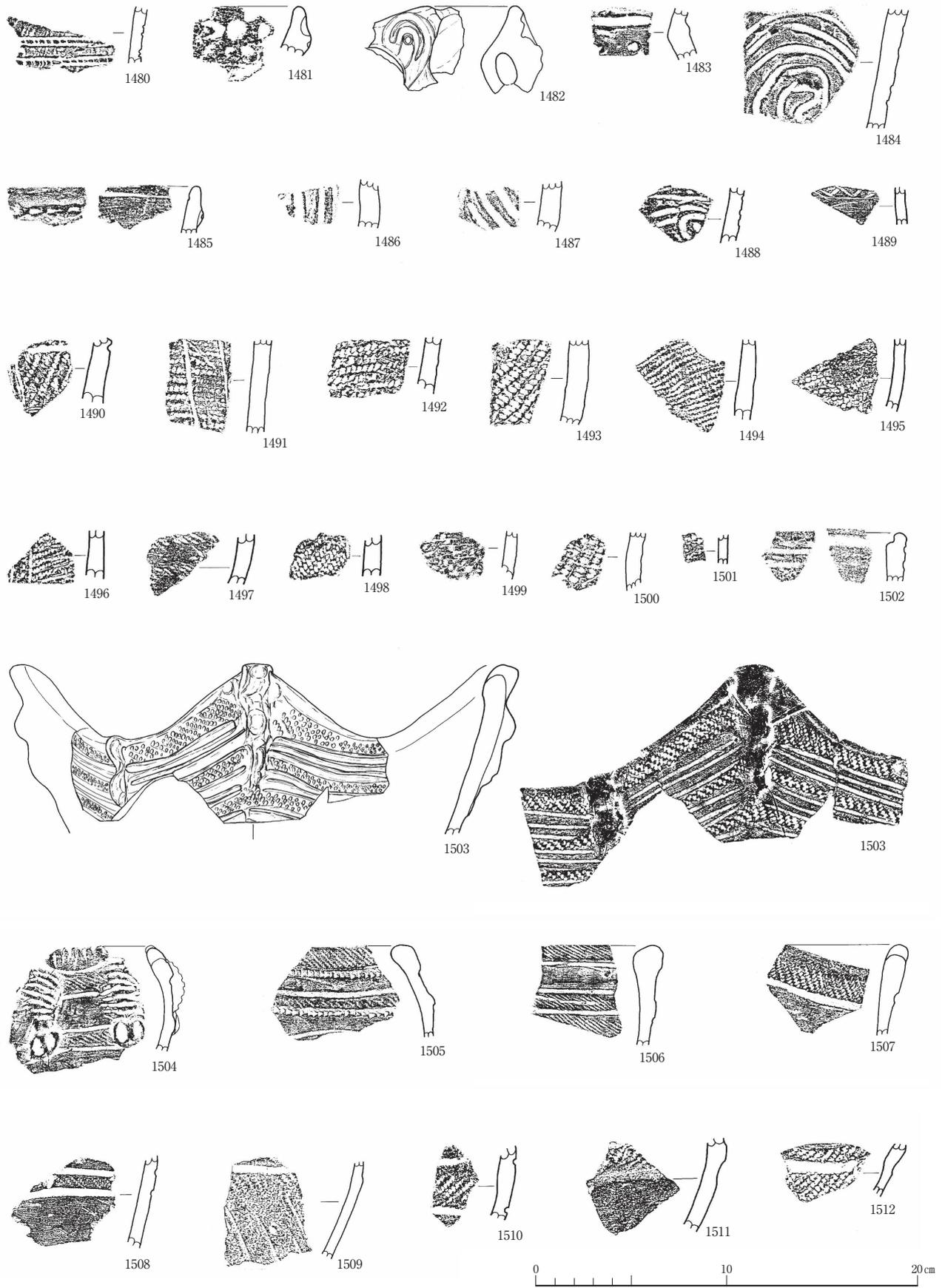


図 100 中央トレンチIV-2区出土土器 (1)

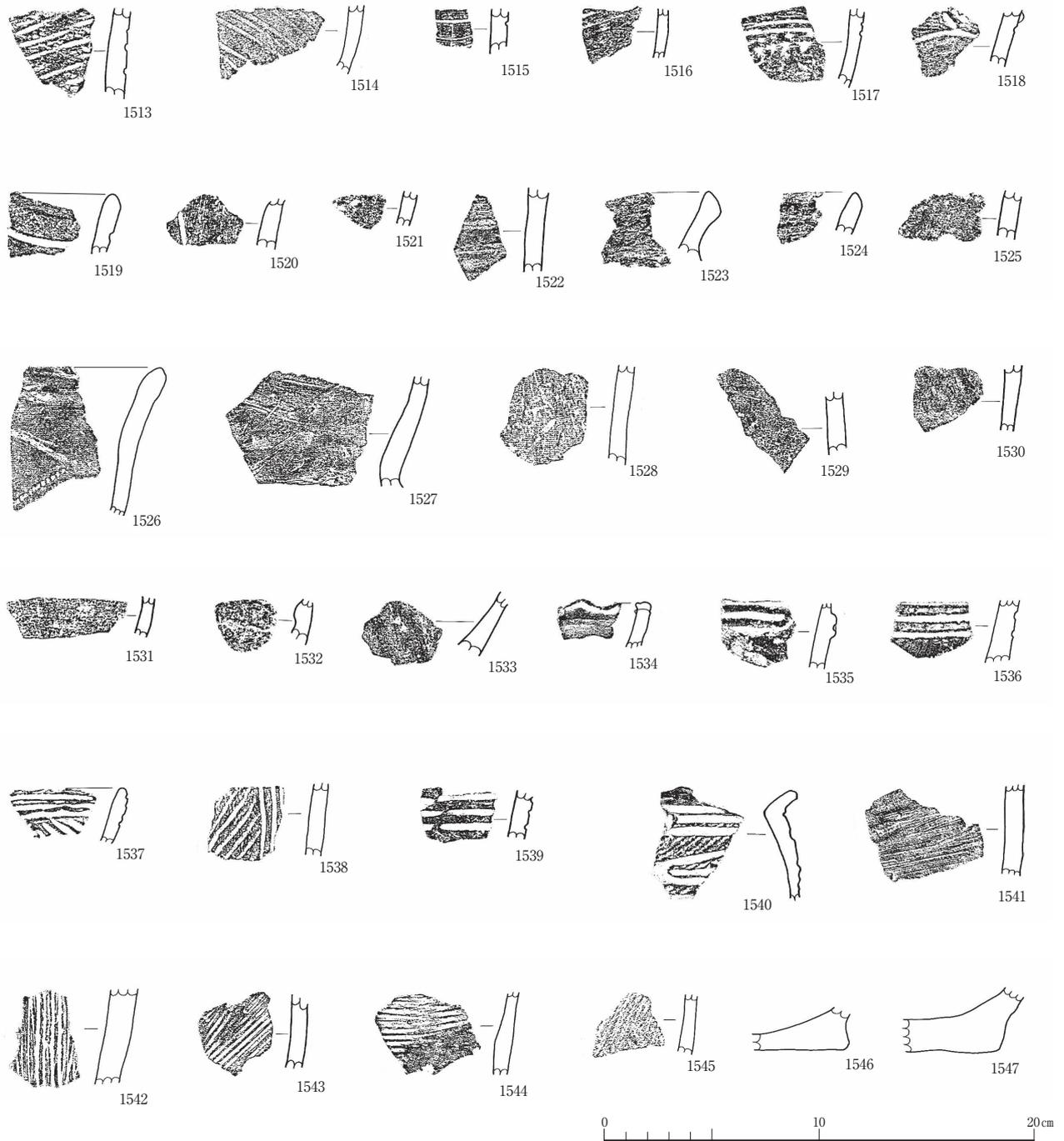


図 101 中央トレンチⅣ-2 区出土土器 (2)

1590 は口縁下に断続的な沈線文を重ねる。

7 類 (1472・1473・1476・1592・1593・1595) 撚糸文の深鉢。

8 類 (1474・1475・1534・1543~1545・1595~1600・1602) 条痕文の土器。1534 は口縁部で押捺により波状口縁をなす。頸部は無文で、おそらく胴部に細密条痕が加えられる。1474・1475・1545 は細密条痕。1543・1544・1602 は二枚貝腹縁による条痕文である。

9 類 (1594) 無文土器。ケズリにより調整される。

これらは千網式および荒海式である。

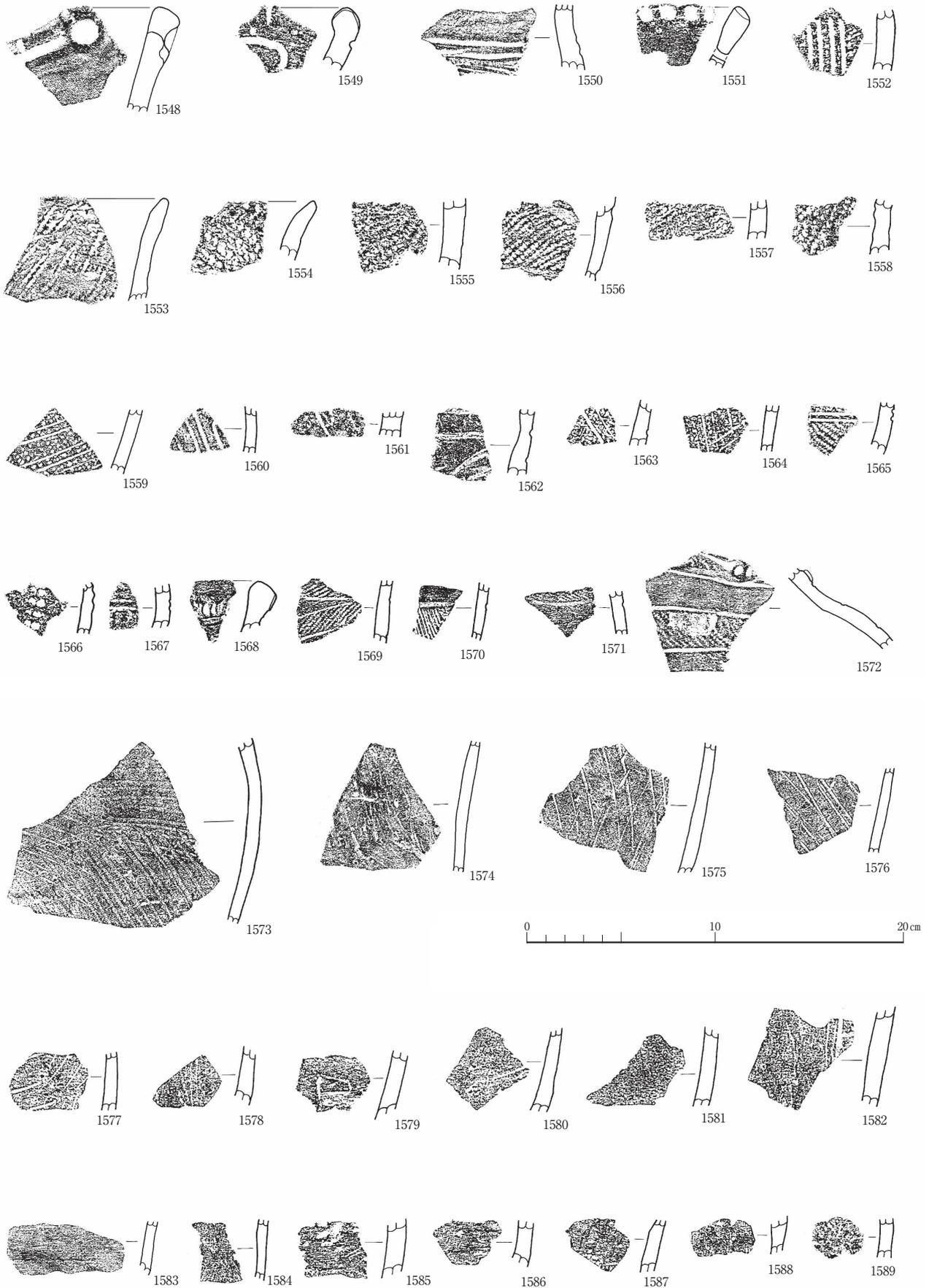


図 102 中央トレンチIV-3区出土土器 (1)

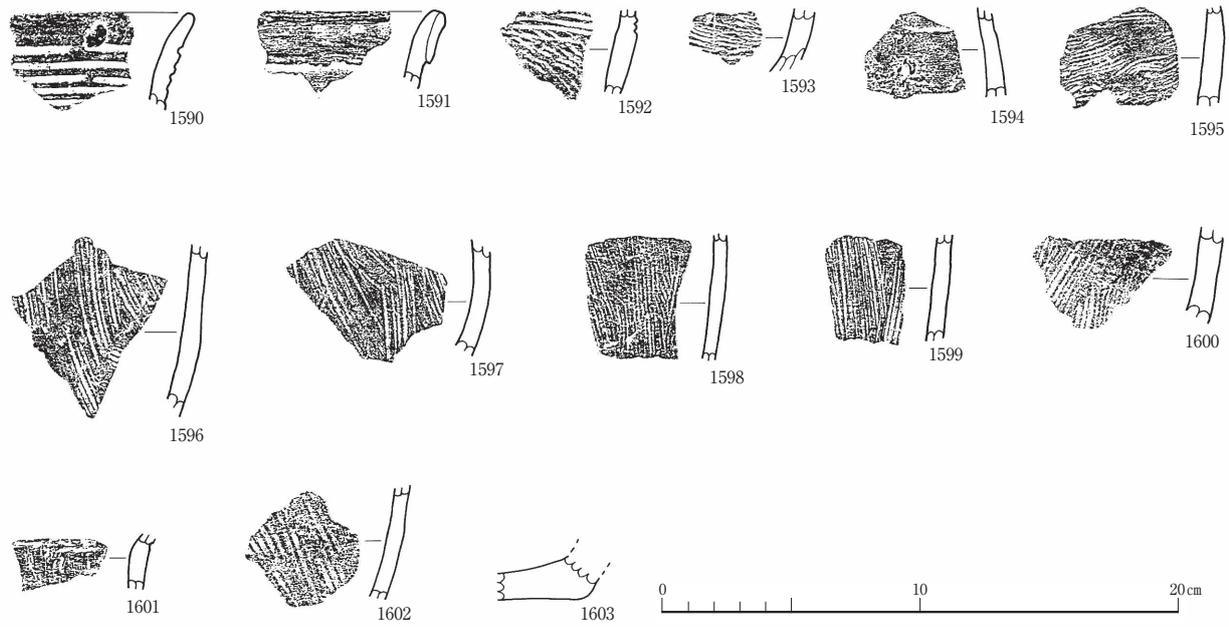


図 103 中央トレンチⅣ-3区出土土器 (2)

表 11 中央トレンチⅣ区出土土器の層位

番号	層位	1439	?	1457	表土層	1475	3層下部	1493	3層
1422	表土層	1440	3層下部	1458	?	1476	3層下部	1494	3層
1423	3層	1441	3層下部	1459	?	1477	3層	1495	3層下部
1424	3層	1442	3層	1460	3層	1478	?	1496	3層下部
1425	3層	1443	3層	1461	3層下部	1479	?	1497	3層下部
1426	?	1444	1層	1462	3層下部	1480	3層	1498	3層下部
1427	?	1445	3層	1463	3層下部	1481	4層	1499	3層
1428	4層	1446	?	1464	3層下部	1482	3層下部	1500	3層下部
1429	?	1447	3層	1465	3層下部	1483	3層	1501	3層下部
1430	3-4層	1448	攪乱層	1466	?	1484	4層	1502	3層下部
1431	?	1449	3層	1467	3層	1485	3層	1503	3層下部
1432	3層	1450	3層	1468	3層下部	1486	3層下部	1504	3層下部
1433		1451	4層	1469	3層	1487	3層下部	1505	3層
1434	?	1452	3層	1470	3層下部	1488	3層	1506	3層
1435	3層	1453	3層下部	1471	?	1489	3層下部	1507	3層
1436	3層	1454	3層	1472	3層	1490	3層下部	1508	黒色土層
1437	3層・3層下部	1455	3層下部	1473	3層	1491	3層	1509	3層下部
1438	3層	1456	?	1474	?	1492	4層	1510	3層下部

1511	3層	1530	3層下部	1549	?	1568	3層上面	1587	3層
1512	3層	1531	3層下部	1550	3層	1569	3層	1588	3層
1513	黒色土層	1532	3層下部	1551	3層	1570	3層	1589	3層
1514	3層	1533	3層下部	1552	3層上半	1571	3層上面	1590	?
1515	3層下部	1534	3層	1553	3層	1572	3層	1591	3層
1516	3層下部	1535	攪乱層	1554	?	1573	3層	1592	3層上半
1517	3層	1536	3層	1555	3層	1574	3層	1593	表土層
1518	黒色土層	1537	3層	1556	3層	1575	3層	1594	3層
1519	3層	1538	3層下部	1557	3層	1576	3層	1595	?
1520	3層下部	1539	3層	1558	攪乱層	1577	3層	1596	攪乱層
1521	3層下部	1540	3層	1559	3層	1578	3層	1597	純貝層
1522	3層下部	1541	3層	1560	3層	1579	3層	1598	3層
1523	3層	1542	4層	1561	3層	1580	3層	1599	3層
1524	3層下部	1543	3層	1562	表土層	1581	3層	1600	表土層
1525	3層下部	1544	3層	1563	3層	1582	3層	1601	3層
1526	3層	1545	3層下部	1564	3層	1583	3層	1620	3層
1527	3層	1546	3層	1565	3層上面	1584	3層	1603	3層
1528	3層下部	1547	3層	1566	3層上半	1585	3層		
1529	3層下部	1548	3層	1567	3層	1586	3層		

IV区出土土器のまとめ IV-1区出土土器は、縄文後期前半～晩期終末であり、堀之内1式が多い。IV-2区出土土器は、縄文前期～晩期終末であり、堀之内式、安行1式がやや多い。IV-3区出土土器は縄文後期前半～晩期終末であるが、これといった特徴はない。

(設楽)

7 土製品 (図104)

1 土偶 脚部。充実している。脚の部分は円形に近い楕円形であるが、脚先は台形に裾広がりになり、底面は前後に長い長楕円形をなす。したがって、安定はよく、立つ土偶である。欠失部の下には断面がかまぼこ状の隆起帯が帯状にめぐるとは及ばない。隆起帯の下端は沈線で区画され、単節LR縄文が充填される。暗褐色。

2 土製腕輪 円形のリング状をなす。断面は内側が厚く、外縁が薄くつくられ、二枚貝の貝輪を模倣したことが明らかである。褐色。砂粒が多く、調整も粗末で、粗製である。

3 土製円板 加曾利B1式の紐線文土器片を利用して周りを打ち欠き、円形の円板に仕上げようとしたもの。中央に穿孔具による円形の凹みがあるが、貫通していない。茶褐色。

4 有孔円板 円形をなす。かなり厚い感じを受ける。縁から2cm内側に径2mmほどの小さい孔が開けられている。1/4ほどの破片であり、孔の総数は不明。褐色～黒褐色。

(設楽)

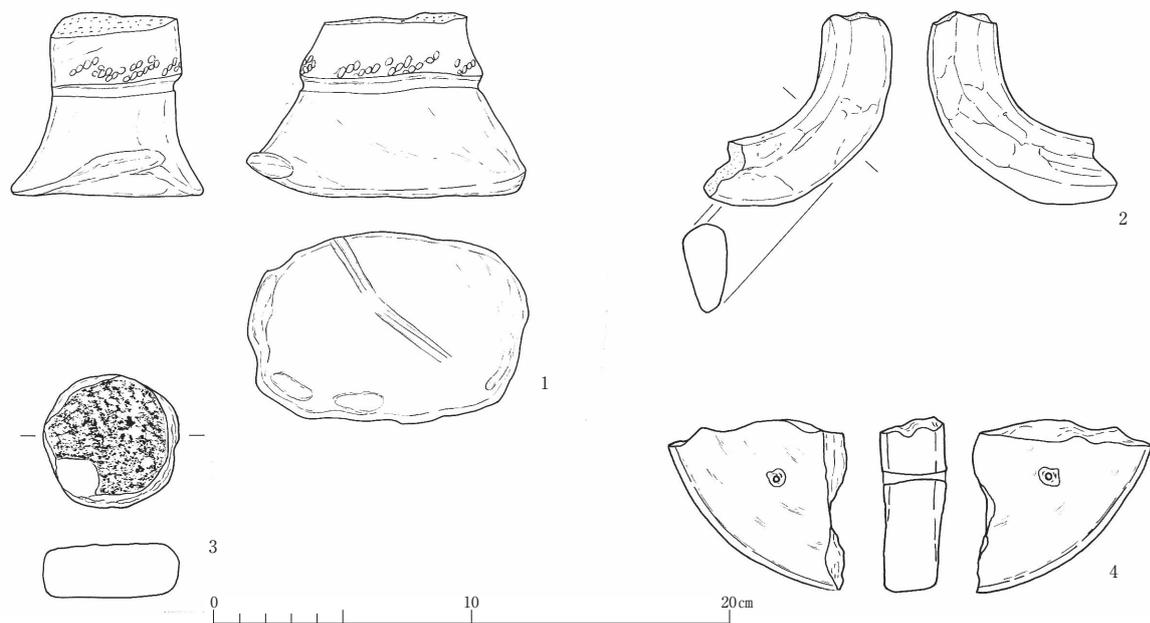


図 104 中央トレンチ出土土製品

表 12 中央トレンチ出土土製品一覧

番号	種類	出土地点	計測値 (cm)
1	土偶	I-3区黒褐色2層	縦7.2×横4.8×高さ5.0
2	土製腕輪	Ⅲ-1区	外径(8.0)×幅1.9
3	土製円板	Ⅳ-1区3層	径3.5×厚さ1.4
4	有孔円板	I-3区貝層下黒褐色土2層	径(12.0)×厚さ約1.8

8 石器・石製品・貝製品・骨角製品

(1) 石器・石製品 (図 105)

- 1は、有茎平基式の石鏃である。角岩製。
- 2は、小型柳葉形の厚手。石鏃か。玉髓製。
- 3は、チャートの剥片。
- 4は、やや細長い石の両端の角に敲击痕をもつ敲石である。打製石器を作るときのハンマーであろう。砂岩製。
- 5は、扁平な自然礫。手持ちの砥石として使ったのであろう。
- 6は、石皿の小破片。著しく焼けている。硬質の石である。
- 7は、砥石の小破片である。三面に研磨痕をのこしている。砂岩製。
- 8は、石棒の小断片である。磨製、断面は楕円形。本来は細身で長い棒状であったのであろう。

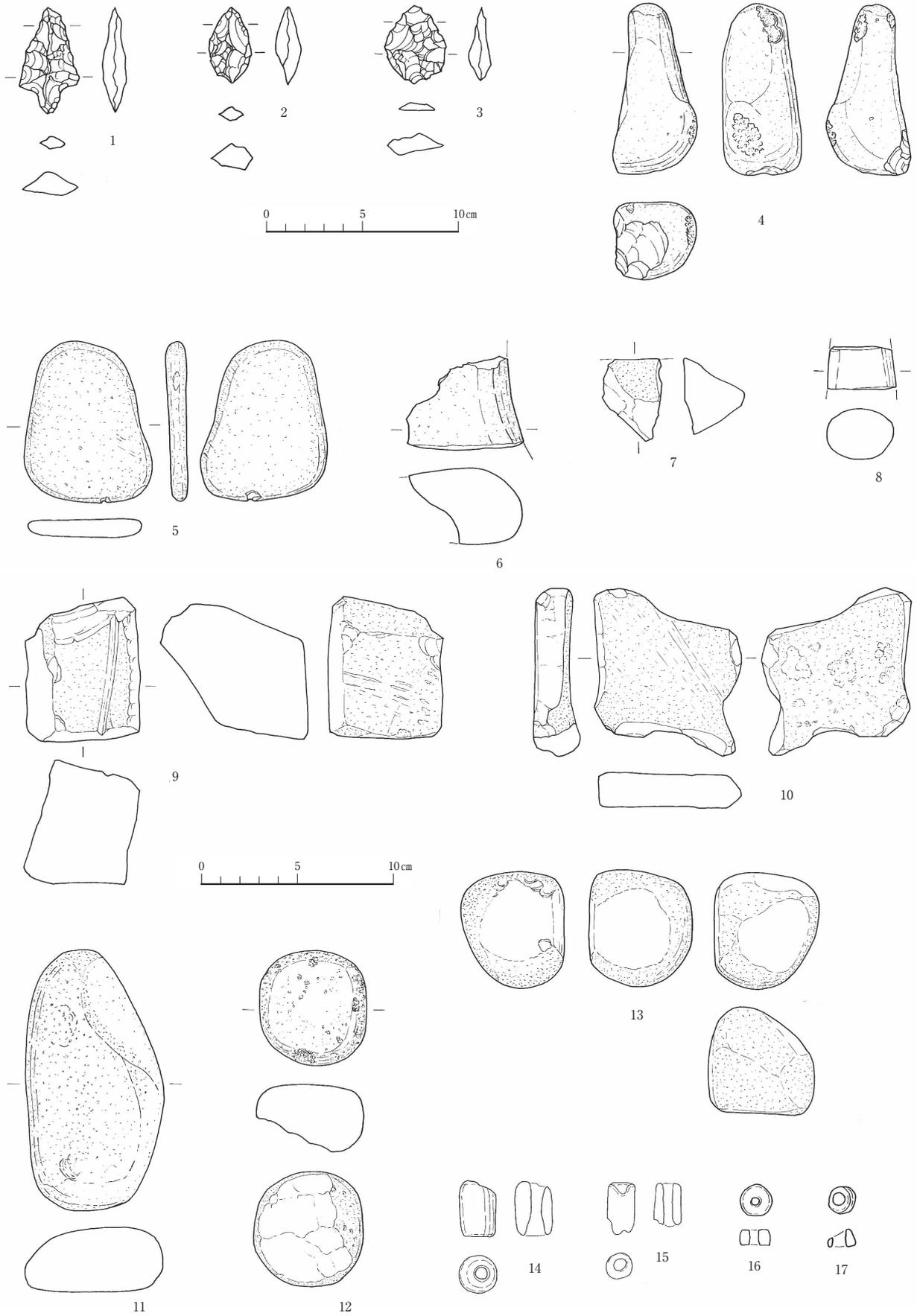


図 105 中央トレンチ出土石器・石製品

表 13 中央トレンチ出土石器・石製品一覧

番号	種類	出土地点	計測値 (cm)	石質
1	石鏃	Ⅳ-1区	2.7 × 1.45 × 0.6	角岩
2	石鏃	Ⅱ-2区 攪乱層	1.9 × 1.0 × 0.6	玉髄
3	剥片	Ⅱ-2区 北壁	1.9 × 1.5 × 0.5	チャート
4	敲石	Ⅰ-2～Ⅰ-3区中間ベルト 攪乱層	9.1 × 4.1 × 4.4	砂岩
5	扁平礫	Ⅰ-3区 4f層	8.6 × 6.7 × 1.0	砂岩
6	石皿	Ⅰ-2区 73層	5.0 × 6.5 × 4.4	流紋岩
7	砥石	Ⅱ-2区 西側ベルト混土貝層1	3.2 × 4.5 × 3.0	砂岩
8	石棒	Ⅰ-2区 13層	2.3 × 3.6	緑色岩
9	砥石	Ⅰ-3区 7b層	7.7 × 6.0 × 7.7	砂岩
10	砥石	Ⅰ-2～Ⅰ-3区中間ベルト 攪乱層	9.0 × 7.8 × 2.3	砂岩
11	敲石	Ⅰ-1区 4層	13.8 × 7.3 × 3.3	玄武岩
12	磨石	Ⅱ-1区 攪乱層	5.7 × 6.1 × 3.5	輝石安山岩
13	敲石	Ⅱ-1区 2084層	6.2 × 5.5 × 5.4	珪化岩
14	管玉	Ⅰ-2区 76層	1.5 × 0.95	蛇紋岩
15	管玉	Ⅱ-2区	1.4 × 0.7	玉髄
16	小玉	Ⅰ-2区	0.8 × 0.4	滑石
17	小玉	Ⅱ-3区 揚げ土表面	0.75 × 0.45	滑石

9は、砥石の破片である。四面に研磨痕をのこし、一面に骨角器の先端を研いだとみられる直線の溝1条、反対面には浅い溝1条をもっている。砂岩製。

10は、砥石の小破片である。板状を呈する。両面に研磨痕がある。砂岩製。

11は、扁平でやや長めの円礫の側縁と図の下端にわずかに敲き痕をもつ敲石である。硬質で重量がある。

12は、全面に研磨痕をもつ小型の磨石である。側面の一個所にわずかに敲き痕が認められる。片面は斜めに剥離している。やや多孔質であるけれども、硬質である。

13は、小型の敲石である。敲打により角がよく潰れて丸くなっている。石英質で重量のある硬質の石である。

14・15は、管玉である。14は全面緑色、蛇紋岩製。15は灰褐色の玉髄製。

16・17は、小玉である。16は暗灰緑色の滑石。

(春成)

(2) 貝製品 (図106~108)

1・2は、貝を薄く円形にした平玉と小玉である。2は二枚貝を用いている。

3と4は管玉であり、4はヤカドツノガイ製で、3もきわめて小さな管玉で、ツノガイ製と思われるが明確ではない。

5は、イモガイの殻頂部を切断して円形の孔をあけた玉である。

6~28は貝輪の未成品で、23点出土した。24がオオツタノハで、それ以外はすべてベンケイガイ製である。18のように打ち欠いて穿孔した後の処理が進んでおらずに幅が広いものから10のように幅狭く整えられつつあるものまでであるが、いずれも穿孔した後の内縁の研磨はない。打ち欠きは内面からと外面からの両者がある。孔の径は4~6cmであるので、成人の腕にはめることはできない。西村らの発掘時に出土した貝輪134点もすべて内縁は打ち欠いただけであって、未製品とみられている。

29~34は貝刃ないし貝のスクレイパーであり、ヤマトシジミ、オオノガイ、ミルクイ?と貝種のバリエーションが豊富である。

(春成)

(3) 骨角器・骨角牙製品 (図108~110)

35は、ニホンオオカミの左下顎骨である。長さ16.0cm。下顎連合部で割れ、第1・第2切歯は歯槽ごと欠損し、第3切歯と犬歯および第3臼歯は歯槽窩は残しているが歯は残存していない。特別な加工はおこなっていないけれども、関節突起の周囲が磨滅しているので、ここに紐をかけて垂下していた可能性が強い。岩手県貝鳥貝塚からはオオカミの下顎骨の吻部を削除し、下顎骨体に2孔をあけて垂飾りにした縄文後期の例が出土している(図242-4)[金子・忍澤1986]。荒海例は貝鳥例を簡略化した垂飾りとして、魔除けの用途をもっていたのであろう。

36は、鹿角製の銚頭未成品。ソケットの孔を開ける部分を斜めにそぎ落としている。おそらく燕形銚頭をつくらうとしたのであろう。

37~45は、シカの中手骨または中足骨を素材にした刺突具である。無^{あじ}鏝のヤスであろう。

46は、シカの肢骨を素材にした刺突具の破片であろう。

47・48は、イノシシの牙を利用した刺突具である。

49は、溝を加えた装飾品の一部であろうが、どのようなかたちのものか不明である。

50は、シカの中節骨を利用して装飾品にしようとした未成品であり、骨体の半分をそいでいる。

51は、シカの肢骨を加工した骨器であるが、何かは不明。

52は、シカの骨の一端を研磨して片刃を作出したヘラである。

53は、シカの右角の落角、角幹に第1枝、第2枝ともわずかに伸びているていどで2歳と推定する。心々長31.4cm(発掘時に欠損した部分を復元)。角幹の第1枝よりに2本の溝(溝の間は4.2~4.5cm)を1周させている。溝の存在は、その位置で切断するため溝を彫ったが途中でやめてしまったようにもみえる。類例は西村発掘品や荒海川表遺跡からの発掘品にあり、この溝を切断用の「擦り切り痕」と解している[西村1984:621, 山田2001b:106-110]。しかし、この鹿角は研磨痕が著しい。そして、角幹と第1枝の叉状部、第1枝の直下と角座の直上に摩耗が認められるので、第1枝の上下と角幹

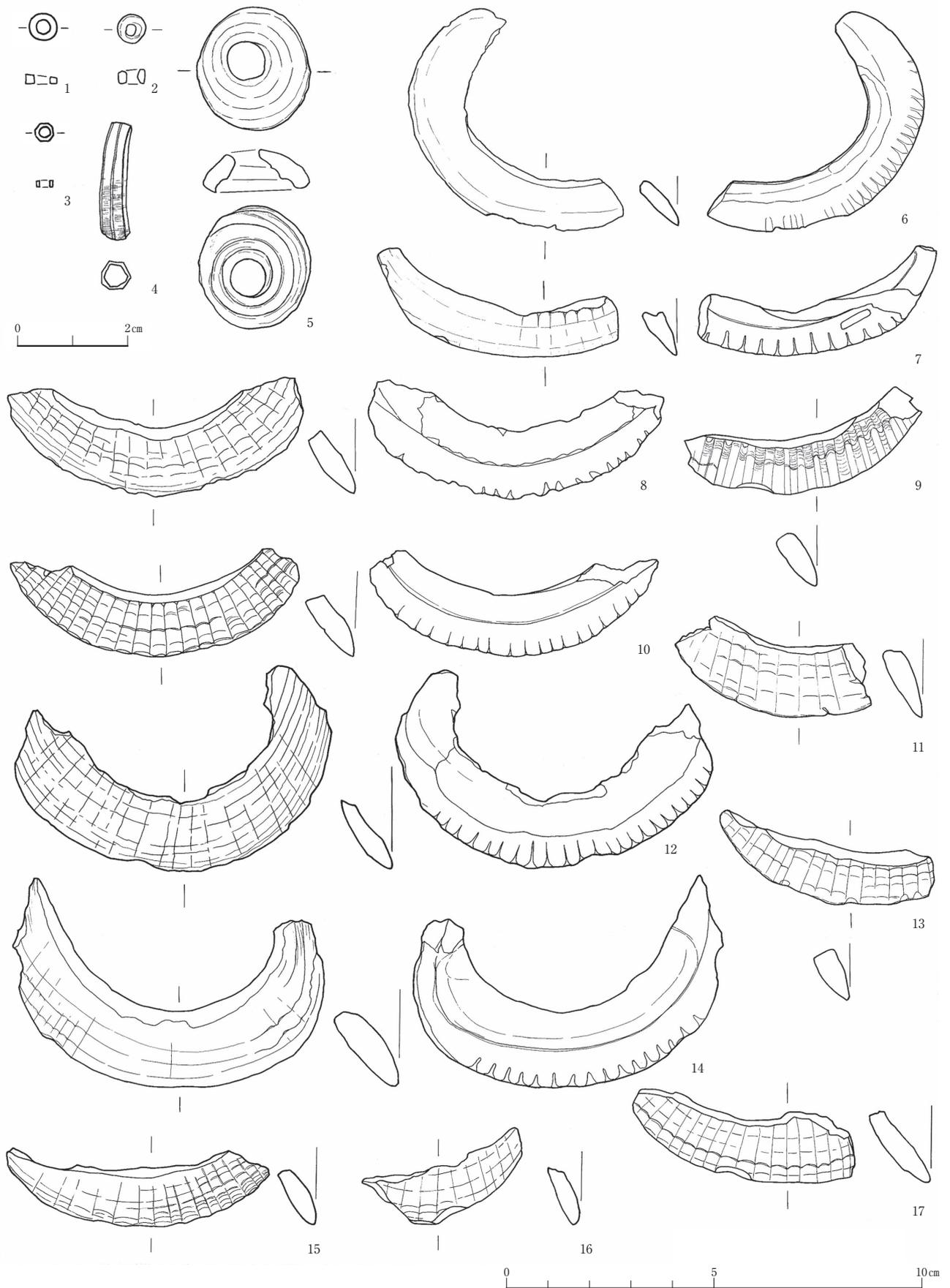


図 106 中央トレンチ出土土製品 (1)

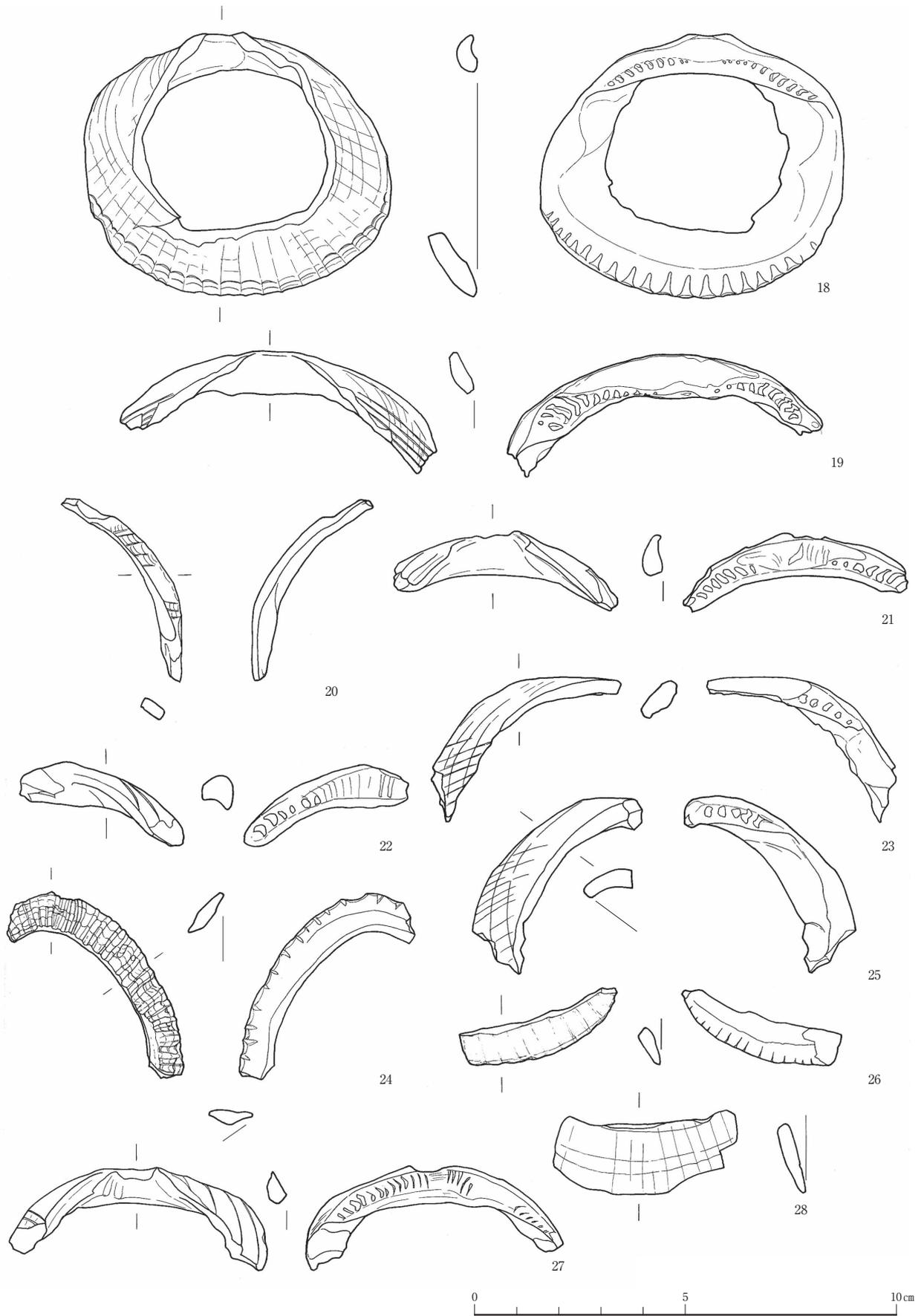


図 107 中央トレンチ出土土製品 (2)

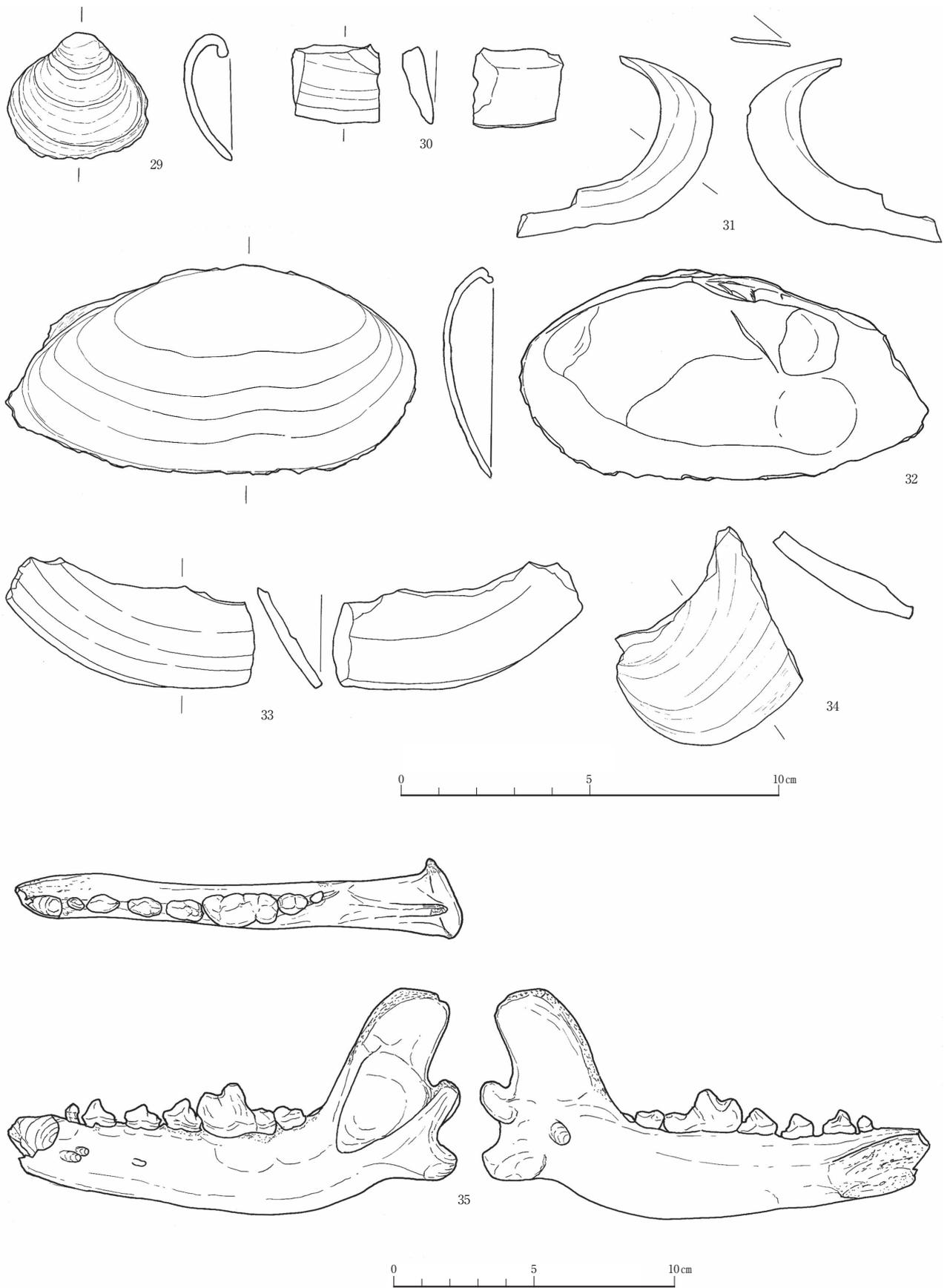


図 108 中央トレンチ出土製品 (3)・骨角器 (1)

表 14 中央トレンチ出土貝製品一覧

番号	種類	出土地点	種	最大長 (cm)
1	管玉	I-3区 褐色土層	ツノガイ?	0.2
2	平玉	I-2区 褐色土層	二枚貝	0.5
3	貝玉?	I-2区 83層	貝種不明	0.5
4	管玉	?	ヤカドツノガイ	2.1
5	貝玉	I-2区 15層	イモガイ	2.3
6	貝輪未成品	I-2区	ベンケイガイ	5.4
7	貝輪未成品	I-2区 攪乱	ベンケイガイ	5.8
8	貝輪未成品(腹縁)	Ⅲ-2区 貝層	ベンケイガイ	2.1
9	貝輪未成品(腹縁)	Ⅱ-3区 攪乱	ベンケイガイ	5.7
10	貝輪未成品(腹縁)	Ⅲ-1区 深掘り	ベンケイガイ	6.8
11	貝輪未成品(腹縁)	I-2区 攪乱	ベンケイガイ	5.4
12	貝輪未成品(腹縁)	I-1区 3014層	ベンケイガイ	7.6
13	貝輪未成品(腹縁)	I-1区 9層②	ベンケイガイ	5.2
14	貝輪未成品(腹縁)	?	ベンケイガイ	7.5
15	貝輪未成品(腹縁)	I-1区 3087層	ベンケイガイ	6.4
16	貝輪未成品(腹縁)	I-2区 93層	ベンケイガイ	3.9
17	貝輪未成品(腹縁)	I-2区 攪乱	ベンケイガイ	4.8
18	貝輪未成品	Ⅱ-1区 2037層	ベンケイガイ	7.3
19	貝輪未成品	0-1区 Cトレンチ崩落土中	ベンケイガイ	7.5
20	貝輪未成品	I-1区 Ⅻ層(11層)	ベンケイガイ	2.9
21	貝輪未成品	Ⅲ-2区 1層	ベンケイガイ	5.3
22	貝輪未成品	Ⅱ-2～Ⅱ-3区 ベルト含む	ベンケイガイ	3.8
23	貝輪未成品	Ⅱ-1区 層不明	ベンケイガイ	4.5
24	貝輪未成品	I-2区 19層	オオツタノハ	4.1
25	貝輪未成品	I-2区 110層 B-3	ベンケイガイ	4.0
26	貝輪未成品	?	ベンケイガイ	3.9
27	貝輪未成品	I-1区 3072層 B-2	ベンケイガイ	6.0
28	貝輪未成品	I-1区 9層	ベンケイガイ	4.3
29	貝刃	Ⅱ-1区 2009層	ヤマトシジミ	3.7
30	貝スクレイパー	I-2区 61層	ハマグリもしくはミルクイ	2.4
31	貝刃?	I-2区 64-a層	オオノガイR	5.3
32	貝刃?	I-2区 67-a層	オオノガイR	10.8
33	貝スクレイパー	I-1区 褐色土	ミルクイ?	6.7
34	貝スクレイパー	Ⅲ-1区 深掘り	ミルクイ?	5.8

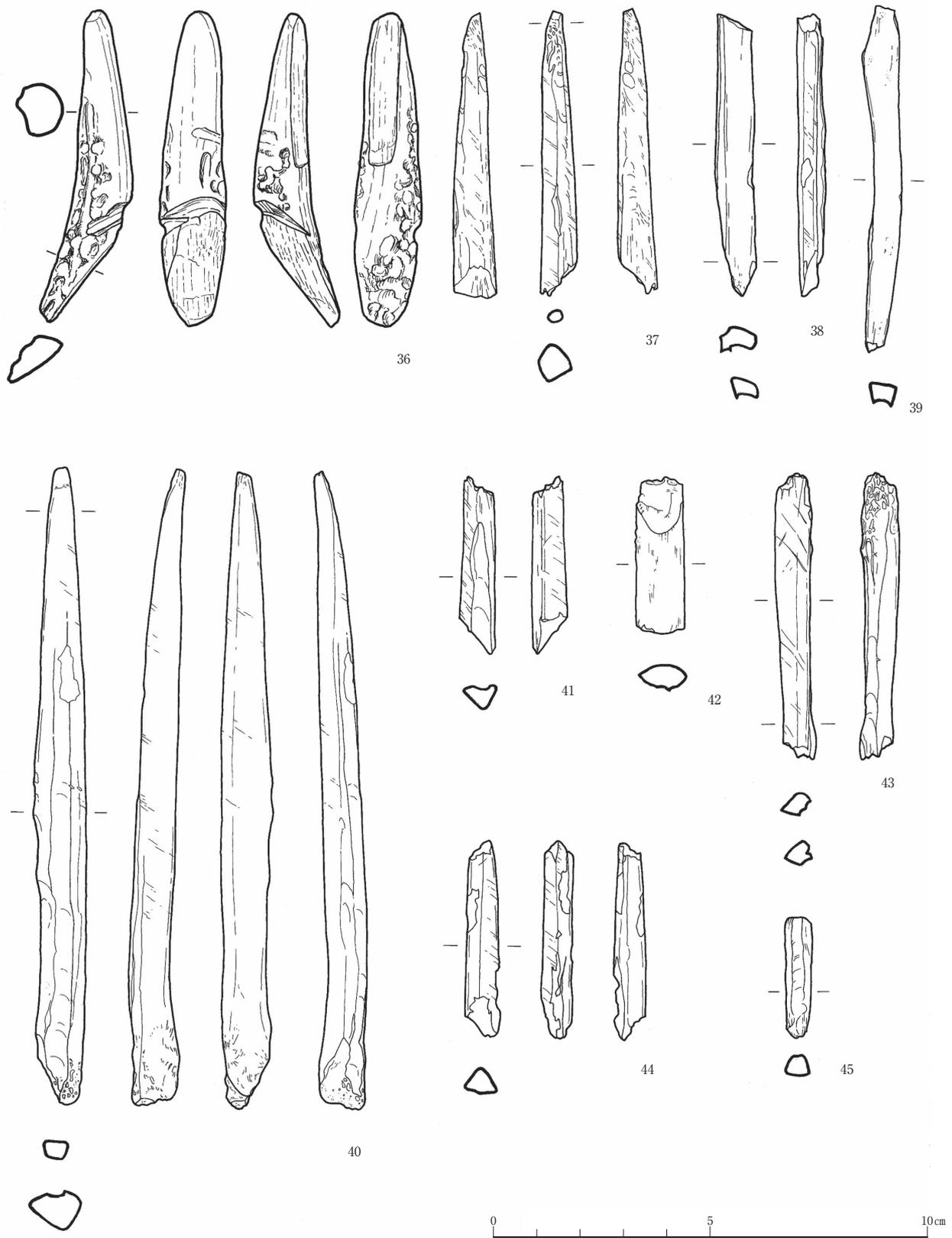


図 109 中央トレンチ出土骨角器 (2)



図 110 中央トレンチ出土骨角器 (3)

表 15 中央トレンチ出土骨角器一覧

番号	種類	出土地点	種	最大長 (cm)
35	垂飾	褐色土上面	オオカミ下顎骨	15.8
36	燕形銛頭未成品	I-3区 明褐色土	鹿角	7.3
37	刺突具	II-1区 2048層	シカ Mct.	6.7
38	刺突具	I-2区 94層	シカ Mct. 中間 f.	6.6
39	キリ?	I-3区 7b層 (7d層)	シカ Mct.	8.1
40	キリ?	I-1区 黒色土一括	シカ Mct.	14.7
41	刺突具?	I-3区 明褐色土	シカ Mct. 中間 f.	4.2
42	刺突具	I-3区 攪乱 (北側)	シカ Mct.	3.6
43	刺突具	I-2区 102層	シカ Mct. ?	6.6
44	刺突具	I-2区 攪乱	シカ Mct. 中間 f.	4.6
45	刺突具?	?	シカ LM	2.7
46	刺突具?	II-1区 2043層	シカ Mct.	13.4
47	刺突具	II-2~II-3 (ベルト含む)	イノシシ下 CR	6.8
48	刺突具	I-3区 4b層	イノシシ下 CR	4.5
49	装飾品	I-2区 褐色土層	シカ	5.0
50	装飾品未成品	I-3区 9a4層	シカ中節骨右	4.5
51	不明	II-2層 攪乱	シカ	3.8
52	ヘラ	II-2区 混土貝層 (攪乱?)	シカ	6.5
53	垂飾	I-3区 褐色土上面	鹿角	31.4

とをV字形に紐で結び角座を上にして懸垂して使用していたと考えるべきであろう。我孫子市下ヶ戸宮前遺跡からは同様に2本の溝(間隔は4mm)をもち角座を除去した完成品が出土している[石田2000:990]ので、荒海例は角座を除去することも穿孔もしていないけれども、これだけで完成品であり、C地点から出土している鹿角製の有鉤短剣を簡略化した製品であった可能性を考えたい。

以上、中央トレンチの千網式の時期の石器を整理すると、狩猟具の石鏃1または2、木工具の磨製石斧1、打製石器および磨製石器・骨角器の製作にかかわる敲石(ハンマーストーン)3、砥石3、植物質食料の加工にかかわる磨石1・石皿1、管玉2、小玉2、打製石器の製作時に生じた剥片1である。少数の石器であるが、この時期の石器の組成をкаろうじて示しているといえるだろう。管玉・小玉は貴重財であったろうが、貝層中に廃棄した状態で見つかるのも、縄文時代にはよく見かける現象である。鹿角とオオカミの下顎骨は、同じ発掘区と同じ堆積層の上面に近接して存在したことからすると、装身具の可能性と住居のような施設の入口などに架けてあった可能性の二つが考えられよう。

(春成)

9 鳥獣類遺体

(1) I-1・II-1区

分析資料はすべてピックアップ(発掘現場での目視確認・取り上げ)によって採集されたものである。同定は西本豊弘によっておこなわれた。

I-1区出土資料の同定結果を表16に示す。同定標本数(NISP)はイヌが38点(接合した資料は1点と計数)と最も多く、他にシカ21点、イノシシ8点が確認された。

イヌは3090層から集中して検出されている。部位組成をみると、欠落している部位も多いが、おおむね全身の部位がみられ、おそらくすべて同一個体と推定される。下顎骨の歯は萌出完了しているが、四肢骨の骨端の多くは未癒合で若獣である。出土状況の実測図(図40)と同定結果を照合した結果では、頭部と前肢骨、後肢骨がそれぞれある程度まとまって出土しているようであるが、解剖学的位置を保っているかは読み取りにくい。この点についてはさらに検討を要する。なお貝層下の褐色土層からも1点が得られているが、これが3090層の個体と同一のものであるかは未確認である。

シカとイノシシは、とくに貝層下の褐色土層からまとまった数の遺体が出土しており、貝層中からも散発的に出土しているが、3090層からの出土は少なく、イヌとは層位的な分布傾向が異なる。両種ともに部位組成などに特殊な傾向はみられないようである。

II-1区についてはイノシシ・シカの顎骨データのみを表17に示した。

表16 中央トレンチI-1区出土鳥獣類遺体の同定結果

区	層位	取り上げNo.	連番	種類	部位	残存位置	左右	数	備考
I-1	3069	B3		シカ	上腕骨			1	
I-1	3072	B1		シカ	踵骨			1	
I-1	3076	B1		シカ	寛骨			1	
I-1	3083	-		イノシシ	下顎P4		R	1	
I-1	3085	B2		シカ	上腕骨			1	
I-1	3088	B1		シカ/イノシシ	肋骨		?	1	
I-1	3088	B2		シカ/イノシシ	頭蓋骨			1	
I-1	3088	B3		シカ	角		?	1	焼
I-1	3088	B4		シカ/イノシシ	肋骨		?	1	
I-1	3088	B5		イノシシ	切歯骨		?	1	
I-1	3088	一括		イヌ	末節骨		?	1	
I-1	3089	B3		シカ	頸椎			1	
I-1	3090	B0	141	シカ	頸椎			1	

I-1	3090	B1		イヌ	肋骨		?	1	
I-1	3090	B2		イヌ	中足骨		L	1	
I-1	3090	B3		イヌ	下顎骨		R	1	
I-1	3090	B4		不明	基節骨			1	
I-1	3090	B5		イヌ	肋骨		?	1	
I-1	3090	B6		イヌ	肋骨		L	1	
I-1	3090	B7		イヌ	肋骨		L	1	
I-1	3090	B9		イヌ	腓骨			1	
I-1	3090	B10		イヌ	踵骨			1	
I-1	3090	B11		イヌ	寛骨		L	1	
I-1	3090	B12		イヌ	寛骨		L	<1>	B11 と接合
I-1	3090	B13		イヌ	中足骨		R	1	
I-1	3090	B14		イヌ	大腿骨		L	1	
I-1	3090	B15		イヌ	中足骨		R	<1>	B13 と接合
I-1	3090	B17		イヌ	尺骨		L	1	
I-1	3090	B18		イヌ	橈骨		L	1	関節未癒合脱落
I-1	3090	B20		シカ	脛骨	近位端	*	1	
I-1	3090	B21		イヌ	中足骨		R	1	
I-1	3090	B22		イヌ	中足骨		R	1	
I-1	3090	B24		イヌ	椎骨			1	
I-1	3090	B25		イヌ	肋骨		?	1	
I-1	3090	B26		イヌ	大腿骨		L	<1>	B14 と接合
I-1	3090	B28		イヌ	椎骨			1	
I-1	3090	B30		イヌ	肋骨		?	1	
I-1	3090	B31		イヌ	下顎骨		L	1	
I-1	3090	B35		イヌ	脛骨		L	1	
I-1	3090	B38		イヌ	上腕骨		L	1	関節未癒合脱落
I-1	3090	B40		イヌ	上腕骨		R	1	関節未癒合脱落
I-1	3090	B41		イヌ	肋骨			1	
I-1	3090	B42		イヌ	椎骨			1	
I-1	3090	B43		イヌ	椎骨			1	
I-1	3090	B44		イヌ	肋骨			1	
I-1	3090	B45		不明	椎骨			1	

I-1	3090	B46		イヌ	肋骨			1	
I-1	3090	B47		イヌ	肋骨			1	
I-1	3090	B49		イヌ	肋骨			1	
I-1	3090	B50		イヌ	肋骨			<1>	B46 と接合
I-1	3090	B52		イヌ	踵骨			1	
I-1	3090	B53		イヌ	中足骨		L	1	
I-1	3090	B55		イヌ	肋骨			<1>	B49 と接合
I-1	3090	B56		イヌ	肋骨			1	
I-1	3090	B57		イヌ	肋骨			1	
I-1	3090	B58		イヌ	下顎骨		R	<1>	B3 と接合
I-1	3090	B59		イヌ	大腿骨		L	<1>	B14 と接合
I-1	3090	B60		不明	椎骨			1	
I-1	3090	B63		イヌ	肋骨			<1>	B46 と接合
I-1	3090	B65		イヌ	肋骨			1	
I-1	3090	B68		イヌ	肋骨			<1>	B49 と接合
I-1	3090	B69		不明	椎骨			<1>	B45 と接合
I-1	3090	B70		イヌ	脛骨		L	1	
I-1	3090	B101	142	シカ	大腿骨	近位端	*	1	成獣
I-1	3090	B102	140	シカ	上腕骨	近位端	L	1	
I-1	-	-		イノシシ	上腕骨	遠位端	L	1	
I-1	-	B5		イノシシ	切歯骨		L	1	
I-1	褐色土1	B3		イノシシ	肩甲骨		L	2	
I-1	褐色土1	B4		シカ	脛骨	遠位端	L	1	成獣
I-1	褐色土1	B7		シカ	大腿骨	近位端	L	1	
I-1	褐色土1	B8		シカ	距骨		L	1	
I-1	褐色土1	B9		イノシシ?	胸椎			1	
I-1	褐色土1	B10		シカ	上腕骨	遠位端		1	
I-1	褐色土1	B12		イヌ	肩甲骨			1	若獣
I-1	褐色土1	B13		シカ	頭蓋骨			1	
I-1	褐色土1	B14		シカ/イノシシ?	大腿骨	遠位端		1	
I-1	褐色土1	B17・21		シカ	頸椎			1	
I-1	褐色土1	B18		シカ	頸椎			1	
I-1	褐色土1	B19		シカ	橈骨	遠位端	L	1	成獣

I-1	褐色土1	B21		シカ	頸椎			1	
I-1	褐色土1	B25		シカ	上顎骨			1	成獣
I-1	褐色土1	B26		シカ	上顎骨		L	1	成獣
I-1	褐色土1	B27		イノシシ	末節骨			1	

表 17 中央トレンチⅡ-1区出土イノシシ・シカの顎骨・歯の詳細

* 残存位置凡例：() 顎骨残存範囲. x 脱落歯.

種類	部位	地区	層	取り上げNo.	左右	残存位置*	備考	年齢
イノシシ	下顎	Ⅱ-1	-	B-4	R	(Cx P1x P2 P3 P4 M1)	♀	成獣
シカ	下顎	Ⅱ-1	2077?	B-1	L	(M3)	第3咬頭摩滅	成獣
		Ⅱ-1	-	B-7	R	(M3)	♀?	成獣?

(2) I-2・I-3区

分析資料はすべてピックアップ(発掘現場での目視確認・取り上げ)によって採集されたものである。同定は西本豊弘によっておこなわれた。

同定結果を表18～表20に示す。同定標本数(NISP)はシカが219点で最も多く、イノシシが61点でこれに次ぐ。他に鳥類尺骨(詳細な同定は未了)、タヌキ下顎骨、オオカミ下顎骨、イルカ椎骨が各1点確認されている(図111)。

貝層中における層位的分布傾向をみると、比較的多くの遺体を産出した層準として、4b層、7b層、7e層、61層、115層、117層、122層、1013層、1541層、1548層、1549層、1552層などが挙げられる。これをKラインでの貝層断面図(図54・63)と照合すると、貝層上半部の4b層、7b層、61層などと下部の115層、1552層などに分かれており、これらの中間の層準からの出土数は少ない。このことから、獣骨は貝層中に均質に分布しているのではなく、特定の層準で集中的に出土する傾向にあることがわかる。またI-2区・I-3区ともに貝層下褐色土層からも多くの遺体が出土しており、これはI-1区から続く一連の状況と考えられる。

シカ・イノシシの部位組成は、両種ともに全身の部位がみられ、とくに偏りはみられないようである。まとまった遺体が産出した層準について、出土状況の実測図(図62～65)と同定結果を照合した結果でも特殊な産状は認められなかった。また両種ともに骨の多くが破損しており、スパイラルフラクチャーが普通にみられた。

シカ・イノシシの年齢構成について、Ⅱ-1区・Ⅱ-2区出土資料(表17・表21)も含めた全ての顎骨データに基づいてみると、シカは成獣が多いが幼獣(乳歯を残す個体)も若干混じる。イノシシは成獣が主体で、幼獣は確認されていない。

本遺跡におけるシカ：イノシシの比率(I-1～I-3区合計、NISP比)はシカが78%(シカ：イノシシ=240:69)で、本遺跡に近い荒海川表遺跡のシカ80%(シカ：イノシシ=557:143)[山田

表 18 中央トレンチ I-2・I-3 区出土鳥獣類遺体の同定結果

区	層位	取り上げ No.	連番	種類	部位	残存位置	左右	数	備考	
I-2	13	B1		シカ	基節骨			1		
I-2	14	B3		シカ	下顎 M3?		L	1		
I-2	14	B7		シカ	下顎 M1		L	1		
I-2	14	B6		シカ	距骨		L	1		
I-2	19	B1		シカ	中手骨			1		
I-2	19	B2		シカ	脛骨	遠位端	L	1	成獣	
I-2	22	a	B1	シカ	中足骨			1		
I-2	29		B2・3	シカ	中足骨			1		
I-2	32		B1	シカ	上顎 M1		R	1		
I-2	39		B1	シカ	中足骨			1		
I-2	41		B5	シカ	中節骨			1		
I-2	44		B1	シカ	中節骨	遠位端		1		
I-2	46		B1・3	シカ	中足骨			1		
I-2	51		B1	シカ	腰椎			1		
I-2	58		B1	シカ	中手骨	近位端	L	1		
I-2	61		B1	40	シカ	下顎骨	L	1		
I-2	61		B2	41	シカ	脛骨	近位端	L	1	
I-2	61		B3	42	シカ	中足骨	近位端	L	1	
I-2	61		B5		シカ	歯		1		
I-2	61		B9	8	イノシシ	踵骨	近位端	L	1	焼
I-2	64	c	B1	43	シカ	歯		1		
I-2	65		B3	44	シカ	上腕骨	L	1		
I-2	70		B1	45	シカ	中足骨	近位端	L	1	
I-2	70		B7		シカ	中足骨	遠位端	R	1	
I-2	72		B2		シカ	橈骨	遠位端	L	1	
I-2	73		B1a		シカ	肩甲骨	遠位端	R	1	焼
I-2	74		B1	46	シカ	大腿骨	近位端	L	1	
I-2	75		B2	9	イノシシ	歯		1		
I-2	76		B1	47	シカ	中節骨	近位端	1		
I-2	76		B3		シカ	基節骨	遠位端	1		
I-2	78		B1	10	イノシシ	大腿骨	近位端	R	1	成獣. 焼
I-2	85		B1	48	シカ	中手骨	近位端	L	1	

I-2	89		-		シカ	橈骨	近位端	L	1	焼
I-2	92		-		シカ	脛骨	遠位端	L	1	
I-2	93		B4	49	シカ	基節骨	近位端		1	幼獣
I-2	94		一括		シカ	基節骨			1	
I-2	100		B5	50	シカ	上腕骨	遠位端	R	1	
I-2	105		B1	51	シカ	足根骨?			1	
I-2	105		B2	52	シカ	足根骨			1	
I-2	105		B7	53	シカ	中節骨	近位端		1	
I-2	106		B14	54	シカ	脛骨	近位端	L	1	幼獣
I-2	106		B17	55	シカ	末節骨			1	
I-2	107		B6		イノシシ	橈骨		R	1	
I-2	110		B1		シカ	上腕骨	骨幹	R	1	
I-2	110		B6		シカ	中手骨			1	
I-2	112		B9	11	イノシシ	尺骨	骨幹	R	1	
I-2	113		B7	12	イノシシ	基節骨			1	
I-2	113		B9	13	シカ	角			1	
I-2	114		B2		シカ	距骨		L	1	
I-2	115		B1	134	シカ	脛骨	遠位端	R	1	成獣
I-2	115		B2	135	シカ	踵骨		R	1	成獣
I-2	115		B3	56	シカ	距骨		R	1	
I-2	115		B4	57	シカ	距骨		L	1	
I-2	115		B5	58	シカ	踵骨	遠位端	R	1	
I-2	115		B6	59	シカ	上顎骨	表20参照	L	1	成獣
I-2	115		B6	59	シカ	上顎骨	表20参照	R	1	Lと同一個体
I-2	115		B6	59	シカ	大腿骨	遠位端	L	1	
I-2	116		B3	60	シカ	踵骨		R	1	成獣
I-2	116		B5	61	シカ	腰椎			1	
I-2	116		B12	14	イノシシ	歯			1	
I-2	117		B1	62	シカ	上腕骨	遠位端	R	1	成獣
I-2	117		B2	63	シカ	寛骨		L	1	成獣
I-2	117		B3		シカ	下顎骨	表20参照	R	1	

I-2	117		B4	15	イノシシ	橈骨	近位端	R	1	成獣
I-2	117		B5	64	シカ	腰椎			2	
I-2	117		B6	133	シカ	頸椎			1	
I-2	117		B8	16	イノシシ	橈骨	近位端	R	1	成獣
I-2	117		B10	17	イノシシ	頸椎			1	
I-2	117		一括		イノシシ	下顎骨	-	L	1	
I-2	119		B2		シカ	上顎 M3		R	1	
I-2	120		B1	65	シカ	距骨		L	1	
I-2	121		B8		シカ	大腿骨	近位端	L	1	成獣
I-2	121		B11		イノシシ	上顎骨	表 19 参照	R	1	
I-2	122		B11		シカ	中手骨	骨幹	L	1	
I-2	122		B12	19	イノシシ	環椎			1	
I-2	122		B13	121	シカ	下顎骨	表 20 参照	R	1	成獣
I-2	122		B15	66	シカ	脛骨	遠位端	L	1	
I-2	122		B15	66	シカ	中足骨	近位端	L	1	
I-2	122		B16	67	シカ	橈骨	近位端	R	1	成獣
I-2	122		B20	18	イノシシ	下顎骨	表 19 参照	R	1	成獣
I-2	123		B1	183	シカ	上顎骨	表 20 参照	R	1	
I-2	123		B2	184	シカ	腰椎			1	
I-2	124		B4	79	シカ	脛骨	骨幹	L	1	
I-2	124		B5	80	シカ	角			1	
I-2	124		B7	82	シカ	上腕骨	遠位端	R	1	
I-2	126		B2	68	シカ	脛骨	骨幹	L	1	
I-2	126		B3	69	シカ	脛骨	近位端	R	1	成獣
I-2	126		B4	159	シカ	中手骨	遠位端	?	1	成獣
I-2	126		B8		シカ	基節骨			1	
I-2	褐色土上		B3	20	イノシシ	大腿骨	遠位端	L	1	成獣. 病変
I-2	褐色土上		B2	156	シカ	軸椎			1	成獣
I-2	褐色土上		B2	156	シカ	中足骨	近位端	R	1	
I-2	褐色土上		B2	156	シカ	足根骨		L	1	
I-2	褐色土上		B5		シカ	末節骨			1	

I-2	褐色土上		B127		シカ	中足骨		?	1	
I-2	褐色土上面		-		シカ	下顎骨	表20参照	L	1	
I-2	褐色土中		B1		シカ	踵骨		R	1	
I-2	褐色土中		B3		シカ	中足骨	近位端	R	1	
I-2	褐色土中		B5	21	イノシシ	橈骨	近位端	L	1	
I-2	褐色土中		B8・9		シカ	寛骨	骨幹	R	1	
I-2	褐色土中		B13		シカ	距骨		L	1	
I-2	褐色土中		一括		イノシシ	歯			1	
I-2	褐色土2層		B1	163	シカ	踵骨		R	1	成獣
I-2	褐色土2層		B3	164	シカ	橈骨	遠位端	L	1	成獣
I-2	褐色土2層		一括		シカ	上腕骨	遠位端	L	1	
I-2	褐色土2層		一括		シカ	角			1	
I-2	褐色土		B2		イルカ	椎骨			1	
I-2	褐色土		-		イノシシ	上顎M1		L	1	
I-3	4	b	B2		シカ	下顎骨	表20参照	R	1	
I-3	4	b	B5		シカ	足根骨		L	1	
I-3	4	b	B8		シカ	踵骨		L	1	
I-3	4	b	B11		イノシシ	切歯骨		?	1	
I-3	4	b	一括		シカ	中足骨	近位端	R	1	
I-3	4	b	一括		シカ	手根骨		R	1	
I-3	4	c	一括		シカ	末節骨			1	
I-3	4	d	B1		シカ	橈骨	近位端	L	1	
I-3	4	d	B4		シカ	大腿骨	遠位端	L	1	
I-3	4	d	B7		シカ	中手骨	骨幹	?	1	
I-3	4	d	B8		シカ	頸椎			1	
I-3	4	e	B2		シカ	距骨		L	1	
I-3	4	e	B3		イノシシ	距骨		L	1	
I-3	4	e	一括		シカ	中足骨	骨幹	?	1	
I-3	4	f	B2		イノシシ	上腕骨	遠位端	L	1	
I-3	4	f	B3		シカ	橈骨	近位端	L	1	
I-3	4	f	一括		イノシシ	切歯骨		R	1	

I-3	4	f	一括	イノシシ	切歯骨			1	
I-3	5	a2	B1	シカ	中足骨		L	1	
I-3	5	a2	一括	シカ	基節骨	近位端		1	
I-3	5	b5	B1	シカ	中手骨		?	1	
I-3	5	b5	B1	シカ	中手骨		L	1	
I-3	5	b5	B3	イノシシ	軸椎			1	
I-3	5	b8	B1	シカ	下顎骨	表 20 参照	L	1	
I-3	5	c	-	イノシシ	切歯骨			1	
I-3	5	d1	-	シカ	中足骨	骨幹	?	1	
I-3	5	d2	B1	シカ	下顎 M3		L	1	
I-3	6	a	B1	シカ	基節骨	近位端		1	
I-3	6	a	B3	シカ	肩甲骨	骨幹	R	1	
I-3	7	b	B2	シカ	中手骨	骨幹	?	1	
I-3	7	b	B3	シカ	肩甲骨	骨幹	L	1	
I-3	7	b	B4	イノシシ	尺骨		R	1	
I-3	7	b	B5	シカ	下顎骨	-	R	1	
I-3	7	b	B6	シカ	踵骨		L	1	
I-3	7	b	B7	シカ	中節骨	近位端		1	
I-3	7	b	B10	シカ	下顎骨	表 20 参照	L	1	
I-3	7	b	B12	シカ	尺骨		L	1	
I-3	7	b	B13	シカ	寛骨		L	1	
I-3	7	b	B17	イノシシ	中足骨	遠位端	?	1	
I-3	7	d	B2	シカ	大腿骨	遠位端	L	1	幼獣
I-3	7	d	B4	イノシシ	環椎			1	
I-3	7	d	B5	シカ	大腿骨	遠位端	L	1	
I-3	7	d5	B5	シカ	大腿骨	近位端	L	1	成獣
I-3	7	d5	B7	シカ	腰椎			1	
I-3	7	e	B1	シカ	基節骨			1	
I-3	7	e	B2	シカ	橈骨	近位端	R	1	
I-3	7	e	B3	シカ	中手骨	近位端	L	1	
I-3	7	e	B4	シカ	下顎骨	表 20 参照	L	1	

I-3	7	e	B5		シカ	脛骨	遠位端	L	1	
I-3	9	a4	B1		シカ	中節骨			1	
I-3	9	f	一括		シカ	下顎骨	-	L	1	
I-3	9	g	B1		シカ	距骨		L	1	
I-3	10		B1		イノシシ	胸椎			1	
I-3	10		B2		イノシシ	下顎骨	表19参照	R	1	
I-3	10		B5		イノシシ	基節骨			1	
I-3	1008		B1		イノシシ	切歯骨			1	
I-3	1008		B2	70	シカ	切歯骨		?	1	
I-3	1009		B1	71	シカ	切歯骨		?	1	
I-3	1010		一括		シカ	中節骨	近位端		1	
I-3	1011		B2	22	イノシシ	大腿骨	近位端	L	1	成獣
I-3	1011		一括		イノシシ	中節骨			1	
I-3	1011		一括		シカ	切歯骨		?	1	
I-3	1012		B1・7	72	シカ	上腕骨	遠位端	R	1	
I-3	1012		B3	23	イノシシ	肩甲骨	骨幹	R	1	
I-3	1012		B6	24	イノシシ	脛骨	遠位端	L	1	幼獣
I-3	1013		B1	73	シカ	頸椎			1	
I-3	1013		B2	74	シカ	橈骨	遠位端	R	1	成獣
I-3	1013		B4	25	イノシシ	基節骨			1	
I-3	1013		B7	75	シカ	中手骨	遠位端	R	1	
I-3	1013		B15	76	シカ	大腿骨	近位端	L	1	骨端未癒合
I-3	1502		B1	26	イノシシ	上腕骨	骨幹	L	1	
I-3	1513		B1	77	シカ	末節骨			1	
I-3	1513		B3	78	シカ	橈骨	遠位端	L	1	成獣
I-3	1513		B4	79	シカ	脛骨	骨幹	R	1	
I-3	1513		B8	80	シカ	距骨		R	1	
I-3	1516		B1	81	シカ	寛骨		R	1	
I-3	1521		B2		シカ	上顎骨	表20参照	R	1	
I-3	1521		B4	27	イノシシ	大腿骨	骨幹	R	1	
I-3	1521		B5	28	イノシシ	距骨		L	1	

I-3	1523		B1	82	シカ	尺骨	遠位端	R	1	
I-3	1526		B1	29	イノシシ	足根骨		R	1	
I-3	1530		B1		シカ	橈骨	遠位端	R	1	成獣
I-3	1530		B4	123	シカ	中足骨	骨幹	?	1	
I-3	1532		B1	83	シカ	切歯骨			1	
I-3	1532		B1		シカ	上顎 M1		R	1	
I-3	1535		一括		シカ	中節骨			1	
I-3	1536		B3		シカ	脛骨	骨幹	L	1	
I-3	1541		B2	84	シカ	角			1	焼
I-3	1541		B3	30	イノシシ	切歯骨			1	
I-3	1541		B5	31	イノシシ	切歯骨			1	
I-3	1541		B6	85	シカ	上顎骨	-	R	1	焼
I-3	1541		B7	86	シカ	尺骨	骨幹	R	1	
I-3	1548		B1	87	シカ	軸椎			1	成獣
I-3	1548		B3	88	シカ	軸椎			1	成獣
I-3	1548		B6・7・11	89	シカ	頸椎			1	
I-3	1548		B13	148	シカ	頸椎			1	
I-3	1548		B14	90	シカ	寛骨	腸骨	R	1	
I-3	1548		B16		シカ	頸椎			2	
I-3	1549		B5	91	シカ	基節骨	近位端		1	
I-3	1549		B7	131	シカ	頭蓋骨			1	
I-3	1549		B11	92	シカ	橈骨	近位端	L	1	成獣
I-3	1549		B11	145	シカ	尺骨		?	1	
I-3	1549		B12	93	シカ	尺骨	近位端	L	1	成獣
I-3	1551		B2	129	シカ	寛骨		L	1	成獣
I-3	1551		B6	167	シカ	脛骨	骨幹	R	1	
I-3	1552		B1	94	シカ	橈骨	近位端	L	1	
I-3	1552		B2・4	130	シカ	軸椎			1	成獣
I-3	1552		B5		シカ	大腿骨	近位端	R	1	
I-3	1552		B7	95	シカ	頸椎			1	
I-3	1552		B8	96	シカ	頸椎			<1>	B7と接合

I-3	1552	Bx		シカ	頸椎			2	
I-3	1553	B1	97	シカ	足根骨		R	1	
I-3	1553	B4		シカ	切歯骨			1	
I-3	1555	B1	98	シカ	角			1	
I-3	1555	B2	99	シカ	橈骨	遠位端	R	1	成獣
I-3	1555	B4・7	100	シカ	胸椎			1	
I-3	1558	B2		シカ	胸椎			1	
I-3	1559	B2	101	シカ	頭蓋骨			1	
I-3	1559	B4	102	シカ	脛骨	遠位端	R	1	成獣
I-3	1560	-		イノシシ	切歯骨			1	
I-3	1560	B3		イノシシ	上顎骨	表19参照	L	1	
I-3	1560	B3		イノシシ	上顎骨	表19参照	R	1	Lと同一個体
I-3	1560	B4	32	イノシシ	上顎骨	-	L	1	
I-3	1563	B3	103	シカ	腰椎			1	
I-3	1564	B2		シカ	尺骨	骨幹	L	1	
I-3	1566	B1	33	イノシシ	寛骨	寛臼	L	1	
I-3	1566	B2	104	シカ	下顎骨	-	L	1	
I-3	1567	B1	176	シカ	寛骨		L	1	
I-3	1567	B2	177	シカ	脛骨	骨幹	R	1	
I-3	1568	B1		鳥類未同定	尺骨		*	1	
I-3	1569	B1	126	シカ	胸椎			1	
I-3	1569	B2	105	シカ	橈骨	遠位端	R	1	成獣
I-3	1571	B2		シカ	末節骨			1	
I-3	1576	B1	178	シカ	上腕骨	遠位端	R	1	
I-3	1582	B1	125	シカ	仙骨			1	
I-3	1586	B1	106	シカ	腰椎			1	
I-3	1598	B1	34	イノシシ	寛骨	寛臼	R	1	
I-3	1598	B2	107	シカ	寛骨	腸骨	L	1	
I-3	1599	一括		イノシシ	中節骨			1	
I-3	1602	B1	108	シカ	足根骨		R	1	
I-3	-	B3		イノシシ	距骨		L	1	
I-3	-	B4		イノシシ	尺骨	骨幹	R	1	

I-3	?	B4		タヌキ	下顎骨		R	1	
I-3	褐色土上面	B33	39	オオカミ	下顎骨		L	1	
I-3	褐色土上	B9	35	イノシシ	頸椎			1	
I-3	褐色土上	B10	109	シカ	中手骨	近位端	R	1	成獣
I-3	褐色土上	B11	115	シカ	寛骨	寛臼	L	1	成獣
I-3	褐色土上	B12	110	シカ	中手骨	近位端		<1>	成獣. B10と接合
I-3	褐色土上	B15	111	シカ	中節骨			1	
I-3	褐色土上	B16	112	シカ	中節骨			1	
I-3	褐色土上	B18	113	シカ	肩甲骨		R	1	成獣
I-3	褐色土上	B20	114	シカ	寛骨	寛臼	R	1	成獣
I-3	褐色土上	B21	36	イノシシ	上腕骨	遠位端	R	1	成獣
I-3	褐色土上	B25	151	シカ	末節骨			1	
I-3	褐色土上	B28	118	シカ	腰椎			1	
I-3	褐色土上	B29		イノシシ	下顎骨	表19参照	L	1	亜成獣
I-3	褐色土上	B29	37	イノシシ	下顎骨	表19参照	R	1	成獣
I-3	褐色土上	B30	38	イノシシ	肩甲骨	遠位端	L	1	成獣
I-3	褐色土上	B31	117	シカ	中足骨	近位端	L	1	成獣
I-3	褐色土上	B32		イノシシ	上顎骨	-	L	1	幼獣
I-3	褐色土上	B35	116	シカ	寛骨	寛臼	L	1	成獣
I-3	褐色土上	B36	119	シカ	腰椎			1	
I-3	褐色土上	B37	120	シカ	頸椎			1	成獣
I-3	褐色土2層	B2	150	イノシシ	軸椎			1	
I-3	褐色土2層	B12		シカ	切歯			2	
I-3	褐色土2層	B12		シカ	上顎 M3	表20参照	R	1	
I-3	褐色土中	B1		シカ	中手骨	近位端	R	1	
I-3	褐色土中	B2	171	シカ	環椎			1	
I-3	褐色土中	B11		シカ	切歯			3	
I-3	褐色土中	一括		シカ	基節骨	遠位端		1	
I-3	褐色土中	一括		シカ	中節骨			1	
I-3	褐色土中	一括		イノシシ	中節骨			1	
I-3	褐色土中	一括		イノシシ	切歯			2	
I-3	明褐色土	B31		シカ	下顎骨	表20参照	L	1	

表 19 中央トレンチ I-2・I-3 区出土イノシシの顎骨・歯の詳細

* 残存位置凡例： () 顎骨残存範囲. x 脱落歯.

部位	地区	層	取り上げ No.	左右	残存位置*	備考	年齢
上顎	I-2	121	B-11	R	(I1x I2x I3x C P1 P2 P3 P4x)	♂	成獣
	I-2	褐色土	-	L	M1	磨減少	若獣
	I-3	1560	B-3	L	同一 (P4 M1x M2 M3)	Lのみ焼けている M3第2咬頭まで出る	亜成獣
	I-3	1560	B-3	R	個体 (P4 M1x M2 M3)		
	I-3	褐色土	B-29	L	(P4 M1 M2 M3)	M3第2咬頭まで出る	亜成獣
下顎	I-2	122	B-20	R	(P4 M1 M2 M3)	磨減少	老獣
	I-3	10	B-2	R	(M2 M3)	磨減少	老獣
	I-3	褐色土	B-29	R	(M2 M3)		成獣

表 20 中央トレンチ I-2・I-3 区出土ニホンジカの顎骨・歯の詳細

* 残存位置凡例： () 顎骨残存範囲. x 脱落歯.

部位	地区	層	取り上げ No.	左右	残存位置*	備考	年齢
上顎	I-2	32	B-1	R	M1	3/4 摩滅	若獣
	I-2	115	B-6	L	同一 (P2 P3 P4 M1 M2 M3)	小型・♀?	成獣
	I-2	115	B-6	R			
	I-2	119	B-2	R	M3	磨減少	成獣
	I-2	123	B-1	R	(P3 P4 M1 M2 M3x)	磨減少	成獣
	I-3	1521	B-2	R	(m1 m2 m3 M1 M2)	M1・M2 は不完全萌出	幼獣
	I-3	1532	B-1	R	M1	かなり摩滅	亜成獣?
下顎	I-3	褐色土層 2	B-12	R	M3	3/4 摩滅	亜成獣
	I-2	14	B-3	L	M3?		
	I-2	14	B-7	L	M1	3/4 摩滅. 0.5 歳?	幼獣
	I-2	117	B-3	R	(M2 M3)	M3 不完全萌出. ♀?	亜成獣
	I-2	122	B-13	R	(I1x I2x I3x Cx P2 P3 P4 M1)	磨減少	亜成獣?
	I-2	褐色土上面	-	L	(m3)		幼獣
	I-3	4b	B-2	R	(P4x M1 M2x)	磨減少	成獣
	I-3	5b-8	B-1	L	(P2 P3 P4 M1)	磨減少	成獣
	I-3	5d-2	B-1	L	M3		亜成獣
	I-3	7b	B-10	L	(I1x I2x I3x Cx P2x P3 P4)	磨減少	成獣
I-3	7e	B-4	L	(I1x I2x I3x Cx P2 P3)		成獣?	
I-3	明褐色土	B31	L	(M3)	磨減少	成獣	

2001a] とほぼ同じである。

また I-2 区～ I-3 区において確認されたイノシシ・シカ遺体の多量かつ密集した出土状況は、関東地方の縄文晩期貝塚において、これまでもしばしば確認され「骨塚」などと呼称されてきたものと同じパターンといえる。ただしイノシシ・シカの部位組成については今のところとくに偏った傾向は確認されていない。また、シカ・イノシシの四肢骨には人為的に打ち割られた痕跡（スパイラル・フラクチャー）を示すものが普通にみられた。これらのことから、

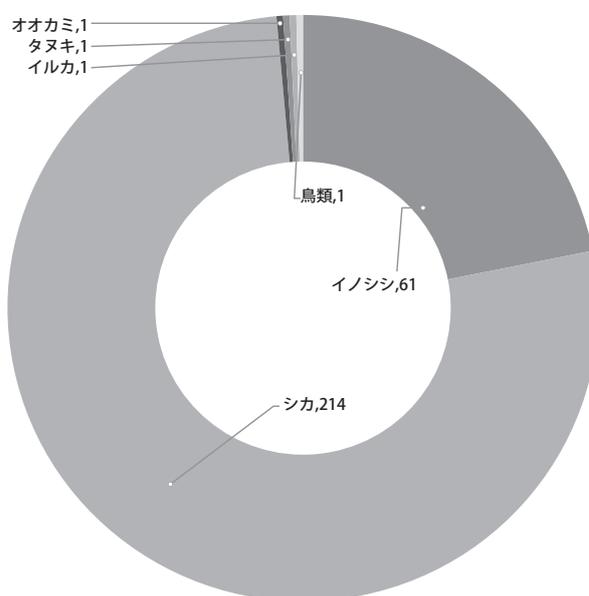


図 111 中央トレンチ I-2・I-3 区出土鳥獣類遺体の組成 (NISP 比). シカの角は除外

表 21 中央トレンチ II-2 区出土イノシシの顎骨・歯の詳細

* 残存位置凡例： () 顎骨残存範囲. x 脱落歯.

部位	地区	層	取り上げ No.	左右	内容	備考	年齢
上顎	II-2	褐色土	B-8	L	P1?		
下顎	II-2	褐色土	B1～15	R	P4		成獣
	II-2	褐色土	B1～15	L	M2		成獣
	II-2	褐色土	-	L	(II I2x I3 C P1 P2 P3 P4 M1 M2 M3)	♀. M3 第 3 咬頭まで磨滅	成獣
	II-2	褐色土	-	R	同一個体 (II I2)		成獣

出土したシカ・イノシシは基本的には通常の食糧残滓の範疇内で理解できるのではないかとと思われる。

一方で、I-2 区～ I-3 区では獣骨が数枚の集中面を形成している可能性がある。このことから、獣骨の廃棄はランダムではなく、ある程度の周期性をもって集中的におこなわれていた可能性が考えられ、日常的な残滓廃棄とは別の要因が関与している可能性についても考慮する必要がある。

(3) II-2・II-3 区

II-2 区のイノシシ・シカの顎骨データのみを表 21 に示した。

(樋泉)

10 魚類遺体

発掘調査では、貝層は堆積状況に応じて細別層に分割採取され、水洗選別（3mm・1mm目フルイ使用）によって骨類が採集されている。今回の分析ではI-2区およびI-3区のkラインの貝層断面図（図54・63）にかかる細別層を対象として、検出された魚骨を同定した。これらのサンプルは発掘された荒海式期貝層の最下部から最上部までを一通りカバーしているので、今回の分析結果は当該時期における魚類遺体の様相をおおむね偏りなくあらわしているとみてよい。

同定対象とした標本は、主上顎骨・前上顎骨・歯骨・角骨・方骨・椎骨の全標本およびその他同定可能な標本である。同定方法は現生標本との比較を原則とした。比較に用いた現生標本は、樋泉の所蔵標本のほか、西本豊弘、小林園子の所蔵標本も参照した。

魚骨の出土量は全般に少なく、本遺跡の縄文晩期後葉における魚類利用は不活発であったことが推測される。とくに最上層の4層・8層からは魚骨がまったく採集されていないことから、貝層形成末期には魚類利用が著しく衰退した可能性も考えられる。

同定の結果、分析対象とした資料からは、板鰓類（エイ・サメ類）1分類群、真骨類8分類群が確認された（表22）。

板鰓類ではアカエイ科の歯が1点同定されたほか、板鰓類とした椎骨についても小型で、エイ類のものである可能性が高い。コイ科の咽頭歯はすべてコイと同定された（「同定不可」とした歯の中にフナの咽頭歯の可能性のあるものが1点みられたが確実でない）。成魚クラスのもものが大半である。コイ亜科（コイまたはフナ）の鱗棘もコイのものである可能性が高い。他にコイ以外のコイ科魚類の歯骨が1点検出されているが、種を特定できていない。ボラ科はいずれも幼魚である。タイ科ではクロダイ属に特有の屈曲した犬歯が確認された。タイ科とした歯については属以下の査定は困難だが、これらもクロダイ属のものである可能性が高い。

表22 荒海貝塚から検出された魚類遺体の種名一覧

軟骨魚綱（板鰓類）	Chondrichthyes (Elasmobranchii)
アカエイ科	Dasyatidae
硬骨魚綱（真骨類）	Osteichthyes (Teleostei)
ニシン科	Clupeidae
カタクチイワシ	<i>Engraulis japonicus</i>
ウナギ属	<i>Anguilla</i>
コイ	<i>Cyprinus carpio</i>
コイ科の一種（コイ以外）	Cyprinidae
ボラ科	Mugilidae
クロダイ属	<i>Acanthopagrus</i>
ハゼ科	Gobiidae

量的な組成についてみると、コイ、ボラ科、クロダイ属を含むタイ科が多くの層から検出されている（表23）。最小個体数ではコイが最も多い。ほかにアカエイ科・ニシン科・カタクチイワシ・ウナギ属・コイ科（コイ以外）・ハゼ科がみられたが、いずれも少数である。

出土量・種類組成に一貫した層位的な変化傾向は認められない（図112）。また、貝類分析から想定されている貝層堆積の季節性に対応するような変化は認められなかった。

（樋泉）

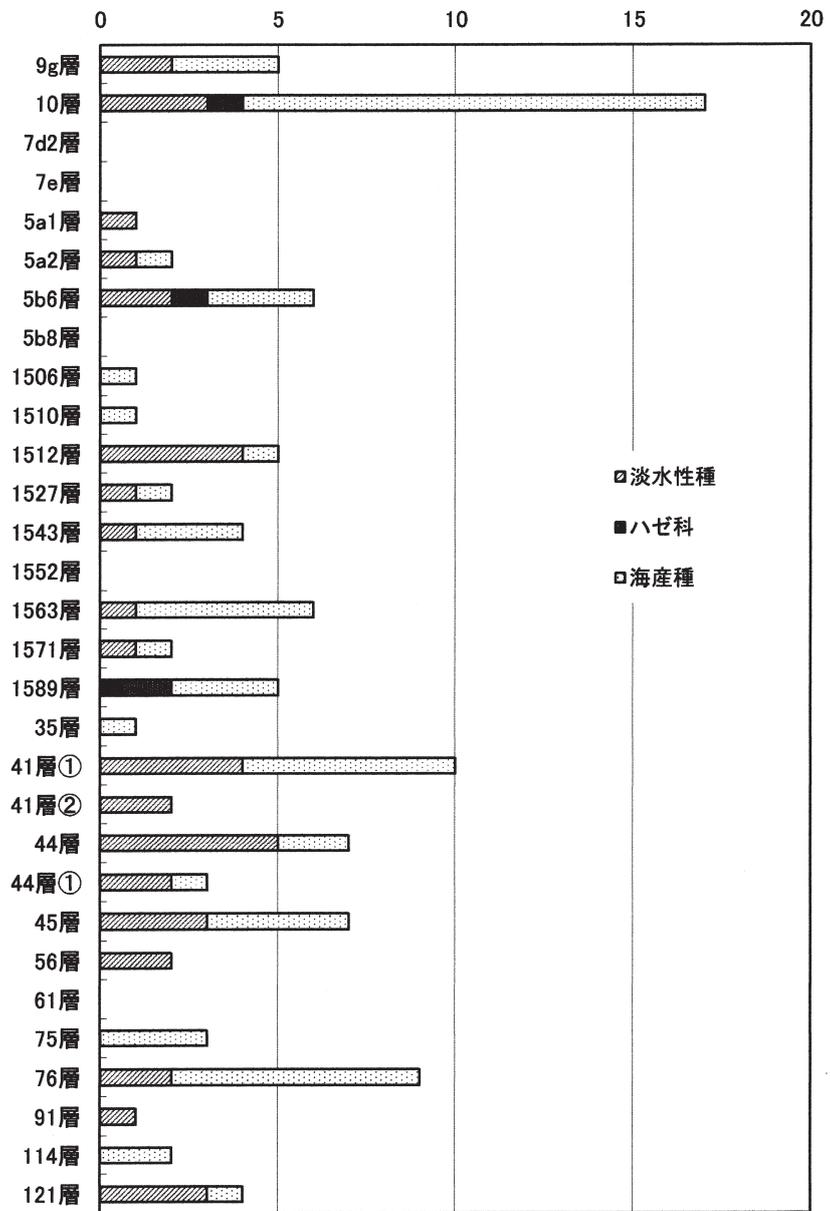


図 112 中央トレンチから検出された魚類遺体の層位変化 (同定標本数)

表 23 中央トレンチ貝層サンプルから検出された魚類遺体

区	層 標準	メッシュ mm	アカエイ科 歯	板鰓類 椎骨	ニシン科		カタクチイワシ		コイ				コイ? 歯骨	コイ亜科 鰭棘	コイ科(その他) 歯骨	コイ科 腹椎	コイ科? 前鰓蓋骨	コイ科? 尾椎	
					腹椎	尾椎	腹椎	尾椎	咽頭歯1	咽頭歯2	咽頭歯3	咽頭歯4							
I - 3	5a1層	3 1												/ 1					
	5a2層	3 1		1												1			
	5b6層	3 1		1							1 /			1					
	5b8層	3 1																	
	10層	3 1							/ 1	1 /				1					
	7d2層	3・1																	
	7e層	3・1																	
	9g層	3 1														1		1	
	1506層	3 1																	
	1510層	3 1		1															
	1512層	3 1		1				1		1 /	2 /								
	1527層	3 1												1					
	1543層	3 1		1						/ 1									
	1552層	3・1																	
	1563層	3 1				1								1					
	1571層	3 1														1			
1589層	3 1																		
I - 2	35層	3 1																	
	41層①	3 1			1					1 /			/ 1	1					
	41層②	3 1										1 /		1					
	44層	3 1			1				1	/ 1		1 /		1		1			
	44層①	3 1										1 /		1					
	45層	3 1										1 /					/ 1		
	56層	3 1												2					
	61層	3・1																	
	75層	3 1																	
	76層	3 1									/ 1			1					
	91層	3 1											1						
114層	3 1						1												
121層	3 1																		
18I - a	1層	4 2 1							/ 1		/ 2			1 1		2			
	合計		1	4	2	1	1	1	0 1 3	3 / 2	3 / 2	4 2 1	0 / 1	14	0 / 1	6	0 / 1	1	

コイ咽頭歯の番号は、外側列を前方より咽頭歯1、咽頭歯2、咽頭歯3、内側を咽頭歯4とした。

区	層 準	メ ッ シ ユ	ボ ラ 科							ク ロ ダ イ 属		タイ 科		ハ ゼ 科				真 骨 類 同 定 不 可	備 考
			mm	主上顎骨	方骨	第1 椎骨	腹椎	尾椎	尾部 棒状骨	鱗	歯	歯	前上顎骨	歯骨	方骨	腹椎	歯		
I - 3	5a1 層	3 1																同定可能標本なし	
	5a2 層	3 1																同定可能標本なし	
	5b6 層	3 1			1	1						1 /			1				
	5b8 層	3 1																同定可能標本なし 資料なし	
	10 層	3 1	1 /			2 2	3 1	1		1	2			1 /		1	4 1		
	7d2 層	3・1																同定可能標本なし	
	7e 層	3・1																同定可能標本なし	
	9g 層	3 1				2	1												
	1506 層	3 1					1											同定可能標本なし	
	1510 層	3 1																同定可能標本なし	
	1512 層	3 1																	
	1527 層	3 1									1							同定可能標本なし	
	1543 層	3 1				1					1				1			同定可能標本なし	
	1552 層	3・1																同定可能標本なし	
	1563 層	3 1									1	3						同定可能標本なし	
	1571 層	3 1									1							同定可能標本なし	
1589 層	3 1				1 2							1 /		1					
I - 2	35 層	3 1					1											同定可能標本なし	
	41 層①	3 1				1	2		1		1								
	41 層②	3 1														1		同定可能標本なし	
	44 層	3 1				1													
	44 層①	3 1									1							同定可能標本なし	
	45 層	3 1					1			1	1								
	56 層	3 1																資料なし	
	61 層	3・1																同定可能標本なし	
	75 層	3 1				1					2							同定可能標本なし	
	76 層	3 1				1		4		1	1						3 1		
	91 層	3 1																同定可能標本なし	
	114 層	3 1		1 /													1		
121 層	3 1						1								1	1	同定可能標本なし		
18I - a	1 層	4 2 1				1				1						1 1			
合計			1 / 0	1 / 0	1	16	15	1	2	4	15	1 / 0	1 / 0	1 / 0	1	4	14		

11 貝類

I-2・I-3区から出土した貝は、ヤマトシジミが100%に近く、そのほかにムラサキガイ、カワアイ、キセルガイ、ウミニナなどを含むが、ごくわずかである。ここでは、ヤマトシジミの殻長の計測と分析結果を述べる。

I-2・I-3区内の最下層から最上層までの各層を、ヤマトシジミの殻長の最小値、最大値、モード、平均値によって分析した(表23)。図54の上段3つの断面図は、I-2、I-3区内に広がる貝層のうち、A、K、Bライン上の層序関係を示したものである。このうちI-2区内では、Kライン上にある126層が最初に形成された貝層で、I-3区内ではKライン上の最下層に位置する1592層が最初に形成された貝層であり、4a層が最後に形成された貝層である。

I-2区からI-3区の西側の最下層に堆積する121、126層(位置はKライン上)では、殻長平均値が31mmと32mmの値を示すものが集中し、127、1563、1535層では、殻長平均値が29mmと30mmの値を示す貝層が集中する。

ところがI-2区の内、121、126層や127、1563、1535層の上に堆積する114、95層の殻長の平均値は、33mmと34mmを示し、さらにその上に堆積する105、115、75、1008、70層では殻長の平均値は35mmと36mmと、下の貝層よりもより殻長が大きなヤマトシジミが主体となった貝層が堆積している。

さらに114、95、105、115、75、1008、70層の上に堆積する76、69、83、57b、61層では殻長の平均値が、27mmと28mmと下層の殻長の平均値と比較すると一挙に5mmも小さなヤマトシジミ

を主体する貝層が集中する。そしてその上に堆積する、79、56、45、41、44層の殻長組成の平均値は25mmと26mmと、今度は下の貝層よりもより小さなヤマトシジミが主体となる傾向がうかがえる。

このように貝層によって、ヤマトシジミの殻長組成の平均値が下層から上層にむかってある一定の傾向がもつという特徴は、I-3区内でも認められる。I-3区内の東よりで、最も下に堆積する1592～1500層、1505層(位置はKライン上上のI-I'ライン)、1003、5d3、5b4層、それに1598層から7e層(Aライン上のI-I'ライン)、やはりI-3区の東よりの1564層～1510層では、ヤマトシジミの殻長平均値が27mmと28mmの値を示す。

ところがその上に堆積する8b、5c、5b2、5a2、7、5a1、10、9e層の殻長平均値は、25mmと26mmに集中し、下層よりも貝が小さくなる傾向がうかがえる。そしてその上の4f、4d、9b層では、殻長の平均値が27mmと28mmと下部の層よりも殻長組

表24 中央トレンチI-2・I-3区出土
ヤマトシジミの殻長

層位	平均値	最小値
1567	31mm	22mm
121	32mm	22mm
3075	31mm	18mm
115	36mm	22mm
114	34mm	18mm
95	34mm	18mm
105	35mm	18mm
75	36mm	18mm
3069	35mm	22mm
3071	34mm	24mm
3050	34mm	18mm
3055	34mm	24mm
3054	32mm	20mm
3048	37mm	18mm

成の平均値が再び大きくなる。そして I-3 区内の最上部に堆積する 4a, 4b 層の殻長平均値は、25mm と 26mm となり、再び殻長組成の平均値が小さくなる傾向が認められる。

このように、I-2・I-3 区内の貝層を殻長組成の平均値でみると、下の層から上の層に推移するにしたがって変化していることが指摘できる。

(西谷)

文献

- 石田守一 2000 「下ヶ戸宮前遺跡」『千葉県の遺跡』980-992 頁, 千葉県。
- 金子浩昌・忍澤成視 1986 『骨角器の研究』縄文篇Ⅱ, 考古民俗叢書 23, 慶友社。
- 鈴木正博 1985 「「荒海式」生成論序説」『古代探叢Ⅱ』83-135 頁, 早稲田大学出版部。
- 西村正衛 1984 『石器時代における利根川下流の研究—貝塚を中心として—』早稲田大学出版部。
- 山田敏史 2001a 「コラムサンプルと動物遺存体の分析」『成田史荒海川表遺跡発掘調査報告書(第2分冊)』21-52 頁, 千葉県。
- 山田敏史 2001b 「骨角製品」『成田市荒海川表遺跡発掘調査報告書』第1分冊, 102-110 頁, 千葉県。
- 渡辺 明・荒海貝塚研究会 1995 「荒海貝塚で新たに発見された「鹿角製儀杖様具」」『利根川』16, 51-54 頁, 利根川同人。